

臨床医学Ⅱ(外科系)(35554)

後期

Clinical Medicine II (Surgery)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

整形外科および消化器外科学の一分野として、肝臓・胆嚢・膵臓の疾患、外科と関連が深い感染症について学び、各領域の主要疾患の概念、病態生理、診断、治療についての概要を学習する。中でも整形外科に関しては、鍼灸の施術を希望する患者が多く、正しい知識を身につけておくことが必要である。日常よく遭遇する肩や腰、腕の痛みなどの原因となる疾患を理解し、適切に鍼灸が適応か否かの鑑別ができるよう知識を深める。

到達目標

国家試験の該当分野(整形外科学・外科学など)関連の問題が解ける知識が習得できる。細かくは

- (1)感染症について説明できる。
- (2)肝・胆・膵疾患について説明できる
- (3)整形外科疾患について説明できる。

評価方法

小テスト1(10%) (到達目標(1)を評価)、小テスト2・3(20%) (到達目標(2)を評価)、小テスト4・5(到達目標(3)を評価)、定期試験(50%) (到達目標(1)～(3)を評価)で成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語や飲食、携帯電話(スマートフォン・タブレット含む)の使用は行わない事。小テストは事前に連絡していた実施日にしか行わないので必ずその日に受験すること。

本科目ははり師きゅう師になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、感染症(A.総論)
第2回	感染症(B.細菌感染症)①
第3回	感染症(B.細菌感染症)②
第4回	感染症(C.ウイルス感染症)①
第5回	感染症(C.ウイルス感染症)②、感染症(D.性感染症)①
第6回	感染症(D.性感染症)② 小テスト1
第7回	肝・胆・膵疾患(A.肝臓疾患)①
第8回	肝・胆・膵疾患(A.肝臓疾患)②
第9回	肝・胆・膵疾患(A.肝臓疾患)③
第10回	肝・胆・膵疾患(A.肝臓疾患)④
第11回	肝・胆・膵疾患(B.胆道疾患)①
第12回	肝・胆・膵疾患(B.胆道疾患)②
第13回	肝・胆・膵疾患(C.膵臓疾患)①

回数	内容
第14回	肝・胆・膵疾患(C.膵臓疾患)②小テスト2
第15回	整形外科疾患(A.総論)
第16回	整形外科疾患(B.関節疾患)①
第17回	整形外科疾患(B.関節疾患)②
第18回	整形外科疾患(C.骨代謝性疾患・骨腫瘍)①
第19回	整形外科疾患(C.骨代謝性疾患・骨腫瘍)②小テスト3
第20回	整形外科疾患(D.筋・腱疾患)①
第21回	整形外科疾患(D.筋・腱疾患)②
第22回	整形外科疾患(E.形態異常)①
第23回	整形外科疾患(E.形態異常)②
第24回	整形外科疾患(F.脊椎疾患)①
第25回	整形外科疾患(F.脊椎疾患)②小テスト4
第26回	整形外科疾患(G.脊髄損傷)①
第27回	整形外科疾患(G.脊髄損傷)②
第28回	整形外科疾患(H.外傷)、整形外科疾患(I.その他の整形外科疾患)①
第29回	整形外科疾患(H.外傷)、整形外科疾患(I.その他の整形外科疾患)②
第30回	整形外科疾患(H.外傷)、整形外科疾患(I.その他の整形外科疾患)③小テスト5

授業外学習

授業外学習時間の目安：合計30時間

予習：授業計画欄に示す教科書のページに目を通し、わからない語句の意味を調べる。気になるキーワードを抜き出す(1時間)

復習：授業でわからなかったところを確認し、教科書を読み理解を深める。授業中に紹介された内容も教科書と照らし合わせ同時に理解する。(1時間)。

教科書

臨床医学各論 第2版|公益法人社団法人東洋療法学校協会編|医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-24168-4

参考書

病気がみえる〈vol.1〉消化器 メディックメディア

病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア

病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 メディックメディア

標準整形外科学(第13版) 医学書院

他講義中に適宜紹介する。

備考

臨床医学Ⅲ(神経・内分泌・頭頸部疾患系) (35403)

前期

Clinical Medicine Ⅲ (neurology, endocrinology, head & neck)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

鍼灸治療の対象となりやすい難治性疼痛や不定愁訴の頭痛・めまい・しびれ等の脳神経系症状を、神経内科のみならず外科系も含めた幅広い分野から理解する。病態・症候を理解し、鍼灸治療の現場で応用できるようにする。また精神科疾患、全身制御系としての神経系と内分泌系、血管系としての循環器系、頭頸部疾患としての眼科、および耳鼻科的疾患についても学ぶ。

到達目標

- 1 各種症候を神経学的、理論的に説明できる。
- 2 内分泌、眼科、耳鼻科、小児科、産婦人科疾患の分類と概要を説明できる。
- 3 はり師、きゅう師、アスレチックトレーナーの資格試験に必要な知識を習得する。

評価方法

筆記試験（小テスト3～5回）（100%）にて評価する。

注意事項

解剖学、生理学を復習しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	内分泌疾患ー下垂体
第2回	内分泌疾患ーその他
第3回	循環器系症候
第4回	循環器疾患ー心臓
第5回	循環器疾患ー脈管
第6回	筋肉神経疾患
第7回	末梢神経疾患
第8回	中枢神経疾患ー脳
第9回	中枢神経疾患ー脊髄
第10回	脳神経外科疾患
第11回	麻酔科
第12回	小児科・皮膚科疾患
第13回	婦人科疾患
第14回	眼科・耳鼻科疾患
第15回	精神科疾患

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

毎回の講義の復習をするとともに、次回講義の予習に必要な課題を出すのでよく理解しておくこと。

教科書

生理学 | 東洋療法学校協会 | 医歯薬出版 | 978-4263241721

解剖学 | 東洋療法学校協会 | 医歯薬出版 | 978-4263242070

臨床医学総論 | 東洋療法学校協会 | 医歯薬出版 | 9784263241714

臨床医学各論 | 東洋療法学校協会 | 医歯薬出版 | 9784263241684

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

スポーツトレーニング実習 (35256)

後期

Sports Training

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	●猪木原孝二 ●荒木直彦 ●枝松千尋 ●椎葉大輔

授業の概要

スポーツトレーニング理論で学習したトレーニング方法について、実際に実習経験することでトレーニング方法及び指導方法を理解させる。

【アクティブラーニング】グループごとにトレーニング方法を考え、ディスカッションし、最終的には実践する。

【フィードバック】トレーニングメニューやフォームなどについてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1「スポーツトレーニングの種類を把握し、その目的を認識できる。更に個人個人に合った指導方法を理解し、実際に指導できる。」

評価方法

授業に取り組む姿勢(50%)、習熟度、課題研究(50%)で評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

欠席をしないこと。(オムニバス方式で実施する。)

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション(猪木原)
第2回	スポーツトレーニングとは(猪木原)
第3回	スポーツトレーニングの必要性和安全管理(猪木原)
第4回	筋肉の発達と特性(枝松)
第5回	総体的筋力トレーニングと実習(自重負荷, マシン及びバーベル負荷) ウェイトトレーニング(枝松)
第6回	瞬発的筋力トレーニングと実習(自重負荷, マシン及びバーベル負荷) ウェイトトレーニング(枝松)
第7回	持久的トレーニングと実習(マシン及びバーベル) ウェイトトレーニング(枝松)
第8回	呼吸器の構造と特性(有酸素トレーニング)(椎葉)
第9回	持久的トレーニングと実習(ウォーキングとジョギング)(椎葉)
第10回	持久的トレーニングと実習(インターバルトレーニング)(椎葉)
第11回	持久的トレーニングと実習(レペティショントレーニング)(椎葉)
第12回	コンディショニングと軽スポーツ(荒木)
第13回	運動能力の評価判定(荒木)
第14回	補強トレーニング 各種体操とサーキットトレーニング(荒木)
第15回	トレーニング方法の発表(まとめ)(荒木)

授業外学習

学習したトレーニング方法を使って各自トレーニングを週2回（1回1時間）以上行うこと。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

備考

トレーニング実習 (35453)

後期

Training

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 荒木直彦 👤 三宅洋之

授業の概要

社会生活における健康の保持・増進のための身体トレーニングはQLOの基盤となる重要な要素の一つである。安全性、健全性を担保された適切なトレーニングの実践、指導に関して、トレーニング理論で学習した各種トレーニング方法を実施し、トレーニングの持つ意味、目的、そして生体に与える効果を実習から学ぶ。

到達目標

各種トレーニング方法についての基礎知識を習得し、実践する。

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)、課題レポート(30%)、小テスト(50%)で総合的に評価する。

注意事項

実習中に指示する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション(荒木)
第2回	トレーニング実習I(陸上および水中(シミュレーション)でのレペティション、インターバル)(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第3回	トレーニング実習II(陸上および水中(シミュレーション)でのサーキット、ヒルト)(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第4回	トレーニング実習III(陸上および水中(シミュレーション)トレーニング時の生理応答評価)(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第5回	トレーニング実習IV(年齢に応じた陸上および水中(シミュレーション)トレーニング)(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第6回	最新トレーニング理論・実習I(陸上および水中(シミュレーション)での高強度間欠トレーニング(1))(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第7回	最新トレーニング理論・実習I(陸上および水中(シミュレーション)での高強度間欠トレーニング(2))(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第8回	体カトレーニングI(器具を用いない方法、自重、水抵抗(シミュレーション)(1))(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第9回	体カトレーニングI(器具を用いない方法、自重、水抵抗(シミュレーション)(2))(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第10回	トレーニング計画の理論(陸上運動・水中運動)(荒木・三宅・外部講師:藤山)
第11回	トレーニング計画の作成・実施(陸上運動・水中運動)(荒木)
第12回	トレーニング計画の作成・実施(陸上運動・水中運動)(荒木)
第13回	トレーニング計画の作成・実施(荒木)
第14回	トレーニング計画実施に関する課題検討(荒木)
第15回	レポート作成・提出(荒木)

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

課題レポートは、講義テーマ毎に提示したものを作成し、授業最終回に提出する。（20時間）

各種トレーニング方法に関連する情報（ポイントや注意点、発展的な方法等）をまとめる。（10時間）

教科書

なし。

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ

健康運動実践指導者テキスト

備考

バイオメカニクス演習（35661）

後期

Study of Biomechanics

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～22 W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

バイオメカニクスでは、科学的な視点から身体動作を理解するための基礎知識を学んだ。本演習では、実際のスポーツや健康運動の現場での身体動作を題材に、高速度ビデオカメラ等の計測機器や分析装置を用いて、身体動作の記録、解析、そしてフィードバックまでを行うことを目指す。

到達目標

- 1 機器の基本的操作方法を理解し、使用できる。
- 2 スポーツ現場での身体動作の記録から解析、そしてフィードバックまでの流れを理解し説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢等の平常点（60%）、課題（40%）で評価する。

注意事項

バイオメカニクスを受講しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	身体重心の計測（1）
第3回	身体重心の計測（2）
第4回	身体動作の計測法
第5回	力の計測法
第6回	関節モーメントの解析（1）
第7回	関節モーメントの解析（2）
第8回	力学的エネルギー・仕事・パワーの解析（1）
第9回	力学的エネルギー・仕事・パワーの解析（2）
第10回	実際のスポーツ現場での身体動作の記録方法
第11回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（1）
第12回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（2）
第13回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（3）
第14回	実際のスポーツ現場での身体動作のフィードバック
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・毎回課題を出すので、教科書を参考に各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

スポーツバイオメカニクス20項|阿江 通良・藤井 範久|朝倉書店|978-4-254-69040-8

参考書

プリント等配布

備考

健康運動のプログラミング (35513)

前期

Programing of Health Fitness

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動プログラムの作成は健康運動指導者として必須の専門的知識である。本講義は、体力の保持増進に関与する運動処方、各種疾患に対する運動処方、また生活習慣病予防としての運動処方などについて具体的な健康運動の立案、プログラミングを行い実際に実行する。【アクティブラーニング】根拠に基づいた運動処方を身につけるため、先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、他の先行報告の紹介を交え、説明・指導する。

到達目標

- 「運動による健康増進メカニズムについて理解する」
- 「原理原則に則った運動プログラムの作成法を習得する」
- 「先行報告について調査を通じて、健康運動分野の学術論文から情報を獲得することができる」

評価方法

小テスト 20点 (到達目標 1)、プレゼンテーション 40点 (到達目標 2, 3) およびプレゼンテーションに対するディスカッションの評価 40点 (到達目標 2, 3) で総合的に評価する。

注意事項

本講義は、健康運動に関する資料等のまとめ、プレゼンテーション、議論を行うので時間外学習を十分に行うことが重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション (運動と健康、スポーツプログラマーの役割)
第2回	運動処方の一般的原則とトレーニングの原則
第3回	健診結果の読み方および効果の判定 (1)
第4回	健診結果の読み方および効果の判定 (2)
第5回	トレーニングの構成内容I (子供のプログラム)
第6回	トレーニングの構成内容II (壮年のプログラム)
第7回	トレーニングの構成内容III (女性のプログラム)
第8回	心電図と心拍数の測定と判断 (心肺機能のフィットネス)
第9回	フィットネストレーニングのプログラミングと実習
第10回	運動プログラム作成の理論 (1)
第11回	運動プログラム作成の理論 (2)
第12回	運動処方案の作成 (プログラミング)
第13回	諸疾患に対する運動プログラミングと実習
第14回	服薬者の運動プログラム作成上の注意点
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計80時間

授業内で健康運動に関わる学术论文をまとめ、プレゼンテーションを行う。当該論文について、授業時間外で熟読し、まとめ、発表資料を作成すること（20時間）。また、毎授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので、復習だけでなく予習も行うこと（4時間）。

教科書

健康運動実践指導者養成テキスト（健康・体力づくり事業財団、購入方法については授業内で説明）

参考書

講義中に紹介する。

備考

エアロビエクササイズ実習 (35208)

前期

Training of Aerobics

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	2.0単位
担当教員	菊本晃司 枝松千尋

授業の概要

健康づくりを目的としたエアロビクスエクササイズの実施・指導方法に必要な知識と技能を習得する。

安全性と効率性に配慮した運動プログラムの作成と目的や対象者に合った実施方法・指導方法の技能を学ぶ。

【アクティブラーニング】 運動プログラムの作成・実施にあたり、グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（リード）を取り入れている。

【フィードバック】 鏡およびICTを用いたフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 健康運動の指導者として、ハイレベルなエアロビクスエクササイズ指導ができることを目指す。
- 実習が安全でスムーズに行えるように機敏な行動や適切な声かけが実践できる。

評価方法

実習に取り組む姿勢（30%）（到達目標1）

実技テスト（50%）（到達目標2）

レポート（20%）（到達目標3）

上記の評価方法によって到達目標の達成度を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

健康運動実践指導者・健康運動指導士・保健体育教師を目指す学生を対象とする。（それ以外の学生は基本的には履修を認めない）

学外のエアロビクスエクササイズイベントに参加する。（参加費・交通費は自己負担）

保健体育教師を目指す学生は創作ダンスに関する特別講座に参加する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション及びエアロビクスエクササイズの体験（菊本・枝松）
第2回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（1）（ジョギング・ウォーキング）（菊本・枝松）
第3回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（2）（菊本）
第4回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（3）（菊本）
第5回	エアロビクスエクササイズの運動プログラム構成（菊本）
第6回	エアロビクスエクササイズ実施前の注意点（菊本）
第7回	エアロビクスエクササイズのためのウォーミング・アップ（菊本）
第8回	運動強度の調節と動作の構成（1）（ジョギング・ウォーキング）（菊本・枝松）
第9回	運動強度の調節と動作の構成（2）（菊本）
第10回	主運動の構成（菊本）
第11回	対象者に合わせた実施方法と指導中の心得（菊本）
第12回	クール・ダウンの実施方法（菊本）
第13回	運動プログラムの全体的構成（初級者を対象として）（菊本）

回数	内容
第14回	運動プログラムの全体的構成（中級者を対象として）（菊本）
第15回	まとめ（菊本・枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

予習として、各種ステップの技術ポイントを毎回十分に学習しておくこと。
復習として、授業で習った技術を次週まで十分に反復練習し習得すること。
模擬指導については、各自でプログラム作成後、予行演習を十分に行っておくこと。
学外のエアロビクスエクササイズイベントに参加する。

教科書

実習中に指示する。

参考書

実習中に指示する。

備考

応用演習 (35660)

通年

Applied Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～22W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

1～3年次で学習した事項を整理し、はり師・きゅう師国家試験対象科目について再学習を行う。主に「解剖学」「生理学」「病理学」「公衆衛生学」「東洋医学概論」「経絡経絡」「はり・きゅう理論」等について知識の整理を行う。また、医療人として必要な倫理観や社会性を身に付けさせる。

到達目標

- (1)国家試験の合格に必要な「解剖学」「生理学」を理解している。
- (2)国家試験の合格に必要な「病理学」を理解している。
- (3)国家試験の合格に必要な「公衆衛生学」を理解している。
- (4)国家試験の合格に必要な「東洋医学概論」を理解している。
- (5)要穴表に書かれてある経穴について名称、取穴部位、関連する筋肉・神経を覚えている。
- (6)主要部位（背部、腹部、顔面）の経穴の名称、取穴部位を覚えている。
- (7)国家試験の合格に必要な知識を網羅している。
- (8)医療人として必要な倫理観や社会性を身に付けている。

評価方法

中間試験と期末試験（どちらも到達目標（1）～（8）を評価）のどちらかの結果が、得点率60%以上になった場合に合格とする。

注意事項

中間試験・定期試験の内容及び問題数は、はり師・きゅう師国家試験に準じる。
授業毎に実施する小テストに合格できなかった場合は、試験内容に沿った課題の提出を求める。
課題の提出が遅れる場合や、小テストを受験できない場合は必ず担当教員に連絡すること。
「国家試験に合格する」という目的意識を持って履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	国家試験関連科目「解剖学」「生理学」「病理学」「公衆衛生学」「東洋医学概論」「経絡経穴概論」「はりきゅう理論」の理解度確認テスト
第2回	「解剖学」「生理学」の知識整理と小テスト（1）
第3回	「解剖学」「生理学」の知識整理と小テスト（2）
第4回	経絡経穴の知識整理 要穴
第5回	「病理学」「公衆衛生学」の知識整理と小テスト（1）
第6回	「病理学」「公衆衛生学」の知識整理と小テスト（2）
第7回	経絡経穴の知識整理 神経・血管
第8回	「東洋医学概論」「はりきゅう理論」の知識整理と小テスト（1）
第9回	「東洋医学概論」「はりきゅう理論」の知識整理と小テスト（2）
第10回	経絡経穴の知識整理 筋肉
第11回	国家試験全科目の知識整理（1）国家試験前半の範囲を中心に
第12回	国家試験全科目の知識整理（2）国家試験後半の範囲を中心に

回数	内容
----	----

第13回	国家試験全科目の知識整理（3）
------	-----------------

第14回	中間試験
------	------

第15回	まとめ
------	-----

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：関連する教科書のページに目を通し、わからない語句を自分で辞書を引いて調べる。毎回経絡経穴の小テストに備えて必要な事柄を理解し、覚える。(2時間)

復習：授業でわからなかったところを確認し、関連する教科書を読み理解を深める。または、授業中に配布された資料を確認する。小テストを見直す。(2時間)。

教科書

講義で資料を配布する。

参考書

国家試験問題(解剖学・生理学)10年間解説と解答 令和2年版 | 犀書房 | 978-4908172076

2020第17回~第27回 徹底攻略! 国家試験過去問題集 はり師きゅう師用 | 医道の日本社 | 978-4752951889

他、東洋療法学校協会で定める教科書すべて。

備考

ゼミナール (35605)

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	4.0単位
担当教員	内藤整

授業の概要

当研究室は、健康で快適な人間生活のために植物を有効利用するための研究を行っている。3年次のゼミナールでは4年次で行う卒業研究の前段階として、植物栽培の体験、学術論文の紹介、討論などを行い、植物利用上の問題点について明らかにする。

【アクティブラーニング】農家の圃場でイネの栽培を体験する。また、研究テーマの決定に際してはグループディスカッションを行う。

到達目標

1. 実験に用いる植物の栽培ができる。
2. 実験で使用する機器の操作、植物生長の測定・解析ができる。
3. 現在までの研究の状況を把握し、4年次に行う卒業研究のテーマを明確にする。

評価方法

授業態度50%（到達目標1,2を評価）、提出物の内容50%（到達目標2,3を評価）によって評価する。

注意事項

当研究室では研究対象として植物を扱っている。そのため、規定の日時以外にもその管理・育成に努める必要がある。また、植物の栽培を学ぶため、倉敷市内の農地において学外実習を行う。

授業計画

前期には、植物の栽培を行い、植物の生理生態についての理解を深める。また、植物成長の測定などの実験手法、測定機器の取り扱い方法についても学ぶ。

後期には、「植物の栽培方法の改善」、「植物のストレス耐性メカニズム」、「植物資源の有効利用」など研究室で取り組む課題の中から、各自興味のある分野についての情報収集、学術論文の紹介、討論などを通じて自らの研究テーマを明確にする。

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

- ・ 実験植物の栽培管理。
- ・ 機器の取り扱いマニュアルを読み、使用方法を理解しておく。
- ・ 実験レポートの作成。
- ・ 論文の検索とレジュメの作成

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

「植物栄養実験法」博友社、日本作物学会紀事、Plant Production Science、Tropical Agriculture and Development、SAGO PALM 他適宜案内する。

備考

ゼミナール (35605)

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	4.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

人体の構造と機能、病理学等の基礎医学の理解および救急疾患の病態生理について学び、実際の症例を題材に症候の発症機序、病態生理、理論的対処法について検討する。

到達目標

基本的な人体の構造と機能に関して他者に説明できる。症例から理論的に診断、治療法を挙げることができる。

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（50%）及びレポート（50%）により総合的に評価する。

注意事項

自分で資料を探し出す能力を高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	基礎医学の理解 1（体液血液）
第3回	基礎医学の理解 2（呼吸循環系）
第4回	基礎医学の理解 3（代謝内分泌系）
第5回	基礎医学の理解 4（神経系）
第6回	血液疾患の病態生理の理解
第7回	呼吸器疾患の病態生理の理解
第8回	循環器疾患の病態生理の理解
第9回	消化器疾患の病態生理の理解
第10回	泌尿器疾患の病態生理の理解
第11回	代謝疾患の病態生理の理解
第12回	内分泌疾患の病態生理の理解
第13回	中枢神経疾患の病態生理の理解
第14回	末梢神経疾患の病態生理の理解
第15回	免疫系疾患の病態生理の理解
第16回	症例検討会 呼吸不全
第17回	症例検討会 心不全
第18回	症例検討会 ショック
第19回	症例検討会 重症脳障害

回数	内容
第20回	症例検討会 心肺停止
第21回	症例検討会 意識障害
第22回	症例検討会 失神
第23回	症例検討会 胸痛
第24回	症例検討会 腹痛
第25回	症例検討会 吐血下血
第26回	症例検討会 腰背部痛
第27回	症例検討会 環境障害
第28回	症例検討会 外傷
第29回	症例検討会 中毒
第30回	レポート提出

授業外学習

毎回討論のための予備学習をしておくこと。

学習時間の目安：合計60時間

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

ゼミナール (35605)

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	4.0単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

当研究室では、運動などのストレスが生体に与える影響について、免疫学的観点から検討している。ゼミナールでは研究テーマに基づいて、分子生物学的手法を用いた実験を行い、卒業研究の基礎となる中間報告（レポート）としてまとめることを目標とする。【アクティブラーニング】生理学および分子生物学的手法を用いて、研究対象を分析を学生が主体的に実施する。【フィードバック】実験により得られた結果と先行研究との差異について解説する。

到達目標

- 「生理学および分子生物学の基本手法を実施できる」
- 「実験を通じて観察した現象について、論理的に説明できる」

評価方法

取り組み姿勢（80%）およびレポート（50%）により総合的に評価する。

注意事項

生体試料を対象とすることから、規定時間外の実験が行われることがある。

授業計画

<前期>

- ・オリエンテーション
- ・動物実験倫理に関する講義
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画立案
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会

<後期>

- ・オリエンテーション
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会
- ・レポート作成
- ・プレゼンテーション

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

他大学などの研究施設で実験を行うことがある。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	4.0単位
担当教員	✎ 箕口けい子

授業の概要

鍼灸といっても様々な研究対象があるが、当研究室では(1)社会貢献と鍼灸に関する分野および(2)お灸に関する分野について研究を行っている。3年次のゼミナールでは4年次で行う卒業研究の前段階として、(1)と(2)に関する学术论文の紹介や討論を行い、問題点を探る。また(2)においては基礎実験を行い、機械の操作方法やデータの分析方法を身につける。

到達目標

- (1)教員の指導や学生同士での共同作業によってより深く鍼灸に興味を持てる。
- (2)基礎的な実験方法や機械の操作方法、データの分析方法を身につけることができる。
- (3)文献購読を通じて、思考力、文章要約力を向上させる。

評価方法

取り組む姿勢60% (到達目標 (1)～(2)を評価) およびレポート40% (到達目標 (3)を評価) により成績を評価し得点率60%以上を合格とする。

注意事項

取り組む研究によっては、規定時間外に行うこともある。また、複数人で取り組む場合もあるので協力して行うこと。

授業計画

回数	内容
第1回	前期オリエンテーション
第2回	研究テーマの検討
第3回	研究テーマの検討
第4回	文献講読、研究テーマの選択
第5回	文献講読、研究テーマの選択
第6回	文献講読、研究テーマの選択
第7回	文献講読、研究テーマの選択
第8回	文献講読、研究テーマの選択
第9回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第10回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第11回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第12回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第13回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第14回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第15回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第16回	後期オリエンテーション

回数	内容
第17回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第18回	文献講読、研究テーマに沿った基礎実験または調査、文献検索
第19回	データの分析方法
第20回	データの分析方法
第21回	データの分析方法
第22回	データの分析方法
第23回	データ整理および解析
第24回	データ整理および解析
第25回	データ整理および解析
第26回	データ整理および解析
第27回	レポート作成
第28回	レポート作成
第29回	レポート作成
第30回	レポート作成および提出

授業外学習

学内外の図書館などを利用し、関連する情報を集めるなど積極的に自己学習を行う。その他、具体的な内容や方法については授業中に詳しく指示する。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

ゼミナール (35605)

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～22W
単位数	4.0単位
担当教員	遠藤宏

授業の概要

当研究室は、鍼灸治療の科学化（ツボ・経絡の客観化）についての研究をおこなう。3年次のゼミナールでは4年次で行う卒業研究の前段階として、さまざまな測定機器の使用法を習得する。さらに関連する学術文献の検索・抄読・討論などをおこない、研究テーマについての問題点を明らかにする。

到達目標

1. 研究に使用する機器類の操作ができる。
2. 習得する測定データの解析法が理解できる。
3. 4年次に行う卒業研究のテーマを明確にする。

評価方法

授業態度（到達目標1, 2）50%、研究レポートの内容（到達目標3）50%によって評価する。

注意事項

当研究室では正確な測定データを必要とする。そのため測定の実際には十分な準備・管理に努める必要がある。

授業計画

前期には、生理機能測定（重心動揺・指尖脈波・瞳孔径など）、および東洋療法的な測定（ツボ探索<皮膚通電抵抗>・良導絡・圧痛・筋硬度など）についての理解を深め、測定機器の取り扱い方法についても学ぶ。

後期には、研究室で取り組む課題の中から、各自興味のある分野についての情報収集、学術文献の紹介、討論などを通じて自らの研究テーマを明確にする。

授業外学習

機器の取り扱いマニュアルを熟読し、使用方法を理解しておく。

国内外の学術文献の検索方法を調べる。

研究レポート（研究プロトコル）を作成する。

教科書

使用しない。プリント文献などを配布する。

参考書

適宜案内する。

備考

医療福祉論 (35662)

後期

Theory of Medical and Welfare

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～24W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

社会保障制度の基礎知識や鍼灸師としての職業倫理について学ぶ。鍼灸師は治療技術を学ぶことも重要であるが、免許取得後すぐに開業することが可能なため、現行の社会保障制度と医療の役割を理解し、鍼灸をマネジメントするための課題や鍼灸師の役割について考える。

到達目標

- (1) 社会保障制度について、法律・制度を体系的に理解し、基本的知識を習得する。
- (2) 鍼灸の需要と供給、ならびに地域医療として鍼灸師の社会における役割を理解する。
- (3) 保健・医療・福祉など他の関連職域の役割について理解を深め、地域包括支援を実践するための多職種連携の意義・動向を理解する。

評価方法

定期試験40%（到達目標（1）を評価）とレポート60%（到達目標（2）（3）を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語・飲食禁止。原則として携帯電話（スマートフォン・タブレット含む）の使用は行わない事。但し、授業中指示があった場合のみ使用可とする。

本科目の内容には、これからのはり師きゅう師に必要な項目が含まれるため、目的意識を持って履修すること。

レポートは体裁、提出期限を守る事。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンスとオリエンテーション
第2回	社会保障制度（1）総論
第3回	社会保障制度（2）年金制度について
第4回	社会保障制度（3）保健制度について
第5回	社会福祉制度（1）
第6回	社会福祉制度（2）（外部講師・箕口）
第7回	社会保険制度
第8回	鍼灸医療の職業倫理
第9回	鍼灸医療のリスクマネジメント（1）
第10回	鍼灸医療のリスクマネジメント（2）（外部講師・箕口）
第11回	多職種との連携（1）（外部講師・箕口）
第12回	多職種との連携（2）（外部講師・箕口）
第13回	鍼灸院の経営（1）（外部講師・箕口）
第14回	鍼灸院の経営（2）（外部講師・箕口）
第15回	まとめ

授業外学習

予習：新聞やテレビ、インターネットなどのニュースをチェックし、社会保障制度や医療・鍼灸に関することは記録し、授業内で発表の場があるときに積極的に答えられるよう自分の意見をまとめる。また、配布資料によく目を通す。（2時間）

復習：前回の授業内容について自分で考え、意見が出せるようにする。提出課題がある場合は課題に取り組む。（2時間）

教科書

講義で資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

客観的臨床能力評価 (35659)

後期

Objective Structured Clinical Examination

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～24 W
単位数	1.0単位
担当教員	遠藤宏 箕口けい子

授業の概要

附属臨床施設での実習に入る前に、医療面接から刺鍼、施灸まで治療の全体的なトレーニングを行う。診察から施術までの基本的技能および態度について、客観的な評価 (OSCE)を行い、鍼灸治療所実習に必要な臨床能力を身につける。

【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- (1) 医療従事者としてのマナーやモラルを身につけ、患者の苦痛等に配慮することができる。
- (2) 診察に必要な医療面接を適切に行い、情報収集する基本能力を身につける。
- (3) 現代医学的、東洋医学的な身体観察を適切に行うことができる。
- (4) 身体検査等の測定する能力を身につける。
- (5) インフォームドコンセントができる。
- (6) 治療に必要な取穴・刺鍼・施灸までスムーズにできる。

評価方法

授業に取り組む態度40% (到達目標 (1)～(6)を評価)、小テスト(20%) (到達目標 (4) (6)を評価)、OSCE40% (到達目標 (1)～(6)を評価)により成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語や飲食、携帯電話(スマートフォン・タブレット含む)の使用は行わない事。小テストは事前に連絡していた実施日にしか行わないので必ずその日に受験すること。

本科目ははり師きゅう師に必要な臨床に関する基本事項を取り上げている。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

総合点が60%以下の者は「鍼灸治療所実習 I」の履修ができないので注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	医療面接・トレーニング・ディスカッション (1) (遠藤・箕口)
第2回	医療面接・トレーニング・ディスカッション (2) (遠藤・箕口)
第3回	身体診察・トレーニング・現代医学 (1) (遠藤)
第4回	身体診察・トレーニング・現代医学 (2) (遠藤)
第5回	身体診察・トレーニング・現代医学 (3) (遠藤)
第6回	身体診察・トレーニング・現代医学 (4) (遠藤)
第7回	身体診察・トレーニング・東洋医学 (1) (箕口)
第8回	身体診察・トレーニング・東洋医学 (2) (箕口)
第9回	身体診察・トレーニング・東洋医学 (3) (箕口)
第10回	身体診察・トレーニング・東洋医学 (4) (箕口)
第11回	医療面接～治療 トレーニング・ディスカッション (1) (遠藤・箕口)

回数	内容
第12回	医療面接～治療 トレーニング・ディスカッション（2）（遠藤・箕口）
第13回	OSCE（遠藤・箕口 他）
第14回	OSCE（遠藤・箕口 他）
第15回	OSCE（遠藤・箕口 他）

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

予習：関連する教科書のページに目を通し、わからない語句を自分で辞書を引いて調べる。小テストに備えて必要な事柄を理解し、覚える。
(0.5時間)

復習：授業でわからなかったところを確認し、関連する教科書を読み理解を深める。または、授業中に配布された資料を確認する。小テストを見直す。(0.5時間)。

教科書

丹澤章八 | 「医療面接」 | 医道の日本社 | ISBN:978-4-7529-1099-2

東洋療法学校協会編 | 『臨床医学総論 第2版』 | 医歯薬出版 | 978-4-263-24171-4

東洋療法学校協会編 | 『新版 東洋医学概論』 | 医道の日本 | ISBN:978-4-7529-5173-5

東洋療法学校協会編 | 『新版 経絡経穴概論 第2版』 | 医道の日本 | ISBN:978-4-7526-5160-5

参考書

『解剖学』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

『生理学』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

他適宜紹介する

備考

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、基本的な人体の構造を理解するとともに、運動器としての骨格、靭帯、腱、関節、筋肉を機能的解剖学という観点から理解することをねらいとしている。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

機能解剖についての専門用語を憶え、意義、目的を理解し、説明できる。各部位ごとの筋肉の機能および解剖を理解し、説明できる。現場で実践できるよう知識を高める。

- 動きの基本面について理解し、説明できる。
- 脊柱の動きについて理解し、説明できる。
- 肩関節、肘関節、股関節、膝関節の動きについて理解し、説明できる。

評価方法

授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト、定期試験等により総合的に評価する。

評価の比率は、授業に取り組む態度、姿勢10%、レポート・小テスト等50%、定期試験40%

定期試験をしない場合は平常点20%、レポート・小テスト等80%

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。定期試験の再試はしない。

宿題等は毎回出します。自宅で解剖学用語を覚えること。随時、授業開始時に小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（機能解剖学とは）
第2回	基礎 動きの平面、骨、軟骨、関節、靭帯、筋
第3回	頭部、顔面
第4回	頸部
第5回	上肢I 上肢の骨、関節、筋、血管神経
第6回	上肢II 肩関節、上腕
第7回	上肢III 肘、前腕
第8回	上肢IV 手
第9回	体幹I 脊柱
第10回	体幹II 胸部、腹部、骨盤
第11回	下肢I 下肢の骨、関節、筋、血管神経
第12回	下肢II 股関節、大腿

回数	内容
第13回	下肢Ⅲ 膝関節、下腿
第14回	下肢Ⅳ 足
第15回	まとめ

授業外学習

毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
- ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

ボディ・ナビゲーション ムーブメント 医道の日本社
ISBN:978-4-7529-3110-2

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）

備考

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	枝松千尋 吉田悦男

授業の概要

健康管理の目的は、人々が健康で長寿を全うできるように諸条件を社会が確立することである。本講義では健康管理における重要な問題について毎回異なるテーマをとりあげ説明する。そして、実際に地域で行われている健康管理活動について学ぶ。

【アクティブラーニング】グループ毎にジョギングを行うことで、グループ全員が目標を達成するための方策をグループごとに話し合う。

【フィードバック】スマホアプリを用いてジョギング実施状況を共有し、健康管理の観点からフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 健康づくりの指導者として必要な知識を習得する。
- 健康管理の習慣を身に付ける。

評価方法

試験（小テスト）（40%）、レポート（40%）（到達目標1）および授業に取り組む姿勢（20%）（到達目標2）で総合的に評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

健康管理としての健康づくり運動の実践として、近年ブームとなっている市民マラソンに参加予定である。参加費は自費である。

授業計画

回数	内容
第1回	健康の概念（吉田・枝松）
第2回	健康の現状（吉田・枝松）
第3回	健康増進の施策（吉田・枝松）
第4回	健康づくりの課題（吉田・枝松）
第5回	健康づくりの実際：運動、栄養（吉田・枝松）
第6回	健康づくりの実際：飲酒、喫煙（吉田・枝松）
第7回	健康管理の方法（吉田・枝松）
第8回	母子保健（吉田・枝松）
第9回	学校の健康管理（吉田・枝松）
第10回	職場の健康管理（吉田・枝松）
第11回	地域における健康管理（1）（吉田・枝松）
第12回	地域における健康管理（2）（吉田・枝松）
第13回	地域における健康と介護予防（1）（吉田・枝松）
第14回	地域における健康と介護予防（2）（吉田・枝松）
第15回	地域における健康と介護予防（3）（吉田・枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回、次回講義の予習に必要な課題を出すので、復習とともにしっかり勉強しておく（60分）。

自分自身の健康づくり運動として10km/週以上（90分以上）のジョギングを行い、健康管理の実践と習慣付けを行う。

教科書

資料を配布する

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 梶原彰子

授業の概要

急速に変化していく社会生活の中で、よりよく生きていくために心の健康を維持することは不可欠である。この講義では社会生活における心の健康や心の病についての基礎知識を学ぶ。また、自身の心の健康に興味を持ち、健康な心の維持を援助するために家庭、学校・職場等で展開されているメンタルヘルス活動について学ぶ。

到達目標

- 1 心の健康や心の病についての基礎知識を理解する。
- 2 自身の心の健康について関心を持つ。
- 3 心の病やその予防について必要な対処法を身につける。

評価方法

集中講義であり、より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、欠席、遅刻、途中退出の扱い等に関する留意点をまとめた初回講義で配布する「オリエンテーション」を熟読し、遵守すること。初回到座席指定するため、指定の席に座ることが出席の条件です。態度・姿勢（50%）、課題（20%）、テスト等（30%）等により総合的に評価する。

注意事項

授業内で指定する準備物は忘れず活動に参加できません。必ず持参してください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・メンタルヘルスとは？
第2回	大学生に知ってほしいメンタルヘルス
第3回	災害時のメンタルヘルス
第4回	依存のメンタルヘルス
第5回	こころと行動の発達①（乳幼児期）
第6回	こころと行動の発達②（学童期）
第7回	こころと行動の発達③（思春期・青年期・成人期）
第8回	こころと行動の発達④（中年期・老年期）
第9回	こころの病とメンタルヘルス①（気分が落ち込むとき）
第10回	こころの病とメンタルヘルス②（こころが病むとき）
第11回	こころの病とメンタルヘルス③（さまざまな病気）
第12回	こころの病とメンタルヘルス④（こころの病の治療とは）
第13回	ストレスとメンタルヘルス
第14回	働く人のメンタルヘルス
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各回の授業時に課題（小レポートや感想）を提示する。最終日にはテスト(持ち込み不可)を実施する。

教科書

授業中にレジメや資料を配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

備考

バイオサイエンス（35551）

後期

Bioscience

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	内藤整

授業の概要

この講義は、環境や人間生活を理解するための基本的な科目である。自然環境の中では、植物も動物もそれぞれの種が互いに影響を与えながら生態系を構成している。生態系におけるエネルギー生産者である植物と人間との関係、植物の物質生産機能について解説する。

【アクティブラーニング】プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題（小テスト、レポート）に対しては、講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.生態系におけるエネルギーの流れ、人間生活における植物の重要性について理解し説明できる。
- 2.植物の物質生産機能について説明できる。
- 3.野生植物と栽培植物の違いについて説明できる。

評価方法

授業中の小テストや課題の提出状況などの平常点30%（到達目標1,2を評価）と定期試験70%（到達目標1,2,3を評価）によって評価を行う。

注意事項

低学年のうちに受講することが望ましい。

プレゼンテーションを取り入れているので、パワーポイントが使えることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	食物とは（独立栄養と従属栄養） 課題「作物について」あるいは「植物の不思議」（詳しい内容については講義中に指示する）
第2回	植物が必要とする養分
第3回	人間に必要な栄養 課題レポート「タンパク質を構成するアミノ酸」
第4回	食と健康
第5回	植物の成長
第6回	植物の形態と構造I. 細胞
第7回	植物の形態と構造II. 組織と器官
第8回	光合成I. 光合成器官植物の形態と構造
第9回	光合成II. 電子伝達系
第10回	光合成III. カルビンサイクル
第11回	光合成IV. C4ジカルボン酸サイクルとベンケイソウ型有機酸代謝
第12回	光合成と環境条件
第13回	群落光合成と物質生産
第14回	植物に関する疑問 【プレゼンテーションとディスカッション】
第15回	野生植物と栽培植物

授業外学習

- ・予習として、毎回配布されるプリントの英語部分を訳して、内容を理解しておく（15時間）。
 - ・小テストを行うので、前回までの復習をしておくこと（30時間）。
 - ・日常生活の中でどのような食物（植物）を摂取しているか調べる（3時間）。
 - ・タンパク質を構成するアミノ酸の種類と化学構造を調べる（課題レポート「タンパク質を構成するアミノ酸」）（2時間）。
 - ・作物の起源、来歴、栽培法、生理機能、形態的特徴など指示された内容について調べる（10時間）。
-

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

清水碩著「大学の生物学 植物生理学」裳華房、M.J.Chrispeels and D.E.Sadava 「Plants, Genes, and Agriculture」

Jones and Bartlett Publishers、藪野友三郎他著「植物遺伝学」朝倉書店、エリック・シュローサー著「ファストフードが世界を食いつくす」草思社、フレッド・マグドフ他編「利潤への渴望」大月書店、ティム・ラング他著「フード・ウォーズ」コモンズ、など授業中に適宜案内する。

備考

一般救急救命 (35452)

後期

Basic Life Support and Emergency Care

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力 吉田悦男 水野恭志

授業の概要

本講義では、救急処置の基本的知識とともに、スポーツ現場における救急処置ならびに内科的疾患の救急処置について学ぶ。

到達目標

スポーツ現場での救急処置のみにとどまらず、日常生活でも役立つ能力であり、救急処置への理解を深め、いつでも実践できる。

評価方法

学期末試験70%、授業に取り組む姿勢10%、救急法実技試験20%、で総合的に評価する。

注意事項

講義の内容が、緊急、生命に関わる重要かつ大切な内容である。真剣に取り組むこと。

また、講義、実習中の携帯電話使用は禁止とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション (吉田・山野)
第2回	救急処置の目的と意義 (吉田・山野)
第3回	救急処置の基礎知識 (吉田・山野)
第4回	緊急時の対応計画 (吉田・山野)
第5回	外傷の評価と応急処置 (吉田・山野)
第6回	スポーツ現場にみられる外傷とその特性 (吉田・山野)
第7回	出血の有無による応急処置の違い (吉田・山野)
第8回	RICE処置の理論と実際 (吉田・山野)
第9回	スポーツ現場でみられる内科的疾患とその特性 (吉田・山野)
第10回	熱中症・過換気症候群 (吉田・山野)
第11回	食物依存性運動誘発性アナフィラキシー (吉田 水野 山野)
第12回	心肺蘇生法 (1) 人工呼吸 (吉田 水野 山野)
第13回	心肺蘇生法 (2) 胸骨圧迫 (吉田 水野 山野)
第14回	心肺蘇生法 (3) 人工呼吸・胸骨圧迫・AED (吉田 水野 山野)
第15回	総まとめ (吉田 水野 山野)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・教科書を熟読し、講義・実技の前にしっかりと予習をし、講義・実技後は的確に実践できるよう復習すること。

教科書

公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門テキスト8 救急処置

参考書

なし

備考

Introduction to Nutrition

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 矢田貝智恵子

授業の概要

各種栄養素の種類や性質、体内における代謝について学ぶ科目である。具体的には、各種栄養素の消化・吸収のメカニズムについてその概要を理解する。また、生体内での代謝や生理機能について理解するとともに、エネルギー代謝や栄養素代謝の関連性についても学ぶ。各栄養素の役割について、健康の維持増進、疾病予防・治療における栄養の役割を学び、望ましい栄養や食事の摂り方を理解する。

健康科学分野のうち、人間の体のケアに関する栄養学的知識や技能を備え、健康的で豊かな生活を営むことができる社会人の育成を目的としている。

【フィードバック】 練習課題に対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 1 栄養の基本（栄養と栄養素の定義、消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割、エネルギー代謝）について理解し、説明できる。
- 2 健康の維持増進、疾病予防・治療における栄養の役割について理解し、説明できる。
- 3 各栄養素の種類と役割を理解し、健康生活を送るための望ましい栄養や食事の摂り方について説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 10%（到達目標1、2）、レポート 20%（到達目標3）、定期試験 70%（到達目標1、2、3）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

- ・ 指定した教科書を購入し、必ず予習をしておくこと。
- ・ 講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。
- ・ 後期「スポーツ栄養学」履修予定者は必ず履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	栄養と健康
第2回	栄養と食生活
第3回	消化・吸収（1）消化器系の構造と機能
第4回	消化・吸収（2）各消化管での消化と栄養素の体内動態
第5回	糖質（1）糖質の化学と栄養
第6回	糖質（2）糖質の代謝と機能
第7回	脂質（1）脂質の化学と栄養
第8回	脂質（2）脂質の代謝と機能
第9回	たんぱく質（1）たんぱく質の化学と栄養
第10回	たんぱく質（2）たんぱく質の代謝と機能
第11回	ビタミン（1）脂溶性ビタミンの栄養
第12回	ビタミン（2）水溶性ビタミンの栄養
第13回	無機質（1）準主要元素の栄養

回数	内容
第14回	無機質（2）微量元素の栄養
第15回	エネルギー代謝

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 各講義ごとに練習問題を課すので、復習を兼ねて理解しておくこと。

教科書

「新 食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 第4版」・ 灘本知憲、仲佐輝子編・ 化学同人・ ISBN:978-4-7598-1637-2

参考書

「コンパクト栄養学 改訂第4版」・ 廣野治子監修・ 南江堂・ ISBN978-4-5242-5945-8

「オールガイド食品成分表2020」・ 実教出版編集部・ ISBN:978-4-407-34850-7

上記以外の参考書については、適宜紹介する。

備考

環境リスク論 (35254)

後期

Environmental Risk

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	妹尾護

授業の概要

私たちの身近な水について、水質基準値について説明するとともに、各物質の人体への影響や水質汚染の実例（公害病等）について解説する。
【フィードバック】課題（レポート）に対する講評や省察等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 私たちの生活環境における水（水道水、地下水等）について、水質基準の考え方を理解し説明できる。
- 2 各水質基準項目について、公害病等の人体への影響を理解し、論述することができる。

評価方法

授業時間中に実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、最終レポート80%（到達目標1, 2を評価）により成績評価を行う。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考資料、授業外学習、評価方法等の説明）
第2回	水質基準値と水質汚染
第3回	水道水ができるまで（緩速・急速ろ過法、高度浄水処理）
第4回	遊離・結合残留塩素
第5回	一般細菌および大腸菌
第6回	カドミウム
第7回	水銀
第8回	鉛、ヒ素、シアン化物イオン
第9回	硝酸態窒素および亜硝酸態窒素、フッ素
第10回	ホウ素および亜鉛
第11回	アルミニウム
第12回	鉄および銅
第13回	ナトリウム、マグネシウム、カルシウム（硬度）
第14回	陰イオン界面活性剤
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解し

ておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動時、人間の身体は、外的・内的刺激に対して的確に反応し、運動を遂行している。スポーツ指導者として適切な指導法を模索する上で、この基礎的知識は必須である。本講義は、運動時にダイナミックに変化する生体反応について生理学的観点から解説する。特に、筋収縮のメカニズム、運動時の呼吸・循環機能のメカニズム、運動中の体液の役割、様々な環境下での身体の応答などを学ぶ。【アクティブラーニング】運動時生理応答をモデル化した教材を操作して生体内現象を学ぶ。【フィードバック】アクティブラーニング課題についての解説を全体および個別に行う。

到達目標

- 筋収縮のメカニズム、運動時の呼吸・循環機能のメカニズム、運動中の体液の役割など、運動時に変化する生理応答について理解し説明できる
- スポーツ競技時に「1」の各現象がどのように運動して運動実施を制御しているか、考察し意見を提示できる

評価方法

授業に取り組む態度 5%（到達目標1, 2）、試験 95%（到達目標1, 2）にて評価する。

注意事項

本講義は健康運動およびスポーツの指導者にとって基礎となるため予習・復習が特に重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	運動生理学とは
第2回	骨格筋の構造と筋収縮のメカニズム
第3回	骨格筋とトレーニング効果
第4回	神経系と運動（1）
第5回	神経系と運動（2）
第6回	呼吸器系の構造と呼吸のメカニズム
第7回	運動と酸素摂取量のメカニズム
第8回	循環器系の構造と血液成分
第9回	ガス交換の仕組み
第10回	無酸素および有酸素のエネルギー供給機構
第11回	運動とエネルギー代謝
第12回	運動と適応及び免疫
第13回	運動時のホルモン調節
第14回	環境変化と運動
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

次回講義のテーマとキーワードを出すので予習を行うこと（2時間）。また受講した内容について、復習を行うこと（2時間）。

教科書

運動生理学の基礎と発展 3訂版・春日 規克・竹倉 宏明・フリースペース・ISBN978-4-434-25023-1

参考書

講義中に紹介する。

備考

外科学 I (総論) (35202)

前期

Surgery I (basic principles)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	21～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

- ・救急救命士として、病院前救護活動において適確な観察・処置が行えるように、解剖生理学から復習し、外科学についての理解を深めることを目的とする。
- ・外傷全般についての知識はもとより、救急救命士国家試験に対する知識も高め、救急現場で活用できる内容について理解を深めることを目的とする。
- ・救急救命士に必要な臨床外科学の基本を学ぶ。

【フィードバック】ミニテスト・レポートに対する講評やフィードバックを含めた講義を行う。

到達目標

- 1 外傷システム、トラウマバイパス、緊急度・重症度等について理解する。
- 2 外傷の病態生理について理解する。
- 3 外傷の現場活動について理解し実践できる。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30% (到達目標1～2を評価)、レポート 20% (到達目標1～2を評価)、定期試験 50% (到達目標1～3を評価) により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：(水野 松村)
第2回	外傷救急医学 外傷総論(1)：(水野 松村)
第3回	外傷救急医学 外傷総論(2)：(水野 松村)
第4回	外傷救急医学 外傷の病態生理：(水野 松村)
第5回	外傷救急医学 外傷の現場活動：(水野 松村)
第6回	外傷救急医学 頭部外傷：(水野 松村)
第7回	外傷救急医学 顔面・頸部外傷：(水野 松村)
第8回	外傷救急医学 脊椎・脊髄外傷：(水野 松村)
第9回	外傷救急医学 胸部外傷：(水野 松村)
第10回	外傷救急医学 腹部外傷：(水野 松村)
第11回	外傷救急医学 骨盤外傷：(水野 松村)

回数	内容
第12回	外傷救急医学 四肢外傷：（水野 松村）
第13回	外傷救急医学 皮膚・軟部外傷：（水野 松村）
第14回	外傷救急医学 小児・高齢者・妊婦の外傷：（水野 松村）
第15回	外傷救急医学 外科学（総論）まとめ：（水野 松村）

授業外学習

- ・学習時間の目安：30時間
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・復習としてミニテストを3回程度、各外傷についてのレポート提出を2回程度実施する。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

改訂第2版 JPTECガイドブック：へるす出版（3,780円（税込））ISBN 978-4-89269-885-9

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

基礎経穴 (35155)

後期

Basic Theory of Acupuncture Points

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

「要穴」は十二経脈、奇経八脈において特殊な治療作用をもつツボであり、「奇穴」は正経、奇経以外に存在する、ある疾患に対する特別な効果のあるツボをいう。

各要穴・奇穴についてその概念や作用を学ぶ。

「奇経」は正経十二経脈から別れ、他の経脈と交差・接続しながら、臓腑とは関連せずに全身の調節を行っている。1年次に学習した正経十二経絡の復習を兼ねながら学ぶ。

【フィードバック】小テストに対する講評や省察を含めた指導を行う。

到達目標

- (1)各要穴や奇経八脈について、各種働き・経脈との関連を説明できる。
- (2)要穴をひとつとおり言える。
- (3)要穴の取穴部位・取穴法について説明できる。
- (4)取穴に必要な骨度・経穴間の距離を把握し、経脈と関係づけて説明できる。
- (5)各治療で用いる要穴の組合せについて説明できる。
- (6)要穴の働きについて、根拠に基づいた説明ができる。

評価方法

講義時間中に行う小テストで評価を行い、得点率60%以上を合格とする。

小テスト1・2回で 到達目標(1)(4)を評価、(40%)

小テスト3・4回で 到達目標(2)(3)(5)(6)を評価、(40%)

小テスト5回で 到達目標(4)(5)を評価、(20%)

注意事項

試験内容は経穴名、取穴、骨度、経絡経穴に関連する筋肉・神経・動脈拍動部等、はり師・きゅう師国家試験に準じている。

授業計画

回数	内容
第1回	奇経八脈(総論)
第2回	奇経八脈(督脈・任脈)(p26-51)
第3回	奇経八脈(衝脈・帯脈)(p212、各経絡と関連する主要経穴の取穴部位)
第4回	奇経八脈(陽キョウ脈・陰キョウ脈)(p212-213、各経絡と関連する主要経穴の取穴部位) 小テスト1
第5回	奇経八脈(陽維脈・陰維脈)(p213、各経絡と関連する主要経穴の取穴部位)
第6回	奇経八脈(八脈交会穴)(p213、各経絡と関連する主要経穴の取穴部位) 小テスト2
第7回	五要穴(ゲキ穴)(p10-11,241、各経絡の取穴部位)
第8回	五要穴(絡穴)(p11,241、各経絡の取穴部位) 小テスト3
第9回	是動病・所生病
第10回	五要穴(兪穴・募穴)(p11-12,241、各経絡の取穴部位)
第11回	五要穴(原穴)(p10,241、各経絡の取穴部位)、五行穴(p12-14,240-241、各経絡の取穴部位) 小テスト4

回数	内容
第12回	下合穴、四総穴、八会穴 (p13,240、各経絡の取穴部位)
第13回	奇穴(経p13-14,216-219)
第14回	奇穴 (経p220-223)
第15回	奇穴 (経p224-229) 小テスト5

授業外学習

授業外学習時間の目安：合計60時間

(1)毎回の授業前に予習をしておくこと。(2時間)

・教科書の該当ページを3回読み、概略をつかむ。3回目を読む際には、経穴部位と要穴の働きについて見当がつけられるようになっていること。

(2)毎回の授業後に復習をすること。(2時間)

・教科書の該当ページを3回読み、内容を理解する。

・1回目：取穴部位と解剖学的部位等のキーワードに注意しながら読む。

・2回目：取穴部位と要穴の働きを理解するよう努めること。

・3回目：経穴・取穴部位・要穴の働きが一致するようになっていること。

教科書

新版 経絡経穴概論|東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4752951254

参考書

石田秀実監訳「黄帝内経素問 全3巻」「黄帝内経靈枢 全2巻」東洋学術出版社

他、経絡経穴概論およびIIに同じ

備考

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

鍼灸の治療には様々な方法があるが、どのような治療においても東洋医学が必要になるとされる。東洋医学には、中国の思想の影響が強く、診断、治療を行うために古代中国で生まれた考え方（理論・思想）理解が欠かせない。東洋医学総論IIでは、その中でも診断の根本となる八綱病証から、五臓六腑を中心に学び東洋医学各論につなげる。

【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- (1)五臓の関係について説明できる。
- (2)五臓の病理について説明できる
- (3)病因について説明できる。
- (4)四診について説明できる。
- (5)東洋医学的な診断ができるようになる。

評価方法

課題提出10%（到達目標（4）・（5）を評価）+小テスト30%（到達目標（1）（2）（3）を評価）+定期試験60%（到達目標（1）～（5）を評価）で成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語や飲食、携帯電話（スマートフォン・タブレット含む）の使用は行わない事。小テストは事前に連絡していた実施日にしか行わないので必ずその日に受験すること。

本科目ははり師きゅう師になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	各単元の項目確認生体物質の相互関係 五臓の相互関係(1) 心・脾・肝の相互関係（教科書 p 127-130）
第2回	生体物質の相互関係 五臓の相互関係(1) 心・脾・肝の相互関係（教科書 p 127-130）
第3回	五臓の相互関係(2)心・肺・脾の相互関係、肺・脾・腎の相互関係、脾・肝・腎の相互関係（教科書 p 130-137）
第4回	全身の気機(1) 五臓の関連領域の気機、肝系統・心系統・脾系統・肺系統・腎系統（教科書 p 143-145）
第5回	全身の気機(2) 気機の相互関係 昇降出入（教科書 p 145-149）全身の気機(2)
第6回	病因病機(1) 病因 六淫 風邪・寒邪・燥邪・熱邪・暑邪・火邪・疫癘（教科書 p 161-167）
第7回	病因病機(2) 内傷病因（教科書 p 168-171）
第8回	病機 伝変と波及（教科書 p 174-179）
第9回	内生五邪（教科書 p 172-173）
第10回	経絡（教科書 p 150-160）東洋医学の思想 五行学説（2）
第11回	四診 望聞問切 課題配布（教科書 p 201-248）
第12回	四診 小テスト

回数	内容
第13回	四診 切診 (教科書 p 249-265)
第14回	四診合参 (教科書 p 266-267)
第15回	まとめ

授業外学習

予習：授業計画欄に示す教科書のページに目を通し、わからない語句を抜き出し自分で辞書を引いて語句の意味と読み方を記録する(2時間)

復習：授業でわからなかったところを確認し、教科書を読み理解を深める。または、授業中に配布された課題に取り組む(2時間)。

教科書

新版 東洋医学概論|社団法人東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4-7529-5173-5

参考書

「針灸学[基礎編]」日中共同編集 東洋学術出版社

「黄帝内経素問 上巻」「黄帝内経素問 中巻」「黄帝内経素問 下巻」南京中医学院編纂 (東洋学術出版社)

「徹底図解 東洋医学のしくみ」監修者 兵頭明 新星出版社

他 授業中に随時紹介する。

備考

応用はりきゅう理論 (35213)

前期

Applied Theory of Acupuncture and Moxibustion

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	遠藤宏

授業の概要

鍼灸治療の科学的解明が今どのような状態かを鑑み、現時点で知られている事実を解説する。授業では鍼灸治効の基礎と治効理論、そして関連学説を学ぶ。

到達目標

1. 疼痛の科学的な発生機序を理解している。
2. 鍼灸医学に必要な神経科学を理解している。
3. 鍼刺激および灸刺激による治効メカニズムを理解している。
4. 鍼灸治療の有用性を理解している。

評価方法

基本理論の理解（到達目標1, 2）、臨床応用への理解（到達目標3, 4）を定期試験(60%)、予・復習のための確認小テスト(40%)、もしくはレポート提出に配分して評価する。得点60点以上を合格とする。

注意事項

目的意識をしっかりと持って授業に臨むこと。

予習を行うこと。

授業計画

- 1週目：痛みの感覚の受容と伝導
- 2週目：温度感覚の受容と伝導・触圧覚の受容と伝導
- 3週目：筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導
- 4週目：小テスト1（p43～54の範囲）
- 5週目：鍼灸刺激と反射
- 6週目：鍼鎮痛
- 7週目：刺激と反応
- 8週目：小テスト2（p54～70の範囲）
- 9週目：自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響
- 10週目：生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響
- 11週目：鍼刺激による免疫系への影響
- 12週目：小テスト3（p71～93の範囲）
- 13週目：サイバネティクスの学説・ホメオスタシス・汎適応症候群の学説（ストレス学説）
- 14週目：過剰刺激症候群の学説（レイリー現象）・圧発汗反射の学説
- 15週目：小テスト4（p94～105の範囲）および定期テストの予習（範囲：p43～105）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

シラバスに沿って毎回予習を行うこと。小テスト範囲（教科書ページ）は下記に記載する。

教科書

「はりきゅう理論 第1版19刷」東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著

「生理学」東洋療法学校協会編 内田さえ、原田玲子 他著

参考書

その他、適宜資料（文献など）を配布する。

備考

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

鍼灸で施術を行う際には、その疾患に対する西洋医学的な知識と、東洋医学的な診断が必要となる。前期に引き続き後期は、頭部に生じる疾患と婦人科疾患、小児の疾患などの西洋医学的な知識の概要と東洋医学的な疾病の考え方を学ぶ。またその疾患の改善につながる経穴を紹介し、附属施設での臨床実習につなげる。

【フィードバック】小テストに対して解答・解説を行う。

到達目標

- (1)東洋医学的な考え方で病気の診断ができるようになる。
- (2)西洋医学的な考え方で疾患を捉えることができるようになる。
- (3)施術部位の特定と基本的な経穴を覚える。

評価方法

小テスト(40%) (到達目標(1)、(2)、(3)を評価) + 期末テスト(60%) (到達目標(1)、(2)、(3)を評価) で成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語や飲食、携帯電話（スマートフォン・タブレット含む）の使用は行わない事。小テストは事前に連絡していた実施日にしか行わないので必ずその日に受験すること。本科目ははり師きゅう師になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	頭痛（東洋医学臨床論 p 14-18）脳腫瘍（臨床医学各論 p 247-251）、筋緊張性頭痛・片頭痛・群発頭痛（臨床医学各論 p 272-274）
第2回	顔面痛（東洋医学臨床論 p 18-21）三叉神経痛（臨床医学各論 p 269）
第3回	顔面麻痺（東洋医学臨床論 p 22-24）末梢性顔面神経麻痺・ラムゼーハント症候群（臨床医学各論 p 268）
第4回	歯痛（東洋医学臨床論 p 25-27）歯周病（臨床医学各論 p 21-23）小テスト(1)頭痛・顔面痛・顔面麻痺
第5回	眼精疲労（東洋医学臨床論 p 27-29）緑内障・白内障・結膜炎・角膜炎など（臨床医学各論 p 316-319）
第6回	鼻閉・鼻汁（東洋医学臨床論 p 30-32）アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎（臨床医学各論 p 321-322）
第7回	脱毛症（東洋医学臨床論 p 33-36）円形脱毛症（臨床医学各論 p 316）小テスト(2)歯痛・眼精疲労・鼻閉鼻汁
第8回	めまい（東洋医学臨床論 p 36-39）突発性難聴・メニエール病（臨床医学各論 p 319-321）
第9回	耳鳴りと難聴（東洋医学臨床論 p 39-42）突発性難聴・メニエール病・中耳炎（臨床医学各論 p 319-321）
第10回	月経異常（東洋医学臨床論 p 64-69）子宮頸癌・子宮体癌・乳癌・月経異常（臨床医学各論 p 311-313）
第11回	のぼせと冷え（東洋医学臨床論 p 111-113）更年期障害（臨床医学各論 p 313）小テスト(3)脱毛症・めまい・耳鳴りと難聴・月経異常
第12回	発疹（東洋医学臨床論 p 119-121）接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・じんま疹（臨床医学各論 p 314-315）
第13回	小児の症状（東洋医学臨床論 p 122-124）小児神経症・小児夜尿症（臨床医学各論 p 286-287）

回数 内容

第14回 不眠（東洋医学臨床論 p 114-116）うつ病・統合失調症（臨床医学各論 p 322-324）小テスト(4)のぼせと冷え・発疹・小児の症状

第15回 期末テストの実施

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

およそ30時間

予習：授業計画に示された教科書ページを読み、その内容に関係する解剖学や生理学の教科書を見直す（2時間）

復習：東洋医学的な病能把握と西洋医学的な病能把握及び、使用する経穴についての課題提出に取り組む（2時間）

教科書

東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉|社団法人東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4-7529-5036-3

臨床医学各論 第2版|社団法人東洋療法学校協会編|医歯薬出版株式会社|978-4-263-24168-4

参考書

「針灸学[臨床編]」日中共同編集（東洋学術出版）

「鍼灸療法技術ガイド 鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべて I・II」矢野忠編集（文光堂）

「最新 鍼灸治療学 上・下巻」木下晴都著（医道の日本社）

他は授業中に随時紹介する。

備考

東洋医学各論Ⅲ (35103)

前期

Detailed Oriental Medicine Ⅲ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

鍼灸で施術を行う際には、その疾患に対する西洋医学的な知識と、東洋医学的な診断が必要となる。この授業では、内果系の疾患と老年医学を中心に西洋医学的な知識の概要と東洋医学的な疾病の考え方を学ぶ。またその疾患の改善につながる経穴を紹介し、附属施術所での臨床実習につなげる。【フィードバック】小テストに対して解答・解説を行う。

到達目標

- (1)東洋医学的な考え方で病気の診断ができるようになる。
- (2)西洋医学的な考え方で疾患を捉えることができるようになる。
- (3)施術部位の特定と基本的な経穴を覚える。

評価方法

講義時間中に行う小テスト20%（到達目標（1）、（2）、（3）を評価）と確認テスト20%（到達目標（1）、（2）、（3）を評価）、および定期試験60%（到達目標（1）、（2）、（3）を評価）により成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

目的意識をしっかりとって授業に臨むように指導する。

授業中においては礼節に注意する。

本科目ははり師きゅう師になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	咳嗽・喘息 P42～47
第2回	胸痛・腹痛 P48～52
第3回	悪心と嘔吐・便秘と下痢 P56～58
第4回	便秘と下痢 p59～63
第5回	排尿障害・インポテンツ P69～75
第6回	高血圧・低血圧 P98～102
第7回	食欲不振・肥満 P103～107
第8回	発熱 P108～111
第9回	疲労と倦怠 P117～119
第10回	小テスト(範囲:咳嗽～疲労・倦怠)
第11回	老年医学における鍼灸療法（老年期の身体特性） p144～146
第12回	老年医学における鍼灸療法（老年期の心理精神の特性） p146～149
第13回	老年医学における鍼灸療法（老年者の疾患） p150
第14回	老年医学における鍼灸療法（鍼灸療法） p151

回数	内容
----	----

第15回	試験前まとめ、確認テスト
------	--------------

授業外学習

授業外学習時間の目安：合計60時間

予習：シラバスに沿って各内容(ページ記載)を毎回予習する。さらに教科書の付録2(各主要症候の証分類および治療方針一覧) p156~158と付録3(東洋医学用語集) p159~166によく目を通しておく。(2時間)

復習：授業のはじめに前回行った内容の確認問題を解き解けなかった箇所は次回までの授業外での課題とする。毎回復習し確認テストに臨む。(2時間)

教科書

東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉|社団法人東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4-7529-5036-3

参考書

『鍼灸臨床マニュアル』北村智・森川和宥(著) 医歯薬出版

その他、授業の際に適宜案内する

備考

スポーツ鍼灸学 (35454)

後期

Theory of Sports Acupuncture and Moxibustion

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	大町成人

授業の概要

スポーツ鍼灸学は、スポーツ傷害を中心とした病態に対して現代医学と鍼灸医学の両面から症状の発症機序と鑑別診断が理解できるように指導し、鍼灸治療の方針と処方ができるよう臨床的な知識の習得を主眼とする。特に鍼灸治療に適応する症状を中心に系統別に学習する。

到達目標

- (1)身体のそれぞれの部位に発症する障害について理解し、説明できる。
- (2)スポーツ傷害の発症機序について理解し、説明できる。
- (3)スポーツ傷害の予防について理解し、説明できる。

評価方法

定期試験80%(到達目標(1)～(3)を評価)と授業に取り組む態度20%(到達目標(1)～(3)を評価)により成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

- ・医療人になることを自覚し、真摯な態度で授業を受けること。
- ・やむを得ず欠席、遅刻する場合はその旨を担当者に届け出ること。
- ・病欠・派遣の場合は欠席届を提出することを必須とする。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツ傷害とは
第2回	傷害の発生?修復のメカニズム
第3回	関節の構造と機能
第4回	トレーニングとドーピングについて
第5回	スポーツ傷害の整形外科的メディカルチェックと応急処置
第6回	スポーツ鍼灸におけるリスクマネジメント
第7回	上肢のスポーツ傷害(その1)
第8回	上肢のスポーツ傷害(その2)
第9回	頸部・腰部のスポーツ傷害
第10回	股関節部のスポーツ傷害
第11回	膝関節部のスポーツ傷害
第12回	下腿部のスポーツ傷害(その1)
第13回	下腿部のスポーツ傷害(その2)
第14回	足関節部のスポーツ傷害
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・自宅学習において、解剖学等を勉強しておく。
 - ・参考図書にて、学習を深める。
 - ・毎回授業における予習・復習を行うこと。
-

教科書

スポーツ鍼灸学テキスト 講義担当者編

参考書

スポーツ東洋療法ハンドブック 東洋療法学校協会 医道の日本社

スポーツ鍼治療マニュアル 福林 徹、宮本俊和 編 南江堂

備考

年次	2年
対象	24～20 W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

現代社会の中で、鍼灸がどのような役割を果たしているか、またどのような役割を果たすことができるかを国内的な視点と国際的な視点から学ぶ。将来独立開業する際にまた、チーム医療の一員として従事する際にも必要となってくる、思想や倫理、政治経済など社会的背景も合わせて概説する。

【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【アクティブラーニング】プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れている。

到達目標

- (1)はり・きゅう師に必要な医の倫理について学び、考え行動できるようになる。
- (2)社会の中の鍼灸について理解し、自分がどのような関わり方ができるか考え議論できる。

評価方法

定期試験(40%) (到達目標(1)を評価)、ディスカッションへの参加姿勢・課題提出・発表(60%) (到達目標(2)評価)により成績を評価し得点率60%以上を合格とする。

注意事項

授業中の私語・飲食禁止。原則として携帯電話(スマートフォン・タブレット含む)の使用は行わない事。但し、授業中指示があった場合のみ使用可とする。

本科目の内容には、はり師きゅう師になるための資格免許科目が含まれることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会の中のはりきゅう 発表(1) 課題「最近の鍼灸に関するニュースの中で最も気になった記事」(発表原稿提出)
第3回	社会の中のはりきゅう 現在社会におけるはり師の役割(教科書 p 37-110)
第4回	保健制度について(全般) 医療保険・介護保険1(教科書 p 7-11、15-16、26-29)
第5回	保健制度について(全般) 医療保険・介護保険2(教科書 p 7-11、15-16、26-29)
第6回	保健制度について(鍼灸)(教科書 p 11-15、17-20)
第7回	災害と鍼灸(東日本大災害で貢献されていた鍼灸師の紹介、鍼灸師として災害現場で活躍するに当たり必要なもの等の紹介)
第8回	災害と鍼灸 ディスカッション 発表(2)課題「もし、今住んでいるところで被災した場合、鍼灸師として何ができるか」(発表原稿提出)
第9回	国際保健医療と鍼灸(教科書 p 6-7) 海外でのボランティア鍼灸～南インドでの事例
第10回	国際保健医療と鍼灸 ディスカッション 発表(3)課題「海外で鍼灸をするならどこの国がいいか、それにはどのような資格が必要か、その国でどのような鍼灸をしたいか。」(発表原稿提出)
第11回	医の倫理(1) 医師の倫理(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言)・医者－患者の倫理(患者の権利宣言、リスボン宣言、ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言)
第12回	医の倫理(2) 医学－社会の倫理(バイオエシックス)

回数 内容

第13回 医の倫理(3) 施術者の倫理を踏まえ「鍼灸師の倫理綱領」を考え、自分たちで作る。

第14回 医の倫理(4) レポート・発表(4) 課題「鍼灸師としてバイオエシックスに関わるときにどのように考え、対応するとよいか。」
(発表原稿提出)

第15回 まとめ

授業外学習

予習：新聞やテレビ、インターネットなどで常にニュースをチェックし、医療や鍼灸に関することは記録し、授業内で発表の場があるときに積極的に答えられるよう自分の意見をまとめる。また、各回の授業計画の部分を確認し、教科書のページ数が書かれた回については教科書を読み、課題が書かれた回に関しては課題に取り組む。具体的に教科書のページ数が書かれていない場合は、配布資料によく目を通す。(2時間)
復習：前回の授業内容について自分で考え、意見が出せるようにする。提出課題がある場合は課題に取り組む。(2時間)

教科書

社会あはき学|社団法人東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4-7529-5093-6

参考書

「学生のための医療概論」千代豪昭／黒田研二編集（医学書院）

「病院のしくみ」木村憲洋／川越満（日本実業出版社）

「医療概論」東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

他 授業内で随時紹介する。

備考

鍼灸臨床実習 I (35111)

通年

Clinical Practice of Acupuncture and Moxibustion I

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20 W
単位数	2.0単位
担当教員	大町成人 西川千賀子

授業の概要

前期（西川）：灸の基本操作を中心に、臨床現場で使われるさまざまな治療方法および刺鍼手技について学ぶ。

後期（大町）：スポーツ鍼灸学実習

スポーツ鍼灸学実習は、スポーツ傷害を中心とした病態に対して現代医学と鍼灸医学の両面から、症状の発症機序と鑑別診断の手順が理解できるように指導するとともに、鍼灸治療の方針と基本的な処方（配穴）が立てられ、治療ができる技術を学習させることを主眼とする。

到達目標

前期（西川）：

- （1）米粒大・半米粒大・糸状灸の作り分けと使い分け
- （2）重ね八分灸、透熱灸、交互施灸の操作ができる。
- （3）刺鍼手技の使い分け、操作ができる。
- （4）臨床に応じた配穴・取穴・刺鍼・施灸ができる。
- （5）特殊鍼法を実技と体験を通して習得する。

後期（大町）：スポーツ鍼灸学実習

- （1）スポーツ鍼灸学講義によって鍼灸臨床に必要な事項について理解を深める。
- （2）診察・治療技術の実際を習得する。

評価方法

前期（西川）：

- ・出席を満たしたものを対象に、試験を実施して評価する。
- ・定期試験は実技50%（到達目標（1）～（5）を評価）、筆記試験50%（到達目標（4）を評価）により成績を評価し、60%以上を合格とする。

後期（大町）：スポーツ鍼灸学実習

- ・出席を満たしたものを対象に、試験を実施して評価する。
- ・評価は実技試験100%（到達目標（1）～（2）を評価）により成績を評価し、60%以上を合格とする。

注意事項

前期（西川）：

患者に対する時と同様に被験者に対し、施術・言葉遣いや気づかいが常にできるようにすること。学生同士が不快となるような言動や行動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を図ること。

実技練習においては、選り好みをせずにいろいろな施灸法、刺鍼法、配穴法、治療法を体験し、感じ、学んだことを3年次の治療所実習で生かしていただきたい。進行の状況などにより、授業の順序・内容が変更される場合があります。

なお、筆記試験の内容は授業中に出た経穴を中心に出题する。

※臨床を意識とした実技を行うために以下の事項を遵守してください。

- ①携帯はマナーモードにし、手荷物に入れること。
- ②アクセサリ（指輪・マニキュア・ピアス・イヤリング・ネックレス・時計など）の装飾品は禁止。必ず外すこと。
- ③華美な化粧は禁止とする。
- ④髪は肩よりも長ければ、後ろで1つにまとめ、肩甲骨よりも長ければきちんと1つに束ねること。また前髪が目の高さよりも長ければ、男女

ともしっかりと黒ピンでとめること。
上記に違反したものは退出願います。

後期（大町）：スポーツ鍼灸学実習

- ・実習室の清掃・整理整頓には必ず気を配って行うこと。
- ・実習中は私語は禁止し、集中して施術を行うこと。

授業計画

回数	内容
第1回	基本の施灸と刺鍼手技の確認（西川）
第2回	背候診と背部俞穴（西川）
第3回	腹診と募穴（西川）
第4回	俞募穴診と原絡穴（西川）
第5回	症状別治療法（胃腸）（西川）
第6回	症状別治療法（肩こり）（西川）
第7回	症状別治療法（寝違い）（西川）
第8回	症状別治療法（腰痛）（西川）
第9回	症状別治療法（膝痛）（西川）
第10回	症状別治療法（感冒）（西川）
第11回	症状別治療法（頭痛）（西川）
第12回	症状別治療法（冷え性）（西川）
第13回	症状別治療法（不眠症）（西川）
第14回	症状別治療法（顎関節症）（西川）
第15回	実技評価（西川）
第16回	ガイダンス、スポーツ鍼灸に必要な臨床所見と診察法（1）（大町）
第17回	スポーツ鍼灸に必要な臨床所見と診察法（2）（大町）
第18回	上肢のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（1）（大町）
第19回	上肢のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（2）（大町）
第20回	腰部・大腿部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（大町）
第21回	股関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（大町）
第22回	膝関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（大町）
第23回	下腿部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（大町）
第24回	足関節部のスポーツ傷害に対する鍼灸治療（大町）
第25回	テーピングの実際（1）（大町）
第26回	テーピングの実際（2）（大町）
第27回	テーピングの実際（3）（大町）
第28回	テーピングの実際（4）（大町）
第29回	まとめ（大町）
第30回	評価（実技試験）（大町）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

前期（西川）：予習：五要穴、五愈穴の経穴・経絡・取穴を覚えておくこと。

後期（大町）：スポーツ鍼灸学実習

実技後、自身の不足分について十分に技術を確認し、復習しておくこと

教科書

前期（西川）：授業の際に適宜案内する。

後期（大町）：『スポーツ鍼灸学実習テキスト』担当講義者編

参考書

『解剖学』東洋療法学校協会（医歯薬出版社）

『新版 経絡経穴概論』東洋療法学校協会（医道の日本社）

『東洋医学概論』東洋療法学校協会編（医道の日本社）

『現代鍼灸臨床の実際』松本勅（医歯薬出版社）

『スポーツ東洋療法ハンドブック』東洋療法学校協会編（医道の日本社）

『スポーツ鍼灸治療マニュアル』福林徹、宮本俊和編（南江堂）

備考

鍼灸臨床実習Ⅱ (35302)

通年

Clinical Practice of Acupuncture and Moxibustion II

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	林正貴

授業の概要

鍼灸には様々な治療方法がある。この授業では、鍼の基本操作を基に、東洋医学の知識を用いた治療方法、刺鍼手技について学ぶ。

前期：局所的な治療を部位別で、施術方法を学ぶ。

後期：東洋医学的概念を用いて、治療方法を学ぶ 鍼灸特殊治療法を学ぶ。

【アクティブラーニング】指定の疾患の治療に関して、学生同士で有効な経穴は何か意見交換をし、発表する。

【フィードバック】小テストなどで、コメントを残しての返却をする。

到達目標

- (1) 1、2年次に身につけた基礎実技を元に、臨床に則した治療方法と記録方法を身につける。
- (2) 鍼灸師として治療家としてふさわしい技術と態度を身につける。
- (3) 鍼によって惹起される生体反応を確認し、鍼の臨床効果について、より深く理解する。
- (4) 将来治療家になる者として、治療できた・治療できるという達成感、自信を実感する。

評価方法

定期試験の実技70%（到達目標（1）～（4）を評価）、筆記試験30%（到達目標（1）（4）を評価)により成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

禁忌などの注意事項をよく守り行うこと。勝手な治療のしあいはいはしないこと。

進行の状況などにより、授業の順序・内容が変更される場合がある。

授業計画内容で治療箇所、局所が出しやすい服装で参加すること。

筆記試験の内容ははり師・きゅう師国家試験に準ずる。

授業計画

回数	内容
第1回	ディスカッション、実技的な小テスト
第2回	良導絡 基本 測定等
第3回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（腰背部）①
第4回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（腰背部）②
第5回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（腰仙殿部）①
第6回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（腰仙殿部）②
第7回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（頸肩腕部）①
第8回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（頸肩腕部）②
第9回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（大腿部、膝、下腿部）①
第10回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（大腿部、膝、下腿部）②
第11回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（顔面部、下顎、側頭）①
第12回	局所的な疼痛に対する鍼灸施術（顔面部、下顎、側頭）②

回数	内容
第13回	鍼灸保険適用疾患に対する鍼灸施術①
第14回	鍼灸保険適用疾患に対する鍼灸施術②
第15回	局所的な疼痛に対する実技試験①
第16回	局所的な疼痛に対する実技試験② 東洋医学的小テスト
第17回	鍼灸特殊治療法（良導絡 基礎編）①
第18回	鍼灸特殊治療法（良導絡 基礎編）②
第19回	鍼灸特殊治療法（良導絡 応用編）①
第20回	鍼灸特殊治療法（良導絡 応用編）②
第21回	東洋医学的臨床治療法（難経六十九難治療 胃疾患）①
第22回	東洋医学的臨床治療法（難経六十九難治療 胃疾患）②
第23回	東洋医学的臨床治療法（泌尿器疾患、浮腫、婦人科疾患）①
第24回	東洋医学的臨床治療法（泌尿器疾患、浮腫、婦人科疾患）②
第25回	東洋医学的臨床治療法（呼吸器疾患、心疾患）①
第26回	東洋医学的臨床治療法（呼吸器疾患、心疾患）②
第27回	まとめ 総合的、授業内容を加味した上での鍼灸治療①
第28回	まとめ 総合的、授業内容を加味した上での鍼灸治療②
第29回	実技試験 授業外学習での達成発表①
第30回	実技試験 授業外学習での達成発表②

授業外学習

（学習時間の目安：30時間）

実習後に復習もかねて鍼灸実技を実施し、通年を通して鍼灸治療というものを自身で実感体験をすること。

教科書

新版 経絡経穴概論 第2版8刷|東洋療法学校協会編|医道の日本社|978-4752951254

他は授業中に適宜案内する。

参考書

医道の日本 掲載 『私の臨床経穴取穴術』 松浦英世 松浦譲士

『鍼灸臨床マニュアル』 北村智 森川和宥（医歯薬出版社）

『鍼灸特殊治療法』 北村智

他は授業中に適宜案内する。

備考

鍼灸臨床実習Ⅲ (35506)

通年

Clinical Practice of Acupuncture and Moxibustion Ⅲ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	内田輝和

授業の概要

- ・患者に対する医療面接から礼節・マナー
- ・治療に関する問診について
- ・抗重力手技法と鍼法
- ・良導絡治療法
- ・脈診・舌診等について
- ・各臨床症状への取り組み

到達目標

- 1 臨床経験を積み、卒業後は一通りの鍼灸治療が出来るようになる。
- 2 鍼灸師として治療家として、社会に貢献できる人間になる。

評価方法

授業 (100%)

注意事項

禁忌などの注意事項をよく守り行うこと。勝手な治療のしあいはいはしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	東洋医学的診断と治療 (1)
第2回	東洋医学的診断と治療 (2)
第3回	現代医学的診断と治療 (1)
第4回	現代医学的診断と治療 (2)
第5回	皮膚へのアプローチ (1)
第6回	皮膚へのアプローチ (2)
第7回	皮下結合へのアプローチ (1)
第8回	皮下結合へのアプローチ (2)
第9回	筋膜へのアプローチ (1)
第10回	筋膜へのアプローチ (2)
第11回	筋肉へのアプローチ (1)
第12回	筋肉へのアプローチ (2)
第13回	運動器疾患の診断と治療 (頸椎症1)
第14回	運動器疾患の診断と治療 (頸椎症2)
第15回	運動器疾患の診断と治療 (肩こり1)
第16回	運動器疾患の診断と治療 (肩こり2)

回数	内容
第17回	運動器疾患の診断と治療（腰痛1）
第18回	運動器疾患の診断と治療（腰痛2）
第19回	運動器疾患の診断と治療（膝痛1）
第20回	運動器疾患の診断と治療（膝痛2）
第21回	消化器疾患（1）
第22回	消化器疾患（2）
第23回	産婦人科疾患（1）
第24回	産婦人科疾患（2）
第25回	手鍼法（1）
第26回	手鍼法（2）
第27回	耳鍼法（1）
第28回	耳鍼法（2）
第29回	まとめ（1）
第30回	まとめ（2）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

治療院見学

授業計画に示してある各回に行う疾患の病態生理・治療方針・取穴部位について毎回各自で予習を行うこと。

また、実習後の復習も行うこと。

教科書

授業に適宜案内する。

参考書

抗重力手技療法、抗重力療法、鍼灸療法技術ガイド

備考

鍼灸臨床実習Ⅳ（35109）

通年

Clinical Practice of Acupuncture and Moxibustion IV

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	西川千賀子

授業の概要

前期：臨床現場で求められる症状や疾患についての治療方法を学ぶ。

後期：鍼灸における美容についての見解と基礎知識、その施術法を学ぶ。

到達目標

- （1）講義により鍼灸臨床に必要な事項について理解を深め、本科目によって診察・施術技術の実際を習得する。
- （2）前期では、病態に関連する鍼灸学的アプローチを身につける。
- （3）後期では、美容を目的とした顔面部への鍼灸学的なアプローチを身につける。

評価方法

- ・出席を満たしたものを対象に、試験を実施して評価する。
- ・評価は、前期・後期毎に試験で行う（実技60%、ペーパー40%）

注意事項

4年次になり、より実践的な臨床力を高めるとともに、患者に対する時と同様に被験者に対し、施術・言葉遣いや気づかいが常にできるようにすること。

学生同士が不快となるような言動や行動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を図ること。

進行の状況などにより、授業の順序・内容が変更される場合があります。

※臨床を意識とした実技を行うために以下の事項を遵守してください。

- ①携帯はマナーモードにし、手荷物に入れること。
 - ②アクセサリ（指輪・マニキュア・ピアス・イヤリング・ネックレス・時計など）の装飾品は禁止。必ず外すこと。
 - ③華美な化粧は禁止とする。
 - ④髪は肩よりも長ければ、後ろで1つにまとめ、肩甲骨よりも長ければきちんと1つに束ねること。
また前髪が目の高さよりも長ければ、男女ともしっかりと黒ピンでとめること。
 - ⑤美容鍼の実技ではタオルを使用します。タオルを必ず1枚持参すること。
 - ⑥美容鍼をする場合、化粧はあらかじめしないことを前提とします。
- 上記に違反したものは退出願います。

授業計画

ガイダンス。鍼灸臨床に必要な診察と治療の基礎

1. 頸部の疼痛に対する鍼灸治療（寝違い）
2. 肩部の疼痛に対する鍼灸治療（肩こり）
3. 上肢の疼痛に対する鍼灸治療（肩関節周囲炎）
4. 肘部の疼痛に対する鍼灸治療（テニス肘・野球肘）
5. 手部の疼痛に対する鍼灸治療（腱鞘炎・リウマチ）
6. 腰部・臀部の疼痛に対する鍼灸治療（腰痛・坐骨神経痛）
7. 股関節部の疼痛に対する鍼灸治療（股関節痛）
8. 膝関節部の疼痛に対する鍼灸治療（鷲足炎・オスグッド）
9. 下腿部・足部の疼痛に対する鍼灸治療（アキレス腱炎・足底腱膜炎）
10. 全身症状に対する鍼灸治療：（眼精疲労）
11. 全身症状に対する鍼灸治療：（感冒）
12. 全身症状に対する鍼灸治療：（不眠）
13. 全身症状に対する鍼灸治療：（頭痛）

- 14.全身症状に対する鍼灸治療：（慢性疲労症候群）
 - 15.美容鍼灸の現状、リスク管理など美容鍼灸の導入について
 - 16.美容知識（現代医学的理論・解剖学）、刺鍼の練習
 - 17.美容知識（東洋医学的理論・経穴）、刺鍼の練習
 - 18.美容知識（皮膚科学）、刺鍼の練習
 - 19.全身美容鍼灸 カラダからアプローチする美容（鍼）
 - 20.全身美容鍼灸 カラダからアプローチする美容（灸）
 - 21.症状別美容鍼「顔の浮腫み・小顔」理論と実技
 - 22.症状別美容鍼「ゆがみ」理論と実技
 - 23.症状別美容鍼「たるみ・しわ」理論と実技
 - 24.症状別美容鍼「くすみ・クマ・シミ」理論と実技
 - 25.症状別美容鍼「ニキビ」理論と実技
 - 26.美容鍼灸のための顎関節症に対する理論と実技
 - 27.美容鍼灸のためのフェイシャル（理論、クレンジング）
 - 28.まとめ 美容鍼灸とフェイシャルの実践
 - 29.実技試験
 - 30.定期試験
-

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間 復習：実技後、自身の不足分について十分に技術を確認し、復習しておくこと。

教科書

授業の際に適宜案内する。

参考書

- 『解剖学』 東洋療法学校協会（医歯薬出版社）
 - 『現代鍼灸臨床の実際』 松本勅（医歯薬出版社）
 - 『美容のヒフ科学』 改定9版 安田利顕（南山堂）
 - 『中医学に基づく美容鍼灸』 王財源（医歯薬出版社）
-

備考

鍼灸診察法 I (35511)

後期

Examination Method of Acupuncture and Moxibustion I

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	西川千賀子

授業の概要

鍼灸治療を行う際に初めに行うのが、医療面接、身体診察、徒手検査である。そこで得た情報を自らの知識や経験の中で統合することによって、病態把握、鑑別、あるいは他のことに関連する体の不調を理解することができる。

鍼灸診察法Iでは東洋医学的診察・現代医学的診察の進め方から症候までを中心に学習する。医学用語がたくさん出てくるが、関連する病気とともに興味を持って知識の習得を目指す。

【フィードバック】課題、小テストに対する講評や省察を含めた指導を行う。

到達目標

- (1)医療面接を適切に行い、インフォームドコンセントを行うことができる。
- (2)鍼灸治療を行う上で必要な診察に関する知識を習得する。
- (3)身体診察を行う意義を理解し、異常所見について説明することができる。
- (4)東洋医学的な身体診察のために舌診、脈診、腹診を行うことができる。
- (5)徒手検査等の基礎を理解し、基本的な検査を適切に行うことができる。

評価方法

小テスト：30%

授業態度：10%

定期試験：60%

注意事項

授業中の私語や飲食、携帯電話（スマートフォン・タブレット含む）の使用は行わない事。小テスト・期末テストなどの試験内容は、はり師・きゅう師国家試験に準じた内容となっている。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス、診察の概要(1)(臨床医学総論p1-9)
第2回	診察の概要(2)(東洋医学概論p213-248)
第3回	診察の方法(1)(臨総p9-39)
第4回	診察の方法(2)(臨総p9-39)
第5回	診察の方法(3)(東概p202-211)
第6回	予備日
第7回	バイタルサイン(1)(臨総p29-36)
第8回	バイタルサイン(2)(東概p215,222-225,256-265)
第9回	全身の診察(1)(臨総p41-52、臨床医学各論に掲載される当該疾患の症状・診断、東概p202-203)
第10回	全身の診察(2)(臨総p52-56、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断)
第11回	全身の診察(3)(臨総p57-69、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断)
第12回	予備日

回数	内容
第13回	局所の診察（1）（臨総p71-77、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第14回	局所の診察（2）（臨総p78-82、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第15回	局所の診察（3）（臨総p82-89、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第16回	局所の診察（4）（臨総p90-99、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第17回	局所の診察（5）（臨総p100-103、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第18回	予備日
第19回	神経系の診察（1）（臨総p106-127、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第20回	神経系の診察（2）（臨総p106-127、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第21回	神経系の診察（3）（臨総p106-127、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第22回	予備日
第23回	徒手検査（頸部・上肢）（臨総p145-146）
第24回	徒手検査（五十肩）（臨総p146-148）
第25回	徒手検査（腰）（臨総p148-149）
第26回	徒手検査（坐骨神経）（臨総p148-149）
第27回	徒手検査（膝関節）（臨総p150）
第28回	運動機能検査（1）（臨総p129-151、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第29回	運動機能検査（2）（臨総p132-151、臨各に掲載される当該疾患の症状・診断）
第30回	予備日

授業外学習

授業外学習時間の目安：30時間

(1)毎回の授業前に予習をしておくこと。（各15分）

・教科書の該当ページを3回読み、概略をつかむ。3回目を読む際には、教科書の見出しや太字部分（キーワード）についてどこにあるか見当がつけられるようになっていること。

(2)毎回の授業後に復習をすること。（各15分）

・教科書の該当ページを3回読み、内容を理解する。

・1回目：キーワードに注意しながら読む。

・2回目：要点を理解するよう努める。

・3回目：キーワードと教科書の内容が一致するようになっていること。

(3)各章ごとに小テストを実施する。（各15分）

1.診察の方法 2.バイタルサインの診察 3.全身の診察(1)(2) 4.局所の診察(1)(2) 5.神経系の診察 6.運動機能検査

教科書

新版東洋医学概論|東洋療法学校協会編|医道の日本社

臨床医学総論 第2版|東洋療法学校協会編|医歯薬出版|978-4263241714

臨床医学各論 第2版|東洋療法学校協会編|医歯薬出版

参考書

鍼灸臨床問診・診察ハンドブック | 出端昭男 | 医道の日本社 |

他、適宜紹介する。

備考

鍼灸診察法Ⅱ（35309）

通年

Examination Method of Acupuncture and Moxibustion Ⅱ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	遠藤宏

授業の概要

鍼灸診察法について、鍼灸治療に必要な現代医学的な診察の知識および技法を教授する。さらに診察によって考えられる各疾患について、鍼灸刺激による生体反応をもとに、最適な治療法を考案できるようにする。

到達目標

1. 現代医学の検査・診断の知識を理解している。
2. 現代医学の検査・診断の技術を理解している。
3. 現代医学と鍼灸医学の双方の診断を基に適応症の鑑別ができる。
4. 双方の臨床的意義を照らし合わせ、お互いを融合させた治療を導くことができる。

評価方法

基本の理解（到達目標1, 2）、臨床への応用力（到達目標3, 4）を定期試験(60%)、予・復習のための確認小テスト(40%)、もしくはレポート提出に配分して評価する。得点60点以上を合格とする。

注意事項

目的意識をしっかりとって授業に臨むこと。

授業計画

- 1週目：鍼灸治療における現代の臨床検査と症状の意義
- 2週目：その他の診察1（緊急時の診察・女性の診察）
- 3週目：その他の診察2（小児の診察・高齢者の診察）
- 4週目：一般検査1（尿検査）
- 5週目：一般検査2（便検査）
- 6週目：一般検査3（血液検査）
- 7週目：血液生化学検査1（蛋白）
- 8週目：血液生化学検査2（血糖）
- 9週目：血液生化学検査3（脂質）
- 10週目：血液生化学検査4（酵素ほか）
- 11週目：生理学的検査および画像診断1（心・筋・脳など）
- 12週目：生理学的検査および画像診断2（呼吸・代謝など）
- 13週目：生理学的検査および画像診断3（超音波・X線・CTなど）
- 14週目：臨床検査基準値のまとめ
- 15週目：頭痛・顔面痛
- 16週目：歯痛・眼精疲労・鼻疾患・めまい・耳鳴・難聴
- 17週目：動悸・胸痛・咳・痰・息切れ
- 18週目：腹痛・便秘・下痢
- 19週目：月経異常・不正性器出血
- 20週目：排尿障害・乏尿・無尿・多尿・浮腫・
- 21週目：肩こり・頸肩腕痛・肩関節痛
- 22週目：上肢痛・腰下肢痛・関節痛・運動麻痺
- 23週目：食欲不振・肥満・痩せ
- 24週目：発熱・のぼせ・冷え
- 25週目：不眠・疲労・倦怠

26週目：発疹・ショック・出血傾向・易感染症

27週目：貧血・眼振・口渴・嘔声

28週目：嚥下困難・血痰・喀血・胸水

29週目：悪心・嘔吐・吐血・下血

30週目：意識障害・試験前まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

シラバスに沿って各内容を毎回予習する。

授業のはじめに前回行った内容の確認問題を解き(復習)、解けなかった箇所は次回までの授業外での課題とする。毎回復習をして確認テストに臨む。

教科書

「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 奈良信雄 著

「生理学」東洋療法学校協会編 内田さえ、原田玲子 他著

「解剖学」東洋療法学校協会編 河野邦男 他著

参考書

「東洋医学概論」東洋療法学校協会編 (医道の日本社)

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」東洋療法学校協会編 医歯薬出版

「臨床医学各論」[第2版] 東洋療法学校協会編 医歯薬出版

備考

鍼灸治療所実習 I (35105)

前期

Clinical Practice at The Acupuncture and Moxibustion Care Center I

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	● 遠藤宏 ● 箕口けい子 ● 中山直樹

授業の概要

附属施設にてはり師・きゅう師として施術時に身に付けていなければならない総合的知識、治療に必要な技能、安全かつ衛生的環境を整える能力、および医療面接でのコミュニケーション技術を習得すると共に、模擬患者となり鍼灸治療の効果を体験する。また、鍼灸師に求められるリハビリテーション医学の知識と実践についても学ぶ。

【アクティブラーニング】調査学習、グループディスカッション、グループワークを取り入れている。

【フィードバック】小テストに対する講評や省察を含めた指導を行う。

到達目標

- (1)患者の病歴を聴取し、適切な医療面接ができる。
- (2)病態に応じた適切な身体所見がとれる。
- (3)病状に対する適切な経絡経穴が選択できる。
- (4)目的とする場所へ、安全かつ正確な刺鍼・施灸ができる。
- (5)インフォームドコンセントが的確にできる。
- (6)診療記録を作成できる。
- (7)施術所の衛生環境を自らすすんで整えられる。
- (8)鍼灸治療に関連する基本知識を理解している。

評価方法

実習に取り組む姿勢50%（到達目標（1）～（7）を評価）、小テスト10%（到達目標（8）を評価）、定期試験40%（到達目標（8）を評価）で成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

本科目の受講者は「基礎はり実技」、「基礎きゅう実技」を終了した者に限られる。また、筆記試験の内容は、はり師・きゅう師国家試験に準ずる。

本科目は、はり師・きゅう師国家試験の受験資格に必須であるため、目的意識を持って履修すること。

土曜日あるいは夏期に集中授業を実施する。詳細については追って指示する。

協力患者を入れての実習では、患者の主訴に応じた実習となる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション(遠藤、箕口、中山)
第2回	1.医療面接の導入、(1)～(5)を行う。(1)患者の迎え入れ、(2)コミュニケーション（対話）の基礎、(2)態度・技法の基礎、(4)十問診、(5)グループワーク（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション（中山）。
第3回	1.身体診察、(1)～(6)を行う。(1)頭頸部、(2)胸背部、(3)腹部、(4)脳神経系、(5)末梢神経系、(6)グループワーク（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・運動のしくみ①（中山）。3.小テスト。
第4回	1.血圧・その他の測定、(1)～(4)を行う。(1)触診法、(2)聴診法、(3)指尖脈波、(4)グループワーク（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・運動のしくみ②（中山）。
第5回	1.良導絡測定、(1)～(4)を行う。(1)良導絡の診方、(2)良導絡測定機材の設置、(3)良導絡測定、(4)グループワーク（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・評価・介入(総論)（中山）。

回数	内容
第6回	1.医療面接・身体診察・理学検査の実践、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・運動器①（中山）。3.小テスト。
第7回	1.医療面接・身体診察・理学検査の実践、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・運動器②（中山）。
第8回	1.医療面接・身体診察・理学検査の実践、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・切断（中山）。
第9回	1.医療面接・身体診察・理学検査の実践、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・脳卒中（中山）。3.小テスト。
第10回	1.医療面接・身体診察・理学検査の実践、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・神経・筋疾患（中山）
第11回	1.医療面接・身体診察・理学検査・診療記録の作成、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・脊髄損傷（中山）
第12回	1.医療面接・身体診察・理学検査・診療記録の作成、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・内部障害（中山）。3.小テスト。
第13回	1.医療面接・身体診察・理学検査・診療記録の作成、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・小児（中山）。
第14回	1.医療面接・身体診察・理学検査・診療記録の作成、協力患者を入れての実習を行う（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・まとめ（中山）。
第15回	1.症例検討（遠藤、箕口）。2.リハビリテーション・内容確認テスト（中山）。3.小テスト。

授業外学習

実習ではさまざまな病態に関する基礎知識が必要とされる。次週までに必ず病態生理・診察法・治療方針・取穴部位について確認し、質問に答えられるようにしておくこと。

教科書

東洋療法学校協会編 『リハビリテーション医学 第4版』 医歯薬出版 | ISBN978-4-263-24173-8
 東洋療法学校協会編 『解剖学 第2版』 医歯薬出版 | ISBN978-4-263-24207-0
 東洋療法学校協会編 『生理学 第3版』 医歯薬出版 | ISBN978-4-263-24172-1

参考書

東洋療法学校協会編 『新版 東洋医学概論』 医道の日本 | ISBN:978-4-7529-5173-5
 東洋療法学校協会編 『新版 経絡経穴概論 第2版』 医道の日本 | ISBN:978-4-7526-5160-5
 東洋療法学校協会編 『臨床医学総論 第2版』 |医歯薬出版 | ISBN:978-4263241714
 その他、東洋療法学校協会が定める教科書すべて。

備考

鍼灸治療所実習Ⅱ (35154)

後期

Clinical Practice at The Acupuncture and Moxibustion Care Center II

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20 W
単位数	2.0単位
担当教員	遠藤宏 箕口けい子

授業の概要

附属施設にて東洋医学的および西洋医学的に診察・検査・鑑別・鍼灸治療の処方・カンファレンスを行う。鍼灸治療を行うまでの一連のながれに関するすべての事項について、現場実習を通して学び習得する。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

到達目標

- (1)病歴を聴取し、適切な医療面接ができる
- (2)病態に応じて適切な身体所見が取れる。
- (3)症状に対する経絡経穴を選ぶことができる。
- (4)インフォームドコンセントが的確にできる。
- (5)適切な診療記録の記載および症例の発表と説明ができる。
- (6)施術所の衛生環境を自ら整えることができる。
- (7)鍼灸師として必要な知識を理解し、説明ができる。

評価方法

実習に取り組む姿勢50%（到達目標（1）～（6）を評価）・プレゼンテーション10%（到達目標（7）を評価）、筆記試験40%（到達目標（7）を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

注意事項

本科目の受講者は「鍼灸治療所実習Ⅰ」を終了した者に限られる。筆記試験の内容は、はり師・きゅう師国家試験に準じる。

本科目は、はり師・きゅう師国家試験の受験資格に必須であるため、目的意識を持って履修すること。

土曜日あるいは冬期に集中授業を実施する場合もある。詳細については追って指示する。

協力患者を入れての実習では、患者の主訴に応じた実習となる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション(遠藤、箕口)
第2回	協力患者を入れて、実習(1)～(6)を行う。(1)患者対応(問診・診察・検査)、(2)病態把握、(3)治療方針の決定、(4)治療法の決定、(5)カルテ作成、(6)ケースカンファレンスおよびグループワーク(遠藤、箕口)。
第3回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第4回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第5回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第6回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第7回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第8回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。
第9回	協力患者を入れて、2回目の実習(1)～(6)を行う(遠藤、箕口)。

回数	内容
----	----

第10回	専門的治療技術を学ぶ〔1〕（外部講師1、遠藤、箕口）。
------	-----------------------------

第11回	専門的治療技術を学ぶ〔2〕（外部講師2、遠藤、箕口）。
------	-----------------------------

第12回	専門的治療技術を学ぶ〔3〕（外部講師3、遠藤、箕口）。
------	-----------------------------

第13回	専門的治療技術を学ぶ〔4〕（外部講師4、遠藤、箕口）。
------	-----------------------------

第14回	専門的治療技術を学ぶ〔5〕（外部講師5、遠藤、箕口）。
------	-----------------------------

第15回	まとめ、プレゼンテーション（遠藤、箕口）
------	----------------------

授業外学習

さまざまな病態に関する基礎知識、診察法、治療法、経穴部位に対して自己学習に努めること。

教科書

東洋療法学校協会編 『解剖学 第2版』 医歯薬出版 | ISBN978-4-263-24207-0

東洋療法学校協会編 『生理学 第3版』 医歯薬出版 | ISBN978-4-263-24172-1

参考書

東洋療法学校協会編 『新版 東洋医学概論』 医道の日本 | ISBN:978-4-7529-5173-5

東洋療法学校協会編 『新版 経絡経穴概論 第2版』 医道の日本 | ISBN:978-4-7526-5160-5

その他、東洋療法学校協会で定める教科書すべて。

備考

ウェイトコントロール論 (35608)

前期

Weight Control

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

誤ったダイエットの多い現在、運動・栄養の科学をとおして、たんに体重を増減させるといった視点ではなく、体組成の数値の意味について理解させ、次いで日常生活の中で健康を維持するための体重調節と、アスリートとしての体重調節につき種目別に理解させる。

到達目標

ウェイトコントロールに関する知識および実践方法を身につける。

評価方法

授業態度（50%）、課題レポート（50%）で総合的に評価する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	食生活と健康運動
第3回	身体を構成する要素
第4回	肥満のメカニズム
第5回	肥満の判定法
第6回	運動強度と体重調節
第7回	減量の必要性和危険性・拒食症と体重調節
第8回	増量の必要性和増量の危険性・過食症と体重調節
第9回	身体活動量の定量法とその実際（1）
第10回	身体活動量の定量法とその実際（2）
第11回	栄養・食事アセスメント（1）
第12回	栄養・食事アセスメント（2）
第13回	ウェイトコントロール計画の立案
第14回	ウェイトコントロール計画の作成
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

自分自身のウェイトコントロールを行う。

教科書

必要資料は作成して配布予定

参考書

随時配布予定

備考

Health Food

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	内藤佐和

授業の概要

近年、健康食品が日常的に利用されているが、誤った情報が氾濫し正しい知識が普及していないのが現状である。

本講義では、人間の体のケアに関する知識や技能を身につけることを目標とし、健康食品（特に保健機能食品、サプリメント）についてその効果だけでなく、可能性のあるリスク等について学ぶ。

到達目標

- 1 健康食品の基礎知識について理解し説明できる
- 2 健康食品の正しい利用法やリスクについて理解し説明できる

評価方法

授業中に実施する練習課題を10%（到達目標1を評価）レポート20%（到達目標2を評価）および定期試験70%（到達目標1, 2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

受講にあたっては食品学および栄養学の基礎知識を有していることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	健康食品（サプリメント含む）とは
第2回	保健機能食品（特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品）とは
第3回	健康食品と食生活
第4回	サプリメント（脂溶性ビタミン）
第5回	サプリメント（水溶性ビタミン）
第6回	サプリメント（ミネラル）
第7回	運動と健康食品
第8回	肥満と健康食品
第9回	肌の健康と健康食品
第10回	腸の健康と健康食品
第11回	その他の用途における健康食品 レポート（健康食品の利用法およびリスクについて）
第12回	ハーブ系サプリメント
第13回	健康食品と薬の相互作用
第14回	健康食品における表示
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

次回テーマについて、授業計画欄に示す内容に関連する専門用語等を調べ、理解できるよう毎回予習しておくこと（各2時間）。
毎回練習課題を実施するので、復習もしっかりと行うこと。また、授業内容の理解度向上のため、課題レポートを出題する（各2時間）。

教科書

資料プリントを配布する。

参考書

最新の参考文献等を随時紹介する。

備考

リラクゼーション論 (35607)

前期

Relaxation

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	折田真弓

授業の概要

ストレスとリラクゼーションについて学ぶ。リラクゼーション法について学び習得する。

到達目標

リラクゼーション法を習得する。

リラクゼーション法を指導者として指導出来るようになる。

評価方法

授業への積極性・授業ノート記入・定期試験で評価する。

授業への積極性40%・授業ノート30%・定期試験30%

注意事項

長時間の座学となるため、実践方法も取り入れてメリハリある授業内容にする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレスとは
第3回	ストレスチェック
第4回	リラクゼーションとは
第5回	リラクゼーション法紹介
第6回	睡眠の重要性
第7回	自律神経
第8回	呼吸のしくみ
第9回	身体的リラクゼーション
第10回	精神的リラクゼーション
第11回	リラクゼーション実践1
第12回	リラクゼーション実践2
第13回	リラクゼーション実践3
第14回	まとめ
第15回	定期試験

授業外学習

回数	内容
第1回	オリエンテーション後の仲間との交流を深める (各2時間)

回数	内容
第2回	日々のストレスについて考える
第3回	日々のストレスをチェックする
第4回	リラクゼーションとは 授業内容を理解
第5回	リラクゼーション法実践
第6回	睡眠時間の計測
第7回	自律訓練法実践
第8回	呼吸法実践
第9回	身体的ストレスチェック
第10回	精神的ストレスチェック
第11回	身体ほぐし実践
第12回	リラクゼーション運動1
第13回	リラクゼーション運動2
第14回	授業内容をまとめ理解する
第15回	リラクゼーションを理解する

教科書

授業内で提示

参考書

授業内で紹介

備考

ボディーケア（35604）

前期

Body Care

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

ヒトは60兆個の細胞から作られ、その細胞の一つ一つがそれぞれ生命維持の働きをしている。細胞環境をよくするためには十分に栄養を含んだ血液を滞らせることなく、身体の隅々にまで循環させ、細胞の新陳代謝を活発にし、自然治癒力や免疫力を最大限に発揮させることである。その科学を生理学、栄養学、運動科学と関連させながら学ぶ。

到達目標

ボディーケア法を追求しリラックスした心と体をケアする知識・技術を習得することが出来る。

評価方法

授業態度（50%）レポート課題（50%）で総合的に評価する。

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	筋肉・骨格・神経
第2回	体の仕組み・身体機能
第3回	不調の原因・メカニズム
第4回	三大栄養素
第5回	食生活改善
第6回	ストレッチ
第7回	マッサージの基礎技術
第8回	頭部、顔面部、頸部の治療法
第9回	肩部、胸部、上背部の治療法
第10回	上腕部、前腕部、手部の治療法
第11回	脊椎の治療法
第12回	腰部、腹部の治療法
第13回	骨盤部の治療法
第14回	大腿部の治療法
第15回	下腿部、足部の治療法

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

身体の構造機能について、自己復習。

教科書

特になし。必要資料は作成して配布予定

参考書

随時配布

備考

アロマセラピー (35211)

前期

Aromatherapy

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	田中まり

授業の概要

時間と情報に追われる現代社会は「高ストレス社会」。ストレス、生活環境の悪化などを乗り越えて、健全な生活を維持していくためには何らかの対応をしなければなりません。現代人にとってのセルフケアの鍵は「抗ストレス」「抗酸化」にあると思います。植物の成分を使って心身を癒し治すフィトセラピーの効果が現在、注目を集めています。人間の歴史の中で、その効力は証明されております。認知症の予防にと話題になりました。また、トップアスリートは、メンタル面の強化、筋肉痛の軽減と強化に使用します。リラクゼーションのためのルームコロン、バスソルト、ソープ、柔軟剤の香り、虫除けスプレー、精油を染込ませた網戸も人気です。ただおしゃれで、気持ちが良いというだけで終わらず、心身にメディカルな効果を出すために、ハーブや精油についての正しい知識を学びます。そして、自分、また家族、周囲の方のセルフケアができ、より良い生活を送る事ができ、世の中に貢献できるようになります。

到達目標

- 1 ハーブ、精油の特徴を知り、それを安全かつ効果的に活用するための知識を身につける。
- 2 手軽で安全な使用法を知り、毎日の生活に取り入れる事により、生活レベルを上げ、薬品ではない自然の力を実感する。
- 3 より高度に学びたい方には、資格取得への1歩となる。

評価方法

- ・毎回の講義への集中度（実践後のレポート）。（40%）
- ・定期試験。（60%）

注意事項

- ・体に塗布、飲用する物なので、衛生面、自己管理について責任を持って接する事。
- ・教科書に関しては、講座開講時に販売予定なので、教科書代金として別途2000～3000円が必要となる。

授業計画

基礎知識1：「アロマセラピー、フィトセラピーとは」（芳香体験 → 柔軟性の変化）

基礎知識2：精油、ハーブの成分、取り扱い方、使用例、禁忌・注意事項等（簡易自己診断テスト → 芳香剤作成）

基礎知識3：精油、ハーブの基礎知識（化学成分と主な作用の違い等）（芳香体験）

基礎知識4：キャリアオイルの成分、取り扱い方、使用例、禁忌・注意事項等（塗布体験）

精油のプロフィール：スパイス（ハーブ）の効能と効果的活用法

精油のプロフィール：ハーブウォーターの効果的活用法（ウェットティッシュ作製）

精油のプロフィール（精油）精油のエネルギーを知る（リラックスとリフレッシュの違い）

精油のプロフィール（精油）精油のエネルギーを知る（体質バランスチェックシート取組み → 自分を知り、バランスを取る方法を知る）

精油成分の流れを知る（漢方的所見による体質チェックシート取組み→ツボに塗布することで経絡を通じてどうなるかを知る）

精油成分の効能を知る（化学成分を学ぶ → どの成分がどんな効果があるのかを知る） 目的別精油活用法：自律神経（ストレス抵抗度テスト）

精油成分の効能を知る（化学成分を学ぶ → どの成分がどんな効果があるのかを知る） 目的別精油活用法：筋肉関連（筋力アップ、痛みの緩和）

精油成分の効能を知る（化学成分を学ぶ → どの成分がどんな効果があるのかを知る） 目的別精油活用法：免疫力向上

精油成分の効能を知る（化学成分を学ぶ → どの成分がどんな効果があるのかを知る） 目的別精油活用法：スキンケア 美容

まとめ（精油の特性）

まとめ（精油の特性）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回の講義で知り得た事、作成した物を実際に使用し、体験し、その感性をもって次のステップに進んでもらいたいので、実生活の中で実践

する事。

・新しい課題、実践しての体験をレポートとして提出してもらるので、予習・復習をしっかりとて授業内容についてよく理解しておくこと。

教科書

木田順子『あたらしい アロマセラピー辞典』高橋書店

1650円

ISBN-10 : 4471123440

ISBN-13 : 978-4471123444

参考書

ハーブブック (フレグランスジャーナル社)

備考

ヒーリング実習 (35658)

前期

Healing Training

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～22W
単位数	2.0単位
担当教員	美登由紀子

授業の概要

ストレス社会に生きる人間の身体と心に目を向けていき、ヒーリングの必要性、重要性について学ぶ。自己のヒーリング方法を学び実践していくとともに、指導者として他社へのヒーリング指導方法を習得する。休養の質を高め健康づくりに役立つ知識を身につける。

到達目標

- 1 ストレスについて理解する。
- 2 自己のヒーリング方法を習得し、実体験する。
- 3 他者へのヒーリングの指導方法を習得する。
- 4 自己の生活リズムを見直す。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢・授業ノート記入・ヒーリング方法実践・定期試験等により総合的に評価する。評価の比率は、授業の積極性40%・授業ノート30%・定期試験30%

注意事項

授業外でもヒーリング実践出来るよう解りやすい説明と課題の提出

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレスとは
第3回	ヒーリングとは
第4回	ヒーリング方法1「自律訓練法」
第5回	ヒーリング方法2「筋肉弛緩法」
第6回	ヒーリング方法3「呼吸法」
第7回	ヨガ理論
第8回	ヨガ実践1呼吸法
第9回	ヨガ実践2ポーズ
第10回	ヨガ実践3ポーズ
第11回	ストレッチポール
第12回	ペアヨガ・ペアストレッチ
第13回	ピラティス理論
第14回	ピラティス実践
第15回	ヒーリングまとめ・試験

授業外学習

回数	内容
第1回	オリエンテーション 仲間との交流を深める (学習時間の目安: 各2時間)
第2回	「ヒーリングとは」授業内容を理解する ヒーリングについて興味関心を持つ
第3回	「ストレスとは」授業内容を理解する。日々のストレスに気づく
第4回	「ストレスチェック」授業内容を理解する。自己のストレスチェックを継続する
第5回	ヒーリング方法1「自律訓練法」の練習
第6回	ヒーリング方法2「筋肉弛緩法」の練習
第7回	ヒーリング方法3「呼吸法」の練習
第8回	ヒーリング方法4「ヨガ」の練習
第9回	「ヨガ」継続訓練 知識理解
第10回	「ヨガ」継続訓練 呼吸法
第11回	「ヨガ」継続訓練 ポーズ習得
第12回	「ヨガ」継続訓練 柔軟性強化
第13回	「ヨガ」継続訓練 集中力強化
第14回	「ピラティス」練習 体幹強化
第15回	ヒーリング方法実践

教科書

授業内で提示する

参考書

授業内で紹介

備考

中医栄養学（35304）

前期

Theory of Traditional Chinese Nutrition

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	田中まり

授業の概要

中医栄養学とは、中国医学（漢方医学）を基とした栄養学のことで、

栄養学というと、カロリー、塩分、ビタミン、ミネラル・・・が当たり前です。しかし、中医栄養学では、カロリー、ビタミン、ミネラルといった概念はありません。ひとつひとつの食物には、温めたり冷やしたりする力、特定の臓器に働きかける力、体質を改善していく力があると言われています。中医栄養学とは「不調の原因を探し出し、症状を改善する効果を持つ食材を組み合わせ、調理法を考えた食事を提供する事により、健康な状態へと戻していく」事が目的となります。漢方医学に基づいて、食材、中薬（漢方薬）の組み合わせ、調理方法を学び、実践する事により、西洋医学と合わせて、より良い体調で生活できるようになります。

例えば、「貧血を改善するためには、お味噌汁に酢を一滴加える」「冷え性改善には、朝食をパンからご飯に代える」と言うような事で、ごく当たり前の食事が、中医学的な知識により、簡単に栄養価が高まる事を知って頂きたいと思います。

到達目標

1 個々人の心身の健康状態を診断し、その方の要望に応じた、疾病予防、疾病治療等に応えるための食事療法の指針ができるようになることを目標とする。

例) 風邪をひいたかなと思った時、何を食えば良いのか。この方にはこれ、あの方にはあれ と 人や症状によつて的確な食材を勧められるようになる。

2 体調不良をなんとかしたい、体質改善をしたいと思う時に、何を食べたり飲んだりすれば良いのかがわかるようになる。

評価方法

試験 60% 授業態度（レポート、小テスト等） 40%

注意事項

理解度によって、次に進めないこともあるため、講義計画の順番が変わることもある。

この授業を受講していない場合は、後期開講の中医栄養学実習は受講できない。前期で理論を学び、後期で実習するというシステムであるので、教科書は1年間使用することとなる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、中医栄養学の概念、現代栄養学との違い、中医栄養学実習との関連、参考書についてなど）
第2回	オリエンテーション（授業の進め方、中医栄養学の概念、現代栄養学との違い、中医栄養学実習との関連、参考書についてなど）
第3回	中医栄養学の基本理論I（体質診断 5つのタイプの特徴）
第4回	中医栄養学の基本理論II（五行表の説明 応用）
第5回	中医栄養学の基本理論III（五行表の説明 応用）
第6回	中医栄養学の基本理論IV（中薬 食材の効能）
第7回	中医栄養学の基本理論V（食材の帰経 組み合わせ）
第8回	中医栄養学の基本理論VI（体質別の食べ方 体質の詳細 判断）
第9回	中医栄養学の基本理論VII（体質別の食べ方）
第10回	経絡の流れ、筋肉との関連から 食材を考える（筋力テスト）

回数 内容

第11回 経絡の流れ、筋肉との関連から 食材を考える (筋力テスト)

第12回 薬膳の理論と実践 疾病に合わせた中医栄養学

第13回 薬膳の理論と実践 疾病に合わせた中医栄養学

第14回 現代特有の疾患に対する中医栄養学 (アレルギー ガン、アトピー、ストレス疾患 等)

第15回 現代特有の疾患に対する中医栄養学 (アレルギー ガン、アトピー、ストレス疾患 等)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

講義内容をしっかりと理解するためには予習・復習が必要である。

例えば、次の講義に出てくるであろう食薬や中薬について調べ、身近な物であれば食事の中で使用してみる、学んだ後にも食事に加えてみる等もよい。

講義内容定着のためには授業後のノート整理も必要である。毎回質問していくので、少しずつでも行うこと。

教科書

実用体質薬膳学：辰巳洋 著 東洋学術出版社

参考書

増補新版 薬膳・漢方 食材&食べ合わせ手帳：諭静・植木もも子/監：西東社

備考

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	田中まり

授業の概要

- ・中医栄養学（漢方学を基とする栄養学）を基とする調理法、食材の効能、組合わせを知り、西洋栄養学の考え方にプラスしていくことにより、より良い食生活をおくり、生活レベルの向上を目指す。
- ・今まで考えもしなかった食材の効能を知り、それをより多く引き出す調理法をマスターする事により、体調を改善し体質改善を図ることができる。

毎回目的に応じた献立を立て、実習する。

献立を考え、主食、主菜、副菜、デザート、お茶 等の中から、最も目的に適した物を作る。

到達目標

- 1 季節、環境、肉体・精神状態を考慮した上での個人個人の体調 希望に対応した食事献立を立てられるようになる。
- 2 漢方医学だけでなく、西洋栄養学に基づいた栄養素の摂取方法、消化吸収、代謝の基礎知識を知り、調理技術を身につける事ができる。
- 3 自分で簡単に食生活を組み立て、調理し、より健全な生活を送れるようになる。

評価方法

実習への集中度。(70%)

定期試験。(30%)

注意事項

口に入る物を作成するので、衛生管理に注意する。

普段使わない食材を使用する事もあるので、自分の体調管理を徹底し、アレルギーその他に関する申請は正直にする事。

包丁、ガス、火等の危険物を使用するため、くれぐれも作業中注意を怠らない事。

内容に関しては、食材が季節によって変わるので、献立、使用する食材は変わる場合がある事を了承していただく。

別途材料費が1回につき500円程度かかります。

受講人数が少ない時は、予定献立、材料費が変更される場合もあります。

授業計画

- 1 調理の基本 衛生面の注意 準備後片付けの段取り説明 器具、その他の使用説明 立ち方、切り方を学ぶ：
調味料の基本 出汁の素 調味料を作る ご飯 お味噌汁
- 2 調理の基本 食材の扱い方、切り方の習得 体質チェックシート取組み 体質チェックシートから傾向と対策を練る：
野菜の処理 (切り方、加熱の仕方)
- 3 養生薬膳 (秋)：乾燥を防ぐために(肺、大腸の養生)：
梨と銀耳のデザート 等
- 4 養生薬膳 (春)：解毒、廃毒のために(肝、胆の養生)：
玉葱と木耳のマリネ 等
- 5 養生薬膳 (夏)：暑さから身を守り、熱を排除するために(心、小腸の養生)：
人参とオレンジのピューレ 等
- 6 養生薬膳 (土用)：湿邪、不要水分の排泄のために(脾、胃の養生)：
芋類の子芋ミ 等
- 7 養生薬膳 (冬)：冷え予防のために(腎、膀胱の養生)：
練りくり餅 等
- 8 改善薬膳 条件に合わせた薬膳(心身の均衡を保つために 効能を考えて)
- 9 改善薬膳 //
- 10 改善薬膳 //

- 11 改善薬膳 //
 - 12 改善薬膳 //
 - 13 改善薬膳 //
 - 14 改善薬膳 //
 - 15 改善薬膳 色々な体質に応じた薬膳餃子
-

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・授業で学んだ事を実際にやってみる、予習復習をする事により、実際に体調が変わってくる事を実感すること。
 - ・課題をレポートとして提出してもらいますので、予習・復習をしっかりと授業内容についてよく理解しておくこと。
-

教科書

いつもの食材効能&レシピ帖 漢方の知恵を毎日の食卓に 早乙女孝子 著 つちや書店

参考書

実用体質薬膳学 辰巳洋 著 東洋学術出版社

備考

漢方学 (35356)

後期

Theory of Kampo

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

現在の日本は西洋医学による体の診断法が主流になっているが、四季があり、それぞれの季節の特徴がはっきりしている日本においても、中国と同じ様な自然環境から生まれた漢方医学（中医学）の見地からのとらえ方も大きな意味を持っていると考えられる。西洋東洋両面から体を考えるという新しい診方を講義する。

到達目標

- 漢方医学の基礎理論、診察方法、治療方法について説明できる。
- 日本漢方医学の現状及び鍼灸院によく見られる疾患の漢方治療薬の説明ができる。

評価方法

レポート、定期試験等により総合的に評価する。評価の比率は、レポート30%、定期試験70%を基準とする。定期試験70%（到達目標（1）を評価）、レポート30%（到達目標（2）を評価）により成績を評価し、得点率60%以上を合格とする。

注意事項

- 出席率は7割未満の場合、定期試験に参加する資格はない。
- レポートを提出しない場合、合格点が得られにくい。

授業計画

回数	内容
第1回	漢方医学の歴史と現状
第2回	漢方医学の生理学
第3回	漢方医学の病理学
第4回	漢方医学の診断学
第5回	漢方医学の治療法
第6回	漢方医学の生薬学
第7回	漢方医学の処方学
第8回	医療用漢方と一般用漢方
第9回	疼痛性疾患の漢方処方
第10回	消化器疾患の漢方処方
第11回	呼吸器疾患の漢方処方
第12回	婦人科疾患の漢方処方
第13回	漢方薬の誤用と副作用
第14回	漢方医学の養生法
第15回	授業のまとめ

授業外学習

授業外学習時間：合計60時間 指定されるテキストを読み、レポートを作成する。

教科書

講義で資料を配布する。

参考書

必要に応じて作成し配る。

備考

化粧品科学 (35503)

前期

Cosmetic Science

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	岡憲明

授業の概要

化粧品（化粧品や香水、トイレットリー商品）について、その役割から法規制、流通、原料や商品、製造法、有用性、安定性、安全性などを広く学び、当該商品分野の化学的、工学的、生物学的、経済学的な見識を身につける。

【実務経験のある教員による授業科目】元ポーラ化成工業株式会社研究所勤務：化粧品会社の研究員として従事した植物機能性素材（エキスや精油）の開発や化粧品、健康食品の製品開発の経験を活かし、化粧品に求められる様々な機能や化粧品原料に求められる規格、安全性や安定性の評価法、関連法規等、新製品開発に必要な専門的な知見と実際について講義する。

到達目標

1. 化粧品、及びその開発・製造に関する概要を理解している。
2. 広く化粧品業界のことを理解し説明できる。

評価方法

定期試験（到達目標2に該当）と授業への取り組みや発言など平常点（到達目標1に該当）により評価する。

評価は、定期試験（70%）、平常点（30%）の重みで判定する。

注意事項

再試験は行わないので、普段の自習をしっかりとすること。

授業計画

回数	内容
第1回	化粧品役割
第2回	皮膚の構造
第3回	皮膚の生理
第4回	肌タイプと肌トラブル
第5回	紫外線と皮膚の老化
第6回	毛髪、口唇、爪の構造と生理
第7回	スキンケア商品の有用性
第8回	メイクアップ商品、ヘアケア商品の有用性
第9回	化粧品の効果の評価法
第10回	化粧品各論（1）スキンケア商品
第11回	化粧品各論（2）メイクアップ商品
第12回	化粧品各論（3）ヘアケア・ボディケア商品・フレグランス商品
第13回	化粧品原料各論（1）化粧品基材（油剤、界面活性剤）
第14回	化粧品原料各論（2）化粧品基材（顔料、香料、品質保持剤）
第15回	化粧品原料各論（3）薬剤（紫外線防御剤、美白剤、抗酸化剤、抗しわ剤、育毛剤、抗フケ剤、ニキビ用剤、その他）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習として、授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各回につき2時間）

復習として、授業で習ったことを整理しておくこと。（各回につき2時間）

教科書

化粧品科学ガイド 第2版|田上八朗, 杉林堅次, 能崎章輔, 宿崎幸一, 神田吉弘|フレグランスジャーナル社・ISBN978-4-89479-180-0

参考書

授業中に紹介する。

備考

Crop production

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	内藤整

授業の概要

人間は健康に生きるために植物を利用している。生態系の中において人間は消費者であり、作物を摂取することで生きている。作物と人間の関わりを概説した上で、作物の栽培方法について説明する。

【フィードバック】課題レポートに対しては、コメントを記して返却するなどのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.人間生活における作物の重要性を理解し、作物の起源や属する科を説明できる。
- 2.作物の生理生態を理解し、状況に応じた栽培管理が実践できる。

評価方法

小テスト15%（到達目標1を評価）、課題レポート15%（到達目標1,2を評価）、定期試験70%（到達目標1,2を評価）で評価する。

注意事項

栽培を体験することで学習効果が高まると考えられるため、「栽培学実習」を併せて受講することが望ましい。

授業計画

人間生活と作物 P2～3 課題レポート「人間生活に利用される植物」

作物栽培の起源と文化 P4～6、P54～57

作物の特徴と種類 P6～7 課題レポート「作物の学名」

作物の生活史 P18

作物の成長と体の仕組み P19～23、P58～70

光合成 P23～28

栽植 P75～76

収量構成要素 P31～36、P71～72

栽培管理 1.整地 P94～95

栽培管理 2.施肥 P79～81、P95～97

栽培管理 3.播種と育苗 P87～93

栽培管理 4.中耕除草 P103～105

栽培管理 5.病虫害防除 P102～103 課題レポート「農薬の種類」

作付体系 P43～49

まとめ

授業外学習

- ・予習として、教科書の当該部分を読んでおく（15時間）。
- ・復習として、講義内容を理解し、記憶する（30時間）
- ・食料や人間生活にどのような植物が利用されているか調べる（課題レポート「人間生活に利用される植物」）（5時間）。
- ・作物の学名、起源地、属する科を調べる（課題レポート「作物の学名」）（5時間）。
- ・各種の病虫害に対して、どのような農薬が使用されるのか調べる（課題レポート「農薬の種類」）（5時間）。

教科書

作物栽培の基礎|堀江 武|農文協|978-4-540-03342-1

参考書

家庭菜園大百科、板木利隆著、家の光協会

栽培学実習（35510）

通年

Practice of crop production

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	内藤整

授業の概要

人間は健康に生活するために、様々な植物を利用している。採集による利用から、栽培することによって生産量を拡大し、より文化的な生活が可能になった。栽培学実習では、植物を栽培する技術を習得するとともに、その利用を体験する。

【フィードバック】課題レポートに対しては、コメントを記して返却するなどのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.植物の生理生態を理解し、適切な栽培管理ができる。
- 2.栽培した植物を利用し、生活に役立てることができる。

評価方法

栽培した植物の生育状況20%（到達目標1を評価）、授業態度30%（到達目標1,2を評価）、レポートの内容50%（到達目標1を評価）によって評価する。

注意事項

- ・栽培を行うためには基礎的な知識が必要である。そのため、前期に開講される「栽培学」を履修している学生のみ履修を受け付ける。
- ・栽培対象の植物は生き物である。そのため、規定の日時以外にも授業を行う場合がある。また、夏休みには当番を決めて水遣りなどの管理を行う。
- ・農作業に適した服装で参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の概要、注意事項の伝達
第2回	栽培する植物の選定
第3回	圃場整備
第4回	農機具
第5回	土壌改良
第6回	元肥
第7回	播種
第8回	移植
第9回	イネの田植え（学外授業）
第10回	追肥
第11回	田の除草（学外実習）
第12回	中耕除草 課題レポート「畑雑草と水田雑草」
第13回	夏作物の収穫（学外実習）
第14回	夏作物の加工
第15回	病害虫防除

回数	内容
第16回	後期の栽培計画
第17回	圃場準備
第18回	秋・冬作物の播種
第19回	育苗
第20回	間引き
第21回	フラワーポットによる校内緑化
第22回	稲刈り（学外授業）
第23回	脱穀と籾摺り（学外授業）
第24回	残渣の利用による堆肥の製造
第25回	マルチ
第26回	農薬の使用法
第27回	お飾り作り
第28回	秋作物の収穫 課題レポート「作物栽培マニュアル」
第29回	収穫物の利用
第30回	まとめ

授業外学習

- ・日常的に植物の栽培管理（水遣り、施肥、草取りなど）を行い、作物の状態を観察すること（15時間）。
- ・実際に栽培した作物の栽培管理マニュアルを作成する（課題レポート「作物栽培マニュアル」）（10時間）。
- ・畑地と水田の雑草の種類について調べる（課題レポート「畑雑草と水田雑草」）（5時間）。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

農文協「作物栽培の基礎」ISBN978-4-540-03342-1

備考

Pathology

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	藤田雅範

授業の概要

救急救命士に求められる医療従事者としての必要な知識はもとより、病理学における疾患の成り立ちと回復の過程を理解させるとともに、救急搬送の6割を超える急病人に対する観察、判断、処置、病院選定などについて概論的に解説し、救急医学の基礎から応用までを理解させる。

到達目標

- 1 医療従事者としての自覚、人間性、救急現場において的確な観察能力、その症状を理解したうえでの適正な応急処置ができるようになる。
- 2 傷病者に最も適する医療機関の選定など、救急救命士として最低限必要な知識を身につけることができる。
- 3 更なる救急救命医療への向上心を持つことができる。

評価方法

- ・講義に取り組む姿勢、課題レポート提出、模擬授業などの平常点と定期試験で評価を行う。
- ・評価は、レポート（30%）、模擬授業（30%）、定期試験（40%）の重みで判定する。

注意事項

無断での欠席、遅刻、早退はしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（消防救急における救急救命士とは）
第2回	成長の発達と老化
第3回	疾患I
第4回	疾患II
第5回	炎症と感染
第6回	循環障害
第7回	代謝障害I
第8回	代謝障害II
第9回	退行性病変と進行性病変I
第10回	退行性病変と進行性病変II
第11回	腫瘍
第12回	奇形
第13回	損傷I
第14回	損傷II
第15回	死

授業外学習

学習時間の目安：60時間

ミニテストの実施（予習）および課題レポート（復習）の作成を必要毎に行うので、毎回予習ならびに復習をしておくこと。

教科書

改訂第10版 救急救命士標準テキスト：へるす出版

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

生活習慣病予防（35205）

前期

Prevention of Lifestyle-related Diseases

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 椎葉大輔  矢田貝智恵子  吉田悦男

授業の概要

運動不足、栄養過剰、不規則な生活、ストレス増大などにより生活習慣病のリスクが増している。また、近年では生活習慣に起因する代謝異常が児童期から見られることから、生活習慣病予防に関する知見は幼児や児童を対象とする者にとっても重要な知識である。本授業では、生活習慣病の原因・治療法および運動処方や栄養摂取について学び、適切な運動処方や食生活指導を実施できる人材の育成を目標としている。

【アクティブラーニング】運動処方や食生活指導の基礎となるエネルギー摂取・消費量および運動強度など学んだ内容から課題を提示し、それについて発言機会を設定する。

【フィードバック】アクティブラーニング内の課題についての解説を集団および個別に行う。

到達目標

- 「各疾患の基本メカニズムについて理解し説明できる」
- 「各疾患を予防する上で生活習慣病として共通する部分と疾病別に分けて考えるべき部分を、運動と食事の知識に基づき系統立てて理解し説明できる」

評価方法

授業に取り組む姿勢 10%（到達目標1、2）、小テスト 20%（到達目標1、2）、定期試験 70%（到達目標1、2）で評価する。

注意事項

運動処方（3年後期）を履修する予定の学生は履修しておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	メタボリックシンドロームについて（吉田・椎葉）
第2回	肥満症（1）（椎葉・吉田）
第3回	肥満症（2）（矢田貝・吉田）
第4回	脂質異常症（高尿酸血症）（1）（椎葉・吉田）
第5回	脂質異常症（高尿酸血症）（2）（矢田貝・吉田）
第6回	糖尿病（1）（椎葉・吉田）
第7回	糖尿病（2）（矢田貝・吉田）
第8回	高血圧症（1）（椎葉・吉田）
第9回	高血圧症（2）（矢田貝・吉田）
第10回	虚血性心疾患とリハビリテーション（椎葉・吉田）
第11回	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息）（矢田貝・吉田）
第12回	ロコモティブシンドローム（椎葉・吉田）
第13回	がん（悪性新生物）（矢田貝・吉田）
第14回	運動器退行性疾患（椎葉・吉田）

回数	内容
----	----

第15回	軽度認知障害、認知症（矢田貝・吉田）
------	--------------------

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

各回の授業開始時に小テストを課すので、前回の授業内容については、よく復習しておくこと（各4時間）。

また予習については、各回講義終了時に指示する。

教科書

「はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ6 スポーツ・健康栄養学」・赤田 みゆき他著・化学同人・ISBN:978-4-7598-1709-6

参考書

講義中に適宜案内する。

備考

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツに関する基礎的、一般的な医学的事項について理解することをねらいとしている。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。

現場で実践できるよう知識を高める。

- 1 スポーツの内科的障害について理解し、説明できる。
- 2 スポーツの頭部・頸部の外傷と障害、上肢の外傷と障害について理解し、説明できる。
- 3 スポーツの体幹の外傷と障害、下肢の外傷と障害について理解し、説明できる。
- 4 アスレティックリハビリテーションについて理解し、説明できる。

評価方法

- ・授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト、定期試験により総合的に評価する。
- ・評価の比率は平常点（授業に取り組む態度、姿勢）20%、レポート・小テスト50%、定期試験30%を基準とする。

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、アスリートの健康管理①
第2回	アスリートの健康管理②
第3回	コンディショニングの手法
第4回	アスリートの内科的障害と対策
第5回	アスリートの外傷・障害と対策①
第6回	アスリートの外傷・障害と対策②
第7回	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
第8回	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
第9回	スポーツによる精神障害と対策
第10回	特殊環境下での対応
第11回	女性のスポーツ医学
第12回	小児のスポーツ医学
第13回	中高年のスポーツ医学
第14回	障害者のスポーツ医学

回数	内容
第15回	ドーピング防止

授業外学習

毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。前回の授業をよく復習しておく。次回授業のテーマを予習しておく。随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
- ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

スポーツ指導者のためのスポーツ医学|小出 清一ほか |南江堂|978-4-524-24034-0

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻運動器の解剖と機能、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻スポーツ外傷・障害の基礎知識、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻健康管理とスポーツ医学、スポーツ外傷学(1)~(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）、「アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学」文光堂（¥4,800+税）スポーツ医科学（杏林書院¥14,000）、臨床スポーツ医学（月刊誌）文光堂

備考

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	● 山野力 ● 半田明

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツに関する基礎的、一般的、専門的な医学的事項について理解することをねらいとしている。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。

- 1 上肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 2 体幹のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 3 下肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 4 重篤な外傷の病態と診断・検査について理解し、説明できる。
- 5 年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴について理解し、説明できる。

評価方法

- ・ 授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト等により総合的に評価する。
- ・ 評価の比率は平常点（授業に取り組む態度、姿勢）20%、レポート・小テスト等80%

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。

宿題等は毎回出します(予習と復習)。翌週の授業開始時に小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	上肢のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）と倫理。（スポーツドクター）
第2回	上肢のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第3回	上肢のスポーツ外傷・障害3（徒手検査）（スポーツドクター）
第4回	下肢のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）（スポーツドクター）
第5回	下肢のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第6回	下肢のスポーツ外傷・障害3（徒手検査）（スポーツドクター）
第7回	体幹のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）（スポーツドクター）
第8回	体幹のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第9回	体幹のスポーツ外傷・障害3（徒手検査）（山野）
第10回	重篤な外傷の病態と診断・検査1（頭部・脊髄損傷）（スポーツドクター）
第11回	重篤な外傷の病態と診断・検査2（大出血）（スポーツドクター）
第12回	年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴1（発育期）（スポーツドクター）

回数	内容
第13回	年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴2（女性・高齢者）（スポーツドクター）
第14回	整形外科的メディカルチェック1（山野）
第15回	整形外科的メディカルチェック2（山野）

授業外学習

毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。

随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
- ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識（日本スポーツ協会）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）、
スポーツ外傷学(1)~(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）
スポーツ指導者のためのスポーツ医学 南江堂

備考

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	福嶋啓祐

授業の概要

アスリートにみられる内臓器官、感染症、オーバートレーニング症候群や突然死、過換気症候群などの疾患の病態、症状、対応策と処置、予防処置について口述する。また、様々な環境下での運動時における生体の反応、順応、それらの環境下での障害について、さらに、女性や高齢者、発育期の子供の生理的特徴や運動に対する応答、特異的障害についても学習させるとともに、メディカルチェックの意義や必要性、実施内容、ドーピングコントロールなども幅広く解説する。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について学び、意義、目的を理解し、説明できる。

評価方法

定期試験（100％）で評価する。

注意事項

本科目を履修する者は「内科学I（総論）」を受講していることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器系疾患
第2回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)消化器系疾患 (4)血液疾患
第3回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (5)腎・泌尿器疾患 (6)代謝性疾患 (7)皮膚疾患
第4回	B.感染症に対する対応策 (1)呼吸器感染症 (2)血液感染症 (3)皮膚感染症
第5回	B.感染症に対する対応策 (4)ウイルス性結膜炎 (5)海外遠征時に注意すべき感染症 (6)各競技別ルールにみられる感染症対策
第6回	C.アスリートにみられる病的現象など (1)オーバートレーニング症候群 (2)突然死 (3)過換気症候群
第7回	C.アスリートにみられる病的現象など (4)摂食障害 (5)減量による障害 (6)喫煙・飲酒の問題点
第8回	D.特殊環境のスポーツ医学 (1)高所および低酸素環境下での身体への影響 (2)高圧環境 (3)暑熱環境
第9回	D.特殊環境のスポーツ医学 (4)低温環境 (5)時差 (6)海外遠征時の諸問題
第10回	E.年齢・性別による特徴 (1)女性のスポーツ医学 (2)成長期のスポーツ医学
第11回	E.年齢・性別による特徴 (3)高齢者のスポーツ医学
第12回	F.内科的メディカルチェック (1)メディカルチェックの意義と必要性 (2)対象別メディカルチェックの内容 (3)メディカルチェックにおける検査項目
第13回	F.内科的メディカルチェック (4)運動負荷試験の目的と方法 (5)運動負荷試験の実際 (6)運動負荷試験結果の判定基準
第14回	G.ドーピングコントロール (1)アンチドーピングの目的 (2)ドーピングの定義 (3)禁止される物質の種類
第15回	G.ドーピングコントロール (4)注意すべき市販薬 (5)事前申告を必要とする薬物 (6)ドーピングコントロールステーション同伴時の留意事項

授業外学習

学習時間の目安：60時間

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻～第2巻を購入して予習しておくこと。

復習として、課題レポートを毎回（15回）提出する。

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 健康管理とスポーツ医学（公益財団法人日本スポーツ協会）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻～第9巻（公益財団法人日本スポーツ協会）

備考

スポーツ社会学 (35657)

後期

Sports Sociology

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	高藤順

授業の概要

現代社会においてスポーツは、人々の生活において欠かせないものとなっており、社会の様々な領域で領域独自の社会的機能を果たすことを養成されている。その意味で現代におけるスポーツは極めて多様化・複雑化しており、スポーツを多面的かつ系統的に理解しなければならない。本講義では、スポーツをの多面的な領域から言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じる。

到達目標

スポーツを取り巻く様々な社会との関係性を理解し、それらの知識をベースに将来的にスポーツとの関わりを実践することを目的とする。

評価方法

毎回の小レポート (30%) 中間レポート (30%) 最終レポート (40%) 評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。

注意事項

パワーポイントの資料は配布しないので、各自ノートまたはルーズリーフ等を必ず持参すること。授業の取り組みについては、厳しく指導する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション スポーツ社会学とは！？
- 第2回 スポーツの概念
- 第3回 文化としてのスポーツ
- 第4回 スポーツと政治
- 第5回 スポーツと経済
- 第6回 地域社会におけるスポーツ
- 第7回 スポーツと薬物
- 第8回 スポーツと企業
- 第9回 スポーツと人権
- 第10回 障がい者とスポーツ (1)
- 第11回 障がい者とスポーツ (2)
- 第12回 スポーツと法制度
- 第13回 スポーツと健康
- 第14回 スポーツと教育
- 第15回 最終レポート

授業外学習

学習時間目安：合計60時間

毎授業後に次回テーマを提示するので予習を行うこと。また、評価のために実施した小レポートの内容を各自のノートに整理して復習すること。

教科書

授業中に指示する

参考書

授業中に指示する

備考

スポーツ指導論 I (35106)

前期

Sports Guidance I

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 荒木直彦

授業の概要

中学校ならびに高等学校保健体育教員や財団法人日本体育協会の設ける公認スポーツ指導者、そして各種スポーツ、学校課外活動やスポーツにおける快適なスポーツライフ構築を担う指導者を養成を目的としている。

到達目標

学校課外活動における指導、各種競技種目のコーチング方法を習得する。

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)・レポート(40%)・小テスト(40%)により評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

スポーツ指導者とはI (指導者の役割、心構えと視点)

スポーツ指導者とはII (上手な誉め方・叱り方、アドバイスの方法)

スポーツ指導者とはIII (選手育成プログラムの理念)

指導計画の立て方

指導計画と安全管理

スポーツ事故に対する安全管理と指導者の法的責任

スポーツと人権

スポーツと心

コーチングの心理 (運動意欲の構成要素)

コーチングの心理 (スポーツにおける動機付け、トレーニングと心理)

コーチングの心理 (指導現場での心理相談)

指導現場でのスポーツと栄養 (栄養素の役割と所要量)

指導現場でのスポーツと栄養 (スポーツ活動と栄養、水分補給の重要性)

アスリートの栄養摂取と食生活 (競技者のトレーニングと食事)

アスリートの栄養摂取と食生活 (サプリメントについて)

授業外学習

各回に学んだ内容とに関する復習 (2時間)

講義毎に紹介されるトピックに関連した文化人類学的内容をよく復習する。(2時間)

レポート作成 (5時間)

教科書

公認スポーツ指導者育成テキスト I

公認スポーツ指導者育成テキスト II

参考書

公認スポーツ指導者育成テキスト III

備考

スポーツ指導論Ⅱ (35354)

後期

Sports Guidance Ⅱ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 荒木直彦

授業の概要

社会的需要に対応できる高いスキルを備えたスポーツ指導者を育成する。スポーツ指導論Iで学んだ内容を発展させ、性差、年齢による要望、そしてトップアスリート育成等に関する高度な指導方法について学ぶ。

到達目標

トップアスリート育成における指導者の指導方法を習得する。

評価方法

授業に取り組む姿勢 (20%) ・レポート (40%) ・試験 (40%) により評価する。

注意事項

特に無し。

授業計画

- 指導者の役割I (競技者との望ましい関係) (荒木)
- 指導者の役割II (競技者の自立と自律、ミーティングとは) (川上)
- 指導者の役割III (効果的なミーティングの方法) (荒木)
- 指導者の役割IV (長期的視野に立った競技者育成) (川上)
- メンタルマネジメントI (プレッシャー、あがり) (荒木)
- メンタルマネジメントII (メンタルトレーニング) (荒木)
- メンタルマネジメントIII (スランプとは、試合に向けての心理的準備) (荒木)
- 指導者のメンタルマネジメントI (リーダーシップ) (荒木)
- 指導者のメンタルマネジメントII (指導者のメンタルマネジメント) (荒木)
- スポーツによる精神障害と対策 (川上)
- 競技者育成のための指導法I (指導効果の評価、評価方法) (川上)
- 競技者育成のための指導法II (競技者育成システム) (川上)
- 競技者育成のための指導法III (指導計画の重要ポイント) (川上)
- 競技者育成のための指導法IV (集団とコミュニケーション構造・役割構造) (川上)
- 競技者育成のための指導法V (リーダーシップと凝集性、チームマネジメント) (荒木・川上)

授業外学習

- 学習時間の目安：合計60時間
- 各回に学んだことを復習し、まとめる。
- レポートの作成 (3題)
- 指導計画表などの文献調査等

教科書

- 公認スポーツ指導者育成テキストⅡ
- 公認スポーツ指導者育成テキストⅢ

参考書

- 公認スポーツ指導者育成テキストⅠ

備考

スポーツトレーニング理論 (35307)

前期

Theory of Sports Training

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	猪木原孝二 荒木直彦 枝松千尋 椎葉大輔

授業の概要

各種身体運動の基礎知識を理解させると同時に、スポーツの基本的なトレーニングとして筋力及び持久力を向上させるトレーニング理論について学習させる。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、小テスト、レポート等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

効率的なトレーニング方法及び指導方法についての知識を習得する。

評価方法

小テスト及び授業に取り組む姿勢60%、レポート40%で評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本講義は、専門的な知識を習得させるためにオムニバス方式で行う。したがって、欠席しないことが条件である。

授業計画

回数	内容
第1回	体力とトレーニング (猪木原)
第2回	トレーニングの原理・原則と種類 (猪木原)
第3回	運動器の仕組みと働き (猪木原)
第4回	トレーニング効果 1 (運動器の適応) (枝松)
第5回	トレーニング効果 2 (呼吸循環器の適応) (枝松)
第6回	運動様式とエネルギー供給経路 1 (無酸素的エネルギー供給) (枝松)
第7回	運動様式とエネルギー供給経路 2 (有酸素的エネルギー供給) (枝松)
第8回	トレーニングの計画および実施 1 (椎葉)
第9回	トレーニングの計画および実施 2 (椎葉)
第10回	トレーニングの計画および実施 3 (椎葉)
第11回	トレーニングの計画および実施 4 (椎葉)
第12回	トレーニングの計画および実施 5 (荒木)
第13回	体力テストの計画・実施・評価 (1) (荒木)
第14回	体力テストの計画・実施・評価 (2) (荒木)
第15回	体力テストの計画・実施・評価 (3) (荒木)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

小テストを実施するので、講義の復習を毎回必ず行うこと。

教科書

講義中に指示する。

参考書

講義中に指示する。

備考

スポーツ指導者基礎 (35153)

後期

Basic lecture of Sports instructor

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

スポーツ指導者には対象の年齢や性別、あるいは体力的特性や技術習熟度などを考慮した上で、適切な指導法を選択することが求められる。本授業では、スポーツ指導者に共通して必要な基礎知識として、スポーツ医学の基礎・各年齢におけるスポーツ活動・スポーツ技術獲得などに関する知識を学ぶとともに、指導対象者の特性を学ぶ。【アクティブラーニング】授業内でテーマに関する「受講者自身の被指導経験」等について、発言する機会を設定する。【フィードバック】小テスト終了後、全体への解説および個別対応を行う。

到達目標

- 1 「スポーツ活動に起因して起こる怪我や疾患の基本的なメカニズムを説明できる」
- 2 「年齢や性別に応じた特性やスポーツ活動・指導に関して考慮すべき点について説明できる」
- 3 「自身の経験（体験）と先行報告との差異を考察し、その理由について自らの考えを提示できる」

評価方法

試験 95% (到達目標1, 2), 授業に取り組む姿勢 5%(授業内の発言や意見表示など, 到達目標3)・により評価する。

注意事項

1講義1テーマで授業を進めるので、授業ごとの予習・復習が特に重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツと健康
第2回	スポーツ活動中の外傷・障害と対処
第3回	スポーツ活動中の内科的障害と対処
第4回	救急処置
第5回	発育発達期の身体的・心理的特徴
第6回	発育発達期に多い外傷や内科的障害
第7回	発育発達期のスポーツ活動
第8回	中高齢者とスポーツ活動（加齢に伴う形態・体力の変化と運動の効果）
第9回	女性とスポーツ活動（女性の身体的・心理的特徴とスポーツ活動）
第10回	中高齢者・女性とスポーツ活動（基本的な運動プログラム）
第11回	スポーツバイオメカニクスの基礎I（良い動きのバイオメカニクスの原則）
第12回	スポーツバイオメカニクスの基礎II（各種スキルのバイオメカニクス）
第13回	スキルの獲得とその獲得過程I（スキルの獲得と停滞）
第14回	スキルの獲得とその獲得過程II（スキル獲得における指導者の役割）
第15回	競技スポーツとIT

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎授業で授業外学習課題を出す。課題について、復習および先行報告等を検索し、次回授業で発言できるよう、準備すること（2時間）。また、授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので、予習を行うこと（2時間）。

教科書

講義中に指示する。

参考書

講義中に紹介する。

備考

アスレティックトレーナー概論 (35151)

後期

Introduction to Athletic Trainer

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

本講義では、スポーツ環境におけるアスレティックトレーナー(AT)の役割とその業務を具体的に示し、ATの歴史的背景および諸外国の状況を理解する。ATの組織的な活動と運営管理について学び、コーチ・スポーツドクターなど様々な分野の専門家と互いに連携を持って選手をサポートしていくかなどATが現場で活動する上で必要な知識を養う。また、ATに必要な社会的秩序や倫理観を身につける。

到達目標

本講義の到達目標

- 1 アスレティック・トレーナー(AT)の役割とその業務を具体的に示し、ATの歴史的背景および諸外国の状況を理解し説明できる。
- 2 コーチ・スポーツドクターなど医科学スタッフと連携をとり、どのように選手をサポートしていくかなどATが現場で活動する上で必要な知識を理解し説明できる。
- 3 スポーツ環境におけるATの組織的な活動と運営管理について説明できる。
- 4 ATに必要な社会的秩序や倫理観を理解し身につけることができる。

評価方法

学期内テスト50%、学期内クイズ20%、レポート提出・授業に取り組む姿勢30%で、総合的に評価する。

注意事項

遅刻・欠席をしないこと。

授業計画

オリエンテーション

アスレティックトレーナー(AT)とは(日体協公認ATの定義・制度・養成事業)

世界と日本のトレーナー(歴史と現在)

ATの任務と役割

ATの業務(スポーツ外傷・傷害の予防について)

ATの業務(スポーツ現場における救急処置について)

ATの業務(アスレティック・リハビリテーションについて)

ATの業務(コンディショニングについて)

ATの業務(測定と評価について・健康管理と教育的指導について)

ATの業務(健康管理と教育的指導について)

コーチ・スポーツドクターとの連携・協力

アスレティックトレーナーの組織と運営

健康管理と組織運営(データの収集と管理・違法行為・危機管理)

ATの倫理(社会的な立場と貢献・倫理規定)

まとめ

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

- ・各回課題を出すので、教科書を参考に各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1

参考書

講義用の資料を配布する。

備考

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	村上妃斗美

授業の概要

スポーツの心理的効果や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広くシステムティックに取り上げ解説する。古くから「心」の問題は人間の主要なテーマとして宗教などで取り上げられてきたが、近代に入り、心理学が発生するに及んで、「心」の問題は科学として地位を確立し急速に発展した。スポーツにおいても古くから「心・技・体」と称されるように、「心」と「体」の調和が高いパフォーマンスを成立させるという考えがあった。1960年代以降スポーツ心理学が発生すると共に近年ではより明確に「心」と「体」の有機的統一の重要性が明らかにされてきている。本講義ではスポーツを実施するに際していかなる心理状態を保持することが重要か、またより高いパフォーマンスを発揮するためにはいかなる心理的準備が必要かについて、世界のトップレベルの選手の事例を引きながら解説すると共に、様々なスポーツ場面や指導場面において、スポーツ心理学が具体的にどのように応用されていくかについて学習する。また、これらの知見を自身のスポーツ活動と照らし合わせると共に、今後、体育・スポーツの指導者として活かせることを目的とする。

到達目標

- ・スポーツ心理学の基礎的知識を理解する。
- ・体育・スポーツ場面における心理学的現象を理解する。
- ・これらの知見を、体育・スポーツ指導においてどのように実践的に取り入れていくかについて理解する。

評価方法

定期試験（60％）、課題レポート等（20％）、授業に取り組む態度・姿勢（20％）により総合的に評価する。

注意事項

スポーツ活動や実戦経験を基礎としてスポーツ科学的予習復習を行うこと。自身の運動・スポーツ活動や指導に活かしていくことを目的としているため、高い目的意識と積極的な授業参加が要求される。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツとは
第2回	スポーツ心理学の歴史的発展
第3回	スポーツと認知・反応
第4回	競技スポーツの心理学Ⅰ
第5回	競技スポーツの心理学Ⅱ
第6回	スポーツとモチベーション
第7回	スポーツと発達
第8回	発達段階に応じたスポーツの心理的特徴
第9回	スポーツ技能の指導
第10回	スポーツとパーソナリティ
第11回	健康スポーツ心理学
第12回	体育心理学
第13回	アダプテッドスポーツ心理学

回数	内容
第14回	これからのスポーツ心理学
第15回	総復習

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

配布したプリントをよく読んで復習しておくこと。

教科書

プリント（資料）を配布する。

参考書

「スポーツメンタルトレーニング教本」日本スポーツ心理学会編著（大修館書店）

「教養としてのスポーツ心理学」徳永幹雄編著（大修館書店）

「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信編著（大修館書店）

備考

運動負荷試験（実習含む）（35255）

後期

Cardiopulmonary Exercise Test(Include Practice)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	椎葉大輔 吉田悦男

授業の概要

本講義は、健康運動指導者に必須となる専門的知識である運動負荷試験の意義と手法を身につける事を目的とする。具体的には、運動生理学の基礎理論、運動に対する生理学的諸指標の応答と実際などを取り上げ、運動制限の要因となる疾病の病態生理、運動負荷テストのプロトコールを提示し、被験者への評価、判定などの分析、考察について学ぶ。【アクティブラーニング】機器などを用いた負荷テスト（実習）によって血圧および心電図などの読み取り、判断する能力を養成する。【フィードバック】測定結果を元に、先行報告を交え運動負荷による生体の応答について、解説・指導する。

到達目標

- 「運動負荷試験の意義について理解し説明できる」
- 「各種運動負荷試験の手法を習得し実施できる」
- 「運動負荷試験における禁忌、エンドポイント設定などを理解し、安全な運動負荷試験の方法を理解・説明および実施できる」

評価方法

小テスト50%（到達目標1, 3）、授業内（実習）評価30%（到達目標2, 3）およびレポート20%（到達目標1, 3）で総合的に評価する。

注意事項

本講義は、運動負荷テストを理論（評価・判断）と実習（機器操作）の両面から学ぶ授業であることから、機器の使用法の習得や手技の習熟度も評価対象となる。これらが授業時間内で十分に習得できない場合は、教員に相談の上、授業時間外でトレーニングを行うこと。

授業計画

回数	内容
第1回	運動負荷試験とは（吉田）
第2回	健診の意義と重要性（吉田）
第3回	メディカルチェックとインフォームドコンセント（吉田）
第4回	心拍数と血圧の測定法（椎葉）
第5回	安静時の心電図の計測と読み方（吉田 椎葉）
第6回	運動時の心電図の計測と読み方（吉田 椎葉）
第7回	運動負荷試験1（運動中の心拍数・心電図）（吉田 椎葉）
第8回	運動負荷試験2（運動中の血圧）（吉田 椎葉）
第9回	安静時の基礎代謝（椎葉）
第10回	運動負荷を加えたときの酸素摂取量（椎葉 枝松）
第11回	最大運動時の心拍と酸素摂取量（1）（椎葉 枝松）
第12回	最大運動時の心拍と酸素摂取量（2）（椎葉 枝松）
第13回	運動に対する生理応答と被験者特性（服薬者）（吉田）
第14回	運動に対する生理応答と被験者特性（高齢者）（椎葉）

回数	内容
第15回	まとめ (吉田 椎葉)

授業外学習

毎授業で授業外学習課題を出す。課題について、復習および先行報告等を検索し、次回授業で発表できるよう、準備すること（2時間）。また、授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので、予習を行うこと（2時間）。

教科書

運動処方指針|日本体力医学会体力科学編集委員会|南江堂|978-4-524-26216-8

参考書

講義中に紹介する。

備考

テーピング理論（実習含む）（35509）

前期

Theory of Taping

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

スポーツ場面におけるケガや傷害に対する予防及び処置の仕方について理解する。
また、実習を通してテーピングおよびアイシングを用いた対処法を学び、コンディショニングづくりをサポートできる能力を高める。

到達目標

- 1 スポーツ場面でのケガや傷害の原因、発症しやすい部位を理解し説明できる。
- 2 各部位へのテーピングによる対処法を行うことができる。
- 3 ケガや傷害に対する予防法を説明できる。

評価方法

学期内テスト50%、実技試験30%、小テスト数回20%、で総合的に評価する。

注意事項

実習を含むため、スポーツウエアなどの服装が好ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	テーピングの定義・目的、有効性、注意点
第2回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際1（足部・足関節）
第3回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際2（下腿）
第4回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際3（膝関節）
第5回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際4（大腿・股関節）
第6回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際5（体幹[腰部・胸部]
第7回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際6（肩部[肩鎖関節・肩関節]
第8回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際7（肘関節）
第9回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際8（手関節・指関節）
第10回	疲労回復のためのアイシングの方法と実際1
第11回	疲労回復のためのアイシングの方法と実際2
第12回	疲労回復のためのアクアコンディショニングの方法と実際
第13回	競技種目とテーピング・アイシング1（冬季競技、記録競技、採点競技）
第14回	競技種目とテーピング・アイシング2（球技競技、格技）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・講義の前に必ず予習をし、各回に学んだことを復習しておくこと。

教科書

基礎から学ぶ！スポーツテーピング 令和版 高橋仁編著 ベースボールマガジン社 ISBN978-4-583-10140-8C2075

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

スポーツコンディショニング理論 (35459)

後期

Theory of Sports Conditioning

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

コンディショニングの概念を理解し、アスリートが最高のパフォーマンスで競技に臨むための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえて学ぶ。また、傷害予防のためのアプローチおよび環境づくりについて学ぶ。

到達目標

競技力向上を目的としたコンディショニング方法を理解・習得し指導できる。また、傷害予防の観点からスポーツ環境整備の推進ができる。

評価方法

学期内テスト20%、レポート提出・小テスト50%、授業に取り組む姿勢30%で総合的に評価する。

注意事項

実技があるので、動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	コンディショニングの把握と管理1 (コンディショニングとは)
第2回	コンディショニングの把握と管理2 (コンディショニングの3因子: 身体的因子・環境的因子・心因的因子)
第3回	コンディショニングの把握と管理3 (コンディショニングの評価方法)
第4回	コンディショニングの把握と管理4 (トレーニング計画とコンディショニング)
第5回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法1 (代謝系・筋力トレーニング)
第6回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法2 (コーディネーション・スタビリティ・アジリティトレーニング)
第7回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法3 (スプリントと持久性トレーニング)
第8回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法4 (サーキットトレーニング)
第9回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際1 (代謝系・筋力トレーニング)
第10回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際2 (コーディネーション・スタビリティ・アジリティトレーニング)
第11回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際3 (スプリントと持久性トレーニング)
第12回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際4 (サーキットトレーニング)
第13回	競技種目特性とコンディショニング1 (冬季競技・記録競技・採点競技)
第14回	競技種目特性とコンディショニング2 (球技系競技)
第15回	競技種目特性とコンディショニング3 (格技)

授業外学習

学習時間の目安: 合計60時間

・各回の講義にて学習したコンディショニングに対し必ず復習し、次回講義の予習をしておくこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

アスレティックリハビリテーション理論 (35460)

後期

Theory of Athletic Rehabilitation

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	吉田俊明

授業の概要

本講義では、アスレティックリハビリテーションの概念と定義、および概要を理解するとともに、アスレティックリハビリテーションで用いる各種エクササイズ・物理療法・補装具に関する基礎知識の習得を目的とする。

到達目標

対象者に適切なエクササイズができる基礎知識と、各種エクササイズ、物理療法、補装具に関する知識を習得し実践できる。

評価方法

期末試験60%、講義に取り組む姿勢・小テスト40%

注意事項

アスレティックリハビリテーション実習につながるので、復習し理解すること。

授業計画

回数	内容
第1回	アスレティックリハビリテーションの定義と概要
第2回	機能評価の考え方とリスク管理の基礎知識
第3回	アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的
第4回	筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識
第5回	関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識
第6回	神経筋協調性回復、向上エクササイズ
第7回	全身持久力回復、向上エクササイズ
第8回	身体組成の管理に用いるエクササイズ
第9回	再発予防、外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ
第10回	物理療法学概論
第11回	温熱療法と寒冷療法
第12回	電気刺激療法と超音波療法
第13回	鍼、灸、マッサージの有効利用方法
第14回	補装具の使用目的と装具
第15回	テーピングと足底挿板

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 各回の講義内容を確認し、参考書から専門知識の理解と内容の把握をしておくこと。
- 各回の講義終了後に、学んだことを復習し理解しておくこと。

教科書

適宜紹介する。 必要なプリントを配布する。

参考書

公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション

備考

アスレティックリハビリテーション実習 (35412)

前期

Practice of Athletic Rehabilitation

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	吉田俊明

授業の概要

本講義では、アスレティックリハビリテーション論・体力測定法・バイオメカニクス演習で学んだ知識を統合し、各スポーツ外傷・障害に対して、アスレティックリハビリテーションの指導ができる知識と技術の習得を目的とする。

到達目標

選定したスポーツ外傷・障害に対して、測定・評価を行い、アスレティックリハビリテーションのメニュー立案、説明、デモンストレーション、と現場での予防方法の実技指導ができる。

評価方法

期末評価50%、実技30%、授業に取り組む姿勢20%で総合的に評価する。

注意事項

実技を行うので動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション
第2回	腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション
第3回	肩関節前方脱臼と投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション
第4回	外傷性肘MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション
第5回	上腕骨内側・外側上顆炎・非外傷性肘MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション
第6回	足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション
第7回	膝内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
第8回	膝前十字靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
第9回	大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション
第10回	扁平足障害（過回内足障害）へのアスレティックリハビリテーション
第11回	脛骨過労性骨障害へのアスレティックリハビリテーション
第12回	鵞足炎へのアスレティックリハビリテーション
第13回	膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション
第14回	アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性
第15回	競技種目における動作特性と体力特性

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・各回の実習内容を整理し、注意点、アスレティックリハビリテーションのポイントを確認すること。
 - ・毎回の実習についてよく復習しておくこと。
-

教科書

適宜紹介する。必要なプリントを配布する。

参考書

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション

備考

アスレティックトレーナー実習 I (35308)

前期

Practice of Athletic Trainer I

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につけることができる。

【実務経験のある教員による授業科目】現・アスレティックトレーナー（富山県ホッケー協会など）：アスレティックトレーナーとしての実務経験を有する教員が、現場における実務を体験しながら、知識と技術を習得させ、現場において安全に業務を遂行できる能力を身につけることができるよう指導する。

評価方法

実習態度40%、総合筆記テスト20%、基本的実技能力40%で総合的に評価する。

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなることがあっても漏えいしてはいけない。個人情報を含め、様々な情報の守秘義務に違反した場合、実習を即刻中止する。

また、現場実習日誌は、実習当日に正確に記入し、指導員の押印をもらうこと。事後報告は認められないので注意すること。

アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・見学実習30時間
- ・検査・測定及び評価に関する実習とアスレティックリハビリテーションプログラム作成に関する実習を合わせて30時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・現場、実習先で業務を円滑に遂行できるよう、毎回の実習前に提示する実習内容の予習と復習は必ず行うこと。
- ・各回の実習後、問題点を整理しておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト(1)～(9)全巻

参考書

適宜紹介する

備考

アスレティックトレーナー実習Ⅱ（35655）

後期

Practice of Athletic Trainer Ⅱ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につける。

評価方法

実習態度40%、総合筆記テスト20%、基本的実技能力40%で総合的に評価する。

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなるがあっても漏えいしてはいけない。個人情報を含め、様々な情報の守秘義務に違反した場合、実習を即刻中止する。

また、現場実習日誌は、実習当日に正確に記入し、指導員の押印をもらうこと。事後報告は認められないので注意すること。アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・スポーツ現場実習30時間
- ・アスレティックリハビリテーションプログラム作成に関する実習を合わせて30時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・現場、実習先で業務を円滑に遂行できるよう、毎回の実習前に提示する実習内容の予習と復習は必ず行うこと。
- ・各回の実習後、問題点を整理しておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト(1)～(9)全巻

参考書

適宜紹介する

備考

アスレティックトレーナー実習Ⅲ（35610）

通年

Practice of Athletic Trainer Ⅲ

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	吉田俊明

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につけ実践できる。

評価方法

実習態度50%、基本的実技能力25%、ATとしての総合力25%

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなることがあっても漏えいしてはいけない。必要によっては、実習を即刻中止する。アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・検査・測定および評価とスポーツ現場実習
- ・アスレティックリハビリテーションメニューの立案、説明、デモンストレーションと実技指導
- ・現場での総合実習を組み合わせ60時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・各回の現場実習での体験をもとに、現場に必要な知識と方法を確認し、他のアプローチの仕方も考える。
- ・各回の実習後、復習し理解しておくこと。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

Training Science

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

健康の保持・増進、競技力向上に必要なトレーニングに関する概念、及びそれぞれの科学的基礎、各種トレーニング方法について学習し、トレーニングが生体に与える効果と影響について理解する。

到達目標

各種トレーニング方法と負荷強度と生体の関係についての基礎知識を習得する。

評価方法

テスト（60%）とレポート（20%）、及び授業態度（20%）での総合評価

注意事項

日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得に関連する科目

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	トレーニングの基礎的概念
第3回	トレーニングと健康
第4回	競技力向上のためのトレーニング
第5回	障害予防のためのトレーニング
第6回	トレーニングによる生体反応
第7回	トレーニングの種類
第8回	トレーニングの方法
第9回	トレーニングの評価
第10回	トレーニングと老化
第11回	トレーニングと性差
第12回	トレーニングと栄養
第13回	トレーニングと疾患
第14回	まとめ1
第15回	まとめ2

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（予習・復習、及び資料や文献等の検索。課題レポートの作成）

日本体育協会公認スポーツ指導者資格に対応した各種トレーニング方法や負荷強度、性差や年齢に関する文献等を調べる。

また、単元ごとにエッセイ、レポートを作成する。

教科書

資料を配布。

参考書

日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ
その他講義中に指示する。

備考

バイオメカニクス (35206)

前期

Biomechanics

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	2.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、小テスト、レポート等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 「解剖学・力学の基礎を身につける」
- 「スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける」

評価方法

授業に取り組む姿勢と小テスト40%（到達目標1を評価）、定期試験60%（到達目標1, 2を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・電卓を持参すること。
- ・バイオメカニクス演習の基礎になる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	身体のバイオメカニクスの特性と動作解析へのアプローチ法
第3回	身体重心（慣性質量と慣性モーメント）
第4回	加速度・速度・変位
第5回	力
第6回	運動量と力積
第7回	投射体の運動
第8回	力学的エネルギー・仕事・パワー
第9回	力のモーメントと角運動量
第10回	関節トルク
第11回	流体力学（空気・水の力とスポーツ）
第12回	スキルのバイオメカニクス（1）
第13回	スキルのバイオメカニクス（2）
第14回	スキルのバイオメカニクス（3）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 毎回、練習問題を出題するので復習を十分に行うこと（特に計算問題）（60分以上）。
- ・ 人体解剖学に関する小テストを毎回行うので十分に予習しておくこと（30分以上）。

教科書

スポーツバイオメカニクス 20項 | 阿江 通良・藤井 範久 | 朝倉書店 | 978-4-254-69040-8

参考書

プリント等配布

備考

体力測定法（実習含む）（35407）

前期

Measurement and Assessment of Physical Fitness

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

運動機能、運動能力、そして運動技能について、測定・評価方法を学び実習する。実習のデータ処理、分析、推定値などの統計処理及びデータの妥当性・客観性を検定する技能を習得する。

到達目標

講義では評価の意義と考え方、測定・評価方法等を理解し、実習ではその内容を実践できるようになる。

評価方法

課題レポート20%、測定報告20%、学期内テスト60%により評価する。

注意事項

- ・講義は、データの収集及び処理があるので欠席をしないこと。
- ・実際に測定、実技を行うので動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	トレーナーによる身体機能・体力評価の目的と意義および役割
第2回	身体機能の評価プロセスと検査測定
第3回	形態の計測方法（周囲径計測、身体組成の測定、キャリパー）
第4回	姿勢・身体アライメントの計測方法
第5回	関節可動域の計測方法I（目的と意義）
第6回	関節可動域の計測方法II（具体的方法）
第7回	徒手筋力検査法I（筋萎縮と筋肥大の観察）
第8回	徒手筋力検査法II（具体的方法）
第9回	一般的な体力測定法I（文部科学省体力テスト）
第10回	中高齢者の体力測定法I
第11回	中高齢者の体力測定法II
第12回	高齢者の体力測定法I
第13回	高齢者の体力測定法II
第14回	介護予防に関連する体力測定法
第15回	データ処理と評価方法

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・各回の講義に対し予習と復習を必ず行うこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5

日本スポーツ協会体カテストの方法と活用

備考

ストレッチング理論（実習含む）（35505）

前期

Theory of Stretching

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	山野力

授業の概要

スポーツ場面におけるコンディショニングとして、傷害予防を目的としたストレッチと疲労回復を目的としたマッサージ、およびウォーミングアップ・クーリングダウンについて定義と方法を学び、実践を通して技術を習得する。また、コンディショニングを評価するための各種評価方法について学び、技術を習得する。

【実務経験のある教員による授業科目】現・アスレティックトレーナー（富山県ホッケー協会など）：アスレティックトレーナーとしての実務経験を有する教員が、アスレティックトレーナーの専門科目を学習していく上で、必須であるコンディショニングについて講義を行う。また、実習を通してコンディショニングの方法と実際、各種評価方法を指導する。

到達目標

コンディショニングとしてのストレッチ・マッサージ・ウォーミングアップ・クーリングダウンの定義・方法を理解し技術を習得するとともに、指導及び教育ができるようになる。

評価方法

学期内テスト40%、実技試験20%、授業に取り組む姿勢40%で総合的に評価する。

注意事項

- ・各回に行うストレッチングやスポーツマッサージに必要な、筋肉の起始・停止をしっかりと復習して授業にのぞむこと。
- ・実技を行うので、動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ストレッチング・スポーツマッサージの定義・目的、有効性、注意点
第2回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際1（下肢）
第3回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際2（体幹）
第4回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際3（上肢）
第5回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際1（下肢）
第6回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際2（体幹）
第7回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際3（上肢）
第8回	ウォーミングアップの定義・目的、有効性、注意点、方法
第9回	クーリングダウンの定義・目的、有効性、注意点、方法
第10回	フィールドテストの方法と実際
第11回	フィットネステストの方法と実際
第12回	身体（組成）測定、柔軟性テストの方法と実際
第13回	競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 1（冬季競技・記録競技・採点競技）
第14回	競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 2（球技系競技）

回数 内容

第15回 競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 3 (格技)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

スポーツ障害論 (35411)

前期

Sports Impediment

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	平川宏之

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツ外傷や障害に関する基礎的、一般的、専門的な医学的事項について理解することをねらいとしている。

到達目標

スポーツ外傷や障害に関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。スポーツ障害を予防するトレーニングを行うことができ、指導できる。現場で出くわしたスポーツ外傷や障害に適切に一次対応できる。①整形外科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて理解し、説明できる。②外科的スポーツ外傷・障害の基礎知識について理解し、説明できる。③頭部、顔面、頸部のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。④顔面、頸部のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑤上肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑥下肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑦体幹について理解し、説明できる。

評価方法

・評価の比率は、授業に取り組む態度、姿勢20%、レポート・小テスト等80%

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。定期試験の再試はしない。宿題等は毎回出す（予習と復習）。小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（スポーツと健康管理）
第2回	内科的スポーツ障害と予防（1）
第3回	内科的スポーツ障害と予防（2）
第4回	整形外科的メディカルチェック
第5回	外科的スポーツ外傷・障害の基礎知識
第6回	頭部、顔面、頸部のスポーツ外傷・障害
第7回	上肢Ⅰ 肩関節、上腕のスポーツ外傷・障害
第8回	上肢Ⅱ 肘、前腕のスポーツ外傷・障害
第9回	上肢Ⅲ 手のスポーツ外傷・障害
第10回	体幹Ⅰ 脊柱のスポーツ外傷・障害
第11回	体幹Ⅱ 胸部、腹部、骨盤のスポーツ外傷・障害
第12回	下肢Ⅰ 股関節、大腿のスポーツ外傷・障害
第13回	下肢Ⅱ 膝関節、下腿のスポーツ外傷・障害
第14回	下肢Ⅲ 足のスポーツ外傷・障害
第15回	スポーツの種目によるスポーツ外傷・障害とドーピングコントロール

授業外学習

各回の授業開始時に口頭試問を実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと（各2時間）。授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと（各2時間）。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻スポーツ外傷・障害の基礎知識（日本スポーツ協会）、又は、スポーツ指導者のためのスポーツ医学（南江堂）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）、スポーツ外傷学(1)～(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）、スポーツ指導者のためのスポーツ医学（南江堂）

備考

栄養指導論 (35654)

後期

Nutrition Education

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 矢田貝智恵子

授業の概要

人の健康の維持・増進および疾病の予防と治療のためには、日本人の栄養問題を理解し、自分自身が何をどれだけ食べたらよいかを理解した上で、栄養の知識とその実践スキルをどのように対象に伝えていくかの方法論を学ぶことが重要である。さらに、セルフケアと行動変容、習慣化のための基本を学び、個人または集団などの対象別に栄養アセスメントおよび指導ができるようになる。

人間の体のケアに関する知識や技能を身につけ、幅広い教養と豊かな人間性を備えた社会人の育成を目的としている。

到達目標

- 1 日本人の栄養問題を理解し、自分自身が何をどれだけ食べたらよいかを理解する。
- 2 栄養の知識とその実践スキルをどのように対象に伝えていくかの方法論を学び、利用できる。
- 3 セルフケアと行動変容、習慣化のための基本を学び、個人または集団などの対象別に栄養アセスメントおよび指導ができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢10%（到達目標1、2）、レポート30%（到達目標3）、定期試験60%（到達目標1、2）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・前期開講「栄養学概論」の履修を必須とする。
- ・講義の進捗状況により前後することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	栄養指導・栄養教育とは（意義、目的、歴史）
第2回	食生活・栄養摂取の現状と問題点（世界の現状、日本の現状と問題点）
第3回	栄養指導（栄養教育）のため基礎知識（1）行動科学理論の栄養教育への適用
第4回	栄養指導（栄養教育）のため基礎知識（2）行動療法に基づく健康支援の方法
第5回	栄養指導（栄養教育）のため基礎知識（3）食行動の形成と栄養教育
第6回	栄養カウンセリング
第7回	栄養教育マネジメント（1）栄養教育マネジメントの枠組み
第8回	栄養教育マネジメント（2）栄養教育プログラムの作成
第9回	栄養教育マネジメント（3）栄養教育の評価
第10回	食事摂取基準の栄養教育への活用
第11回	ライフステージ・ライフスタイルからみた栄養教育の実際（1）妊娠・授乳期
第12回	ライフステージ・ライフスタイルからみた栄養教育の実際（2）乳幼児期・学童期・思春期
第13回	ライフステージ・ライフスタイルからみた栄養教育の実際（3）成人期
第14回	ライフステージ・ライフスタイルからみた栄養教育の実際（4）高齢期
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各回の授業開始時に確認テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

「エッセンシャル栄養教育論 第3版」・春木敏 編・医歯薬出版春木敏 編・ISBN:978-4-263-70623-7

「新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第5版」・中山玲子、宮崎由子 編・化学同人・ISBN:978-4-7598-1639-6

参考書

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」・田口素子、樋口満著・市村出版・ISBN:978-4-9021-0932-0

「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編修部 編・ISBN:978-4-407-34850-7

その他、適宜紹介する。

備考

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	👤 矢田貝智恵子

授業の概要

スポーツ栄養学は、運動やスポーツにより身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。栄養学概論で習得した内容を基礎とし、競技能力向上だけでなく、健康の保持・増進における食事・栄養摂取の重要性について学ぶとともに、自身の食事・栄養摂取を通して、競技能力の向上や健康増進に意識的に取り組むことができることを目標とする。健康科学分野の専門的知識を学び、人間の体のケアに関する知識や技能を備え、健康生活に貢献できる人材の育成を目的としている。【フィードバック】復習課題および小テストに対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 1 栄養と栄養素の定義、エネルギー代謝、消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割について理解した上で、スポーツ（運動）時における栄養素の役割や体内における代謝について科学的に説明できる。
- 2 スポーツ（運動）時における栄養素の役割や体内における代謝について理解した上で、シーズン、ライフスタイル、障害予防や特殊環境下などにおける栄養ケア（食事法、栄養素・水分補給など）についても説明できる。
- 3 レポート作成によって、自己の食生活を振り返り、改善点を見出すことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢10%（到達目標1、2）、レポート40%（到達目標3）、定期試験50%（到達目標1、2）に基づいて総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・必ずテキストを購入すること。
- ・前期開講の「栄養学概論」履修が必須であり、トレーナーや指導者など、資格の取得を目指す学生を対象とする。
- ・講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツ栄養学とは
第2回	栄養素とエネルギー代謝
第3回	栄養素の摂取（1）三大栄養素
第4回	栄養素の摂取（2）ビタミン・ミネラル
第5回	健康の維持・増進のための運動と栄養素
第6回	スポーツ選手の食事摂取基準
第7回	スポーツ選手の栄養ケア・マネジメント
第8回	スポーツ選手の食事：シーズン別
第9回	スポーツ選手の食事：ライフスタイル別
第10回	スポーツ選手の体づくり
第11回	スポーツ選手の献立作成（課題レポート作成について）
第12回	障害予防と栄養

回数	内容
第13回	熱中症予防と水分補給
第14回	サプリメント摂取の利点と留意点
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 課題に取り組み、前回の授業についてよく復習しておくこと。
- ・ 自身の食事・生活活動調査（3日間）を課題として実施する。また、調査結果を用いて、エネルギー摂取量・エネルギー消費量の算出を行い、レポートを作成する。

教科書

「はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ6 スポーツ・健康栄養学」・赤田 みゆき他著・化学同人・ISBN:978-4-7598-1709-6

参考書

「アスリートの栄養・食事ガイド」・小林 修平著・日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会編集・ISBN:978-4-8041-1299-2

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」・田口素子、樋口満著・市村出版・ISBN:978-4-9021-0932-0

「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編集部・ISBN:978-4-407-34850-7

上記以外の書籍や文献については、適宜紹介する。

備考

体育原理 (35353)

後期

Theory of Physical Education

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	石田博也

授業の概要

体育・スポーツ領域の事象を扱うにあたり、まずはその本質を理解することが必要である。したがって、本講義では「体育」、「スポーツ」、「運動」および「プレイ」の概念・性質を検討したのち、具体的な事象取り上げ考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

到達目標

体育・スポーツについて理解する。

評価方法

定期試験の結果、レポートの提出・内容及び授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。評価は、発表および授業に取り組む態度（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）の割合で行う。

注意事項

授業態度においては厳しく指導します

授業計画

回数	内容
第1回	体育原理とは何か
第2回	体育とは何か
第3回	スポーツとは何か
第4回	運動とは何か
第5回	遊びとは何か
第6回	身体形成とは何か
第7回	健康とは何か
第8回	中間まとめ
第9回	身体と精神との関係
第10回	スポーツと競争
第11回	スポーツと規範
第12回	スポーツと運動文化
第13回	スポーツと経済
第14回	スポーツと政治
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回の授業についてよく予習と復習をしておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

川峯 雄『体育原理』（大修館書店）、中村 敏雄 編著『体育原理講義』（大修館書店）

備考

スポーツ実習 I (陸上) (35405)

前期

Sports Training I (Athletic Sports)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、陸上競技の実習科目であり、基本的な陸上競技種目の特性と技術、競技ルールについて理解させる。また、指導の方法についても学習させる。

【アクティブラーニング】自分たちで技術的にレベルアップするために、お互いのフォームについて指導しあう方法を取り入れている。

【フィードバック】陸上競技のフォームの学習においてICTを用いて、フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 7種の陸上競技ができる。特に、ハードル走(100m)を男子は18秒、女子は23秒、男子1500m走は5分45秒、女子1000m走は4分30秒を基準に、これをクリアすること。
- 指導案に従って、フィールド競技の指導法を身につける。
- 実習が安全でスムーズに行えるように機敏な行動や適切な声かけが実践できる。

評価方法

競技記録7種目40%(到達目標1を評価)と、実習に取り組む姿勢40%(到達目標3を評価)と指導方法20%(到達目標2を評価)で成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教員免許取得を目指す学生を対象とする。(それ以外は基本的には履修を認めない)
- ・最終的には、公認トラックを有する学外施設での実習を行う。(学外の陸上記録会に参加することを目指す)

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション(注意事項と実習方法、準備)
第2回	陸上競技とは(走フォーム、ウォーミングアップとクーリングダウン)
第3回	短距離種目の基本練習(フォームの習得)
第4回	短距離種目の基本練習(スタートとコーナー走)
第5回	短距離種目の基本練習と計測
第6回	ハードル走の基本練習(空中姿勢の習得)
第7回	ハードル走の基本練習(踏み切りと着地・インターバルランニング)
第8回	ハードル走の基本練習と計測
第9回	跳躍種目の基本練習(走り幅跳び)
第10回	投擲種目の基本練習(砲丸投げ)
第11回	投擲種目の基本練習(やり投げ(ジャベリックスロー))
第12回	リレー種目の基本練習と個人課題の練習
第13回	個人課題の練習
第14回	陸上競技会(学外施設利用)

回数	内容
----	----

第15回	まとめ
------	-----

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・到達目標を達成できるようにハードル練習と持久的トレーニング（10km/週以上のジョギング、90分以上）を行うこと。
 - ・予習として各種目のルール、技術のポイントを毎回十分に学習しておくこと（30分）。
 - ・復習として授業で習った種目の技術を毎回十分に反復練習すること（60分）。
 - ・指導の方法については予行演習を十分にしておくこと（60分）。
-

教科書

実習中に指示する。

参考書

実習中に指示する。

備考

スポーツ実習Ⅲ（球技）（35102）

前期

Sports Training Ⅲ (Ball Game)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 荒木直彦  椎葉大輔

授業の概要

保健体育教員、スポーツ指導者として対峙関係を形成する球技から、バスケットボール、フットボール（サッカー、ラグビー）等を中心に高等学校および中学校保健体育学習指導要領にのっとった指導方法、ならびに技術トレーニング方法を実習から学ぶ。

到達目標

- 「球技の指導現場において個人の特性に対応した指導計画の作成および実技指導ができる」
- 「試合の運営など球技大会を想定した運営計画を作成できる」

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)、課題レポート(40%)、実技テスト(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・実習科目なので、欠席をしないこと。
- ・服装（スポーツウエア）、シューズ等を忘れないように用意する。

授業計画

回数	内容
第1回	チーム分けおよびオリエンテーション（荒木、椎葉）
第2回	ラグビーの基本的ルール（椎葉）
第3回	ラグビーのパスについて（椎葉）
第4回	ラグビーのタックルについて（椎葉）
第5回	ラグビーのオフENS（椎葉）
第6回	ラグビーのディフェンス（椎葉）
第7回	ラグビーの戦術と試合展開（椎葉）
第8回	ラグビーのゲームと試合運営（椎葉）
第9回	バスケットボールの基本的ルール（荒木）
第10回	バスケットボールのパスについて（荒木）
第11回	バスケットボールのドリブルとシュートについて（荒木）
第12回	バスケットボールのオフENS、ディフェンス（荒木）
第13回	バスケットボールの戦術と試合展開（荒木）
第14回	バスケットボールのゲームと試合運営（荒木）
第15回	まとめ（荒木、椎葉）

授業外学習

学習時間の目安：30時間

指導方法および技術トレーニング方法について授業毎に学んだことを復習しておくこと。(1時間)

各種メディアやテキスト等からスポーツ指導に係わる進捗状況の把握に努めること。(5時間)

課題レポートを2回提出すること。(10時間)

教科書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅡ

公認スポーツ指導者育成テキストⅢ

中学校・高等学校保健体育教科書

備考

スポーツ実習Ⅳ（武道）（35251）

後期

Sports Training Ⅳ(Martial Art)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	猪木原孝二 大家一

授業の概要

日本古来の武道精神に乗っ取り、柔道の真髄を正しく理解させることを目的として、精神の鍛錬と技の技術を習得させることを教授する。

到達目標

- 実際に相手と組み合い試合ができるまでになる。
- ある程度柔道競技の指導できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（60%）、課題レポート(40%)で評価する。

注意事項

各人が柔道着を個人で用意すること。

武道は危険なので道場以外での技を仕掛けることは禁止する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（猪木原・大家）
第2回	武道精神について（猪木原・大家）
第3回	基本動作 姿勢（猪木原・大家）
第4回	基本動作 礼法（猪木原・大家）
第5回	基本動作 組み方・作りと掛け・崩し（猪木原・大家）
第6回	基本動作 受け身（猪木原・大家）
第7回	基本動作 受け身（猪木原・大家）
第8回	投げ技 手技（猪木原・大家）
第9回	投げ技 腰技（猪木原・大家）
第10回	投げ技 足技（猪木原・大家）
第11回	固め技 抑え技（猪木原・大家）
第12回	固め技 絞技・関節技 レポート「武道精神について(1)」（猪木原・大家）
第13回	乱取り稽古（猪木原・大家）
第14回	乱取り稽古 レポート「武道精神について(2)」（猪木原・大家）
第15回	試合稽古（猪木原・大家）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

その代り試合等がテレビ等で放送されることがあれば観るようになる。

教科書

講義中に指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

スポーツ実習Ⅴ（テニス）（35502）

前期

Sports Training Ⅴ(Tennis)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	石川昌平

授業の概要

テニスは生涯スポーツであり、何歳になっても楽しめるスポーツである。

授業では、基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。

到達目標

テニスの基本技術と応用技術を学び、試合ができることを目標とする。

テニスの楽しさを学ぶ。

評価方法

平常点（100点）

配点内訳：技術点25% レポート等点25% 授業態度50%

注意事項

運動ができる服装、シューズで授業を受けること。

授業計画

第1回 ラケットとボールに慣れる。

第2回～3回 グランドストローク

第4回～5回 ボレー、スマッシュ

第6回 サーブ

第7回 応用技術

第8回 ルール説明、試合の進め方

第9回～10回 シングルス

第11回～12回 ダブルス

第13回～15回 トーナメント、技術テスト

天候により授業の内容は変更する場合がある。

個人の技能に応じてシラバスの内容を変更して指導を行う場合がある。

授業外学習

学習時間の目安：30時間

- ・テニスの専門用語を理解できるように調べておく。
- ・ルールに関する、レポートを提出する。（2回）

教科書

プリントを配布する。

参考書

プリントを配布する。

備考

スポーツ実習VI（体操）（35305）

前期

Sports Training VI(Gymnastics)

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	3年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 梶谷信之  岡井克明

授業の概要

学校教育および生涯スポーツの中で実施されている体操（器械運動）は、身体を制御する能力を高める運動として効果的である。そこで、体操（器械運動）の実施方法や指導方法並びに補助法などを身につけることにより、将来の活動現場において有益な助言・指導が出来る能力の習得を目的とする。

到達目標

体操（器械運動）の実施方法や指導方法並びに補助法などを身につける。

評価方法

毎回のレポート30%、実技試験30%、受講意欲40%（遅刻、服装不良、授業態度不良などは減点とする）

注意事項

- ・本授業は前半15回と後半15回で担当教員が異なる。前半は岡井、後半は梶谷が担当する。前半は倉敷芸術科学大学にて、通常の授業科目と同様に行うが、後半は集中講義で倉敷芸術科学大学もしくは学外にて実施する予定である。（昨年は岡山大学で実施）
- ・授業前に柔軟運動やマット運動・鉄棒運動などに慣れておくと、授業がスムーズにできるし、けがの予防にもなる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（岡井）
第2回	体操の基本運動（準備体操、柔軟、組体操など）（岡井）
第3回	鉄棒運動の基本技術と指導法：上がり技（逆上がりなど）（岡井）
第4回	鉄棒運動の基本技術と指導法：支持回転系の技（前方支持回転など）、足かけ回転系の技（前方膝かけ回転など）（岡井）
第5回	鉄棒運動の基本技術と指導法：下り技（踏み込しりなど）（岡井）
第6回	鉄棒運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第7回	跳び箱運動の基本運動：踏み切り板の使い方と導入の練習方法（岡井）
第8回	跳び箱運動の基本技術とその指導法：切り返し系の跳躍技（開脚跳びなど）（岡井）
第9回	跳び箱運動の基本技術とその指導法：回転系の跳躍技（台上前転跳びなど）（岡井）
第10回	跳び箱運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第11回	マット運動の基本運動：模倣運動と平均立ち技群（バランス、倒立など）（岡井）
第12回	マット運動の基本技術とその指導法：接転技群（前転グループ、後転グループ）（岡井）
第13回	マット運動の基本技術とその指導法：ほん転技群（側方倒立回転など）（岡井）
第14回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習（岡井）
第15回	マット運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第16回	体操の応用運動（梶谷）
第17回	鉄棒運動の応用技術と指導法：上がり技（梶谷）

回数	内容
第18回	鉄棒運動の応用技術と指導法：支持回転系の技、足かけ回転系の技 (梶谷)
第19回	鉄棒運動の応用技術と指導法：下り技 (梶谷)
第20回	鉄棒運動の応用技術の確認：実技試験 (梶谷)
第21回	跳び箱運動の応用運動 (梶谷)
第22回	跳び箱運動の応用技術とその指導法：繰り返し系の跳躍技 (梶谷)
第23回	跳び箱運動の応用技術とその指導法：回転系の跳躍技 (梶谷)
第24回	跳び箱運動の応用技術の確認：実技試験 (梶谷)
第25回	マット運動の応用運動：模倣運動と平均立ち技群 (梶谷)
第26回	マット運動の応用技術とその指導法：接転技群 (梶谷)
第27回	マット運動の応用技術とその指導法：ほん転技群 (梶谷)
第28回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習 1 (梶谷)
第29回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習 2 (梶谷)
第30回	マット運動の応用技術の確認：実技試験 (梶谷)

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

器械運動の実施方法および指導方法をよく自習しておくこと。技の習得や危険防止のために自宅での柔軟運動を実施すること。

教科書

特になし。

参考書

適宜プリント（資料）を配布する。

備考

ウィンタースポーツ実習 (35601)

通年

Winter Sports Training

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	1年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 椎葉大輔  内藤整  加藤敬史  大上偉才

授業の概要

スケートおよびスキー・スノーボードといったウィンタースポーツ技術の向上を図ることで、運動不足になりがちな冬季にできるスポーツの幅を広げ、季節に応じたスポーツ活動の実践と指導ができるようになることを目的に行なう。【フィードバック】実習風景を撮影した映像を受講者とともに視聴し、フォームチェック等の指導を行う。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「健康科学分野の専門的知識・技能を身につける」に対応して、以下の通りとする。

- 「スケートの基本技術を習得すること」
- 「スキー・スノーボードの基本技術を習得すること」
- 「ウィンタースポーツの指導に関する手法および安全対策を含む注意点について、理解し説明できる」

評価方法

実習に取り組む姿勢 50%（到達目標1, 2）、技術点 40%（到達目標1, 2）、レポート10%（到達目標3）で評価する。

注意事項

スキー及びスノーボードは宿泊実習（学外）となる。その際の宿泊費、リフト代、レンタル用具代は個人負担。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（注意事項と実習方法、準備）（椎葉）
第2回	スケーティングの基本練習（1）（大上, 内藤, 加藤, 椎葉）
第3回	スケーティングの基本練習（2）（大上, 内藤, 加藤, 椎葉）
第4回	フィギアスケート（1）（ストローキングとステップ）（大上, 内藤, 加藤, 椎葉）
第5回	フィギアスケート（2）（ダンスとシンクロ）（大上, 内藤, 加藤, 椎葉）
第6回	フィギアスケート（3）（スピン）（大上, 内藤, 加藤, 椎葉）
第7回	スケート技術の評価（スケーティング映像を用いて）（内藤、加藤、椎葉）
第8回	スケートにおける指導案の作成（内藤、加藤、椎葉）
第9回	冬季の運動プログラム作成とその留意点（内藤、加藤、椎葉）
第10回	室内リクリエーション（内藤、加藤、椎葉）
第11回	ウォーキングプログラムの作成（1）ウォーキングコース作成（内藤、加藤、椎葉）
第12回	ウォーキングプログラムの作成（2）コース歩行時の生理応答測定・評価（内藤、加藤、椎葉）
第13回	ジョギングプログラムの作成（1）ジョギングコース作成（内藤、加藤、椎葉）
第14回	ジョギングプログラムの作成（2）コース走行時の生理応答・評価（内藤、加藤、椎葉）
第15回	ウォーキング・ジョギングプログラム資料の作成（内藤、加藤、椎葉）

授業外学習

・スケート・スキー・スノーボードに関する書籍を読むこと（各2時間）。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

フィールドワーク (35603)

前期

Fieldwork

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	2年
対象	24～20W
単位数	2.0単位
担当教員	 加藤敬史  妹尾護  内藤整

授業の概要

私たちの周りの自然環境について、自然の大切さを知ることが目的とする。里山の保護、自然観察、生物と環境の相互の関わり、および水や土壌の汚染などについて、それらの現状を体験することによって深く理解し、それらの調査方法や測定・解析方法を身を以て学び、体得する。

自然保護活動にも参加してもらう。

自然の変動により、内容・担当日が変わることもあり得る。

【アクティブラーニング】フィールドワークを取り入れている。

【フィードバック】課題（レポート等）に対する講評や省察等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1) 里山の自然の成り立ちについて理解し、竹林の整備を行うことの意義を説明できる。2) 資源の採掘が自然環境にどのような影響を与えるのか、含まれる鉱物の種類や、周辺の水質の調査などを通して、理解し説明できる。3) 岡山県の代表的な岩石である石灰岩が作り出す地形と、また、その地形に依存して生きる生物たちによって成り立つ自然環境を理解し説明できる。4) 近代農業のメリットとデメリットを理解し、環境へのインパクトを低減する方策について説明できる。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「健康科学分野の専門的知識・技能を身につける」に対応して、私たちの身近な自然環境についての知識と理解を深めること、自然環境の調査法などを身につけることを目標に設定している。

評価方法

実習中の積極的な活動（作業などの迅速で効率的な実施への協力、グループ内での役割を果たす、実習に対する創意工夫など）を評価する（80%）。実習の報告書・レポート（20%）の割合で評価する。

注意事項

- ・学内の竹林、および学外での実習（土曜日）を行う集中講義形式の授業である。天候によって内容や当初予定していた日時の変更もある。
- ・野外の活動のため、危険を伴う。事前に注意事項は説明するので、各自で責任のある行動が必要となる。
- ・移動手段の都合などから、受講数を制限することもある。
- ・予め実習のための資料をその都度配布する。その内容に関して事前に予習を行っておくこと。

授業計画

第1回 講義の目的、概要（担当：妹尾、内藤、加藤）

第2回～15回 自然観察と竹林整備、春の里山を観察し、竹林の役割、利用、維持管理について体験する。（担当：妹尾、内藤、加藤）

第16回～20回 鉱山跡地の自然観察と水質調査。（担当：妹尾、加藤）

第21回～25回 石灰岩地帯の自然観察。（担当：妹尾、加藤）

第26回～29回 環境保全型農業体験。（担当：内藤）

第30回 まとめ

【学外実習】第1回・30回は座学、第2回～15回は校地内での活動、第10回～29回は学外で行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

各野外実習で、事前に資料を配付するので予習を行う（2時間×6回）。また各回の報告書を作成し提出する（3時間×6回）。

教科書

その都度、必要に応じ、プリント、資料を配布する。

参考書

必要に応じ、適宜紹介する。

備考

卒業研究（35609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	6.0単位
担当教員	内藤整

授業の概要

豊かで健康な人間生活のために必要な食料や生活資材となる作物の安定した生産を可能にするための研究を行う。植物の生理・生態やそれに関連する形態的特徴の解明、栽培法の構築を目的として各自が取り上げたテーマについて研究を行う。

【アクティブラーニング】研究成果については学科で行う卒業論文発表会でプレゼンテーションを行う。

到達目標

- 1.自ら設定した課題に答えを出し、新たな知を創出できる。
- 2.得られた新しい知見を分かりやすく説明できる。

評価方法

卒業研究論文の内容70%（到達目標1を評価）、研究態度10%（到達目標1を評価）、卒論要旨ならびにプレゼンテーションの内容20%（到達目標2を評価）によって評価する。

注意事項

- ・研究に使用する器具・薬品には危険なものもある。真剣な態度で取り組むこと。
- ・実験には生物（植物）を用いるので、日々の管理が必要である。
- ・研究の内容によっては、市内の農地を実験場所とする場合がある。
- ・栽培学、栽培学実習を履修しておくことが望ましい。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション
- ・機器操作、文献講読
- ・研究テーマの選択（以下に示す5つの研究内容から）
 1. 植物の物質生産機能（光合成、呼吸、蒸散）に関する研究
 2. 環境ストレス条件下での植物の生理機能の解析
 3. ストレス耐性に関わる形態的特徴の解明
 4. 生産性を高める栽培法の確立
 5. その他、植物の利用に関する研究。
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の提出
- ・実験準備
- ・調査・実験・解析

後期

- ・オリエンテーション
- ・調査・実験・解析
- ・データ整理、考察、文献講読
- ・卒業論文作成
- ・卒業論文提出（1月末の平日〆切）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

文献の調査、実験植物の栽培管理、分かりやすい発表のための練習など。

教科書

使用しない。

参考書

日本作物学会紀事、Plant Production Science、Tropical Agriculture and Development、SAGO PALM 他適宜案内する。

備考

卒業研究 (35609)

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	6.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

3年次のゼミナールを継続し、内容を深め調査研究を行い卒業論文を作成する。

到達目標

科学的研究の基本、論文の構成法を説明できる。

評価方法

研究に取り組む姿勢（50%）論文（50%）で評価する。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

まず、自分の興味ある分野から研究テーマを複数挙げる。十分に時間をかけて、それぞれに近い先行研究を調べ新しいテーマであることを確認する。確認できれば、研究テーマとして決定し、研究計画表を作成する。ここまでで教員とのディスカッションを繰り返して行う。決定後は関連論文をすべて読み理解し現状を把握しておく。計画に沿って実験研究を行い、データを取り、考察をする。考察は他グループとともに集団討論をする。まとまったら論文を作成し、また発表スライドを作成する。最後に学科卒論発表会で批評をしていただく。

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

卒業研究 (35609)

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	6.0単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

当研究室では、運動などのストレスが生体に与える影響について、免疫学的観点から検討している。卒業研究では研究テーマに基づいて、生理学・分子生物学的手法を用いた実験を行い、卒業研究としてまとめる。【アクティブラーニング】先行研究などを精査し、研究テーマに関する現状や問題点、明らかではない点などを明らかにする。また生理学および分子生物学的手法を用いて、研究対象を分析を学生が主体的に実施する。さらに実験により得られた結果と先行研究との差異について考察し、論文としてまとめる。【フィードバック】研究進捗発表や論文作成時のディスカッションを行い、研究の遂行に必要な情報を提示する。

到達目標

- 「生理学および分子生物学の基本手法を実施できる」
- 「実験を通じて観察した現象について、論理的に説明できる」
- 「得られた研究結果を先行研究との比較から考察し、論文としてまとめることができる」

評価方法

取り組む姿勢（50%）および論文（50%）により総合的に評価する。

注意事項

生体試料を対象とすることから、規定時間外の実験が行われることがある。

授業計画

<前期>

- ・オリエンテーション
- ・動物実験倫理に関する講義
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画立案
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会

<後期>

- ・オリエンテーション
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会
- ・卒業論文作成
- ・卒業論文提出（1月末の平日㍻切）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

他大学などの研究施設で実験を行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

卒業研究 (35609)

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	6.0単位
担当教員	眞口けい子

授業の概要

鍼灸といっても様々な研究対象があるが、当研究室では(1)社会貢献と鍼灸に関する分野および(2)お灸に関する分野について各自が研究テーマを選択し、調査研究を行い卒業論文を作成する。

到達目標

- (1)自分が取り組むテーマについて、検討、計画、実施、研究ができる。
- (2)取り組んだ研究についての説明・議論ができる。

評価方法

取り組む姿勢40%（到達目標（1）を評価）および研究結果発表・論文作成60%（到達目標（2）を評価）により成績を評価し得点率60%以上を合格とする。

注意事項

取り組む研究によっては、規定時間外に行うこともある。また、複数人一つの研究を行った場合も、論文は各人で書き、提出すること。

授業計画

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週～第5週 研究テーマの検討
- 第6週～第9週 研究テーマの決定と研究計画表作成
- 第10週～第14週 調査、研究
- 第15週～第16週 研究結果報告
- 第17週～第19週 発表スライドの作成、卒業論文作成
- 第20週 卒業論文提出

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

学内外の図書館などを利用し、関連する情報を集めるなど積極的に自己学習を行う。その他、具体的な内容や方法については授業中に詳しく支持する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

卒業研究 (35609)

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科(鍼灸専攻)

年次	4年
対象	23～20W
単位数	6.0単位
担当教員	遠藤宏

授業の概要

研究に共通する基本的な考え方と、知識（探索力）・態度（論理性）・技術（分析力）を習得し、研究結果について、リアリティのある認識をどのように成立させ、どのように公共性のある表現にするかを中心に検討を重ね、研究発表ならびに卒業論文を作成する。

到達目標

1. 研究テーマを検討して決定し研究計画を立てられる。
2. データの収集して分析し研究結果を論理的に考察できる。
3. 研究内容をプレゼンテーションおよび卒業論文に作成できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢(到達目標1)30%、授業外研究(到達目標1)20%、発表および論文(到達目標3)50%などを総合的に評価する。

注意事項

卒業論文作成では、授業外での学習に積極的に取り組むことが必要である。

授業計画

第1週 オリエンテーション

第2週～第5週 研究とはどのようなものかを知り、具体的かつ実行可能な仮説をたてる。（基礎研究・臨床研究・症例報告など）

第6週～第9週 仮説に応じた先行文献を検索（医中誌検索・MEDLINE検索など）して読み、仮説を検証するための研究デザイン（実験研究・横断研究・縦断研究など）を作成する。

第10週～第13週 研究を遂行し、データおよびサンプル（質的データ・量的データなど）を取得する。

第14週～第17週 得られたデータを適切な方法（統計学および生理学・分子生物学による手法など）によって分析する。

第18週～第21週 分析結果を基に理解しやすい文や図表を（OFFICの機能などを用いて）作成する。

第22週～第25週 聴く人に理解しやすい発表方法を学び、研究をプレゼンテーションする。

第26週～第30週 読む人に理解しやすい論文の基本的構成を学び、研究を文章(論文)にまとめる。

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

図書館などを利用し、文献調査、データ収集などを行う。また、施術所への見学治療体験を行う。

論文作成にあたり、下記の○○を自分なりに調べておく。

目的・・・○○を研究しようと考えた。

材料・・・必要なものは○○である。

方法・・・やり方は○○である。

結果・・・○○のようになった。

考察・・・そのわけは、○○だと思う。

結論・・・したがって、○○のようなことが言える。

教科書

適宜案内する。

参考書

適宜案内する。

備考